

工事仕様書

工事名称	木原分団屯所建設工事
工事場所	三原市木原四丁目
工事内容	木原分団屯所の新設を行う。
準 則	公共建築工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編 最新版), 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編 最新版), 建築物解体工事共通仕様書(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 最新版) に基づき 施工する。
関係法令等	この工事に当たっては、次の関係法令その他に基づいて施工する。 ・建築基準法, 同施行令, 同施行規則 ・消防法, 同施行令, 同施行規則 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律, 同施行令, 同施行規則 ・労働安全衛生法, 同施行令, 同施行規則 ・建設工事公衆災害防止対策要綱 ・石綿障害予防規則 ・大気汚染防止法, 振動規制法, 土壌汚染対策法 ・その他関係法令
工事保険等	受注者は、本工事において第三者に与えた損害を補填する保険又はその他必要とする建設工事 に関連する保険等に加入しなければならない。
疑義変更	本設計図書は、設計の概要を示すものであり、詳細部等について技術的必要事項は明記なく とも完全に施工すること。 施工に際して疑義を生じた場合、または軽微な変更を必要とする場合には、速やかに係員と協議 し、監督員の指示により施工すること。ただし、これらに於いて受注金額の増減はなきものとする。
提出書類	施工に先立ち、工事工程表、仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し、監督員の承認 を受けること。商品名及び製造者名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用 するものとし、同等品を使用する場合は、監督員の承諾を受けるものとする。また、設計図書に定め る品質及び性能を有することの証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けるものとする。
工 期	本工事は請負契約締結の後、令和5年3月27日をもって工期とする。このうち検査期間として13日 間を見込んでいる。
そ の 他	・本工事は、近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得なが ら実施すること。 ・入札に先立ち現地調査を十分に行ない、質疑がある場合は入札前に確認すること。 ・行政機関の休日に関する法律(昭和63年法律第91号)に定める行政機関の休日に工事の施工を 行わない。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。 ・工事中に粉塵の発生が予想される工種については、周辺の環境対策のため散水を確実に行うこ と。 ・工事期間中は付近の交通の安全を図ると共に、必要な場合には交通誘導員を配置し事故及び 危険防止に努めること。 ・周辺道路の保全及び清掃については、常に注意を払い定期的に清掃を行うこと。 ・工事車両等により周辺の道路を汚した場合は、清掃を行うこと。 ・工事に支障を及ぼす雨水及び湧水等の排水については、ノッチタンクにより汚泥等の処理を行っ たうえ、適切に排水すること。

- 第三者災害防止及び飛散防止対策のため、必要に応じて監督員の指示する範囲に、バリケード等を設置すること。また、苦情等発生した場合にはこれに対応すること。
- 台風等の強風が見込まれる場合、事前に足場等の養生シートを折りたたむなど対策を施すこと。
- 工事に係る電気、水道及び下水道料金等は受注者の負担とする。
- 施工面積(外構工事含む)が3,000㎡以上の場合、土壤汚染対策法第4条第1項に規定する届け出を工事着手30日前までに所轄官庁へ提出すること。
- 官公署その他への手続きは受注者の負担で遅滞なく行うこと。
- 施工箇所周囲の備品、機器等については、養生及び清掃等を確実に行うこと。
- 図面に明示されていない事項であっても、工地上必要とされる事は工事範囲とする。
- 工事に伴い各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
- 配筋検査は、受注者による自主検査を行ったうえ、監理者及び監督員による検査を受検すること。
なお、これらの検査は、種類、径及び数量については全数検査を行うこと。
- 本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ、理由を添えて発注者の承認を受けること。
- 外部足場等に過剰な宣伝広告はしないこと。
- 受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
- 工事完了後、完成図として製本図面(二つ折り・A3縮小版)を3部提出すること。
- 以下の設計図面は、A3版をA4版に縮小している。(縮小率約70.7%)
- 杭等の図面にない地中工作物が発見された場合は、位置や寸法の記録を完成図書に加えること。
- 広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。

木原分団屯所建設工事

設計図



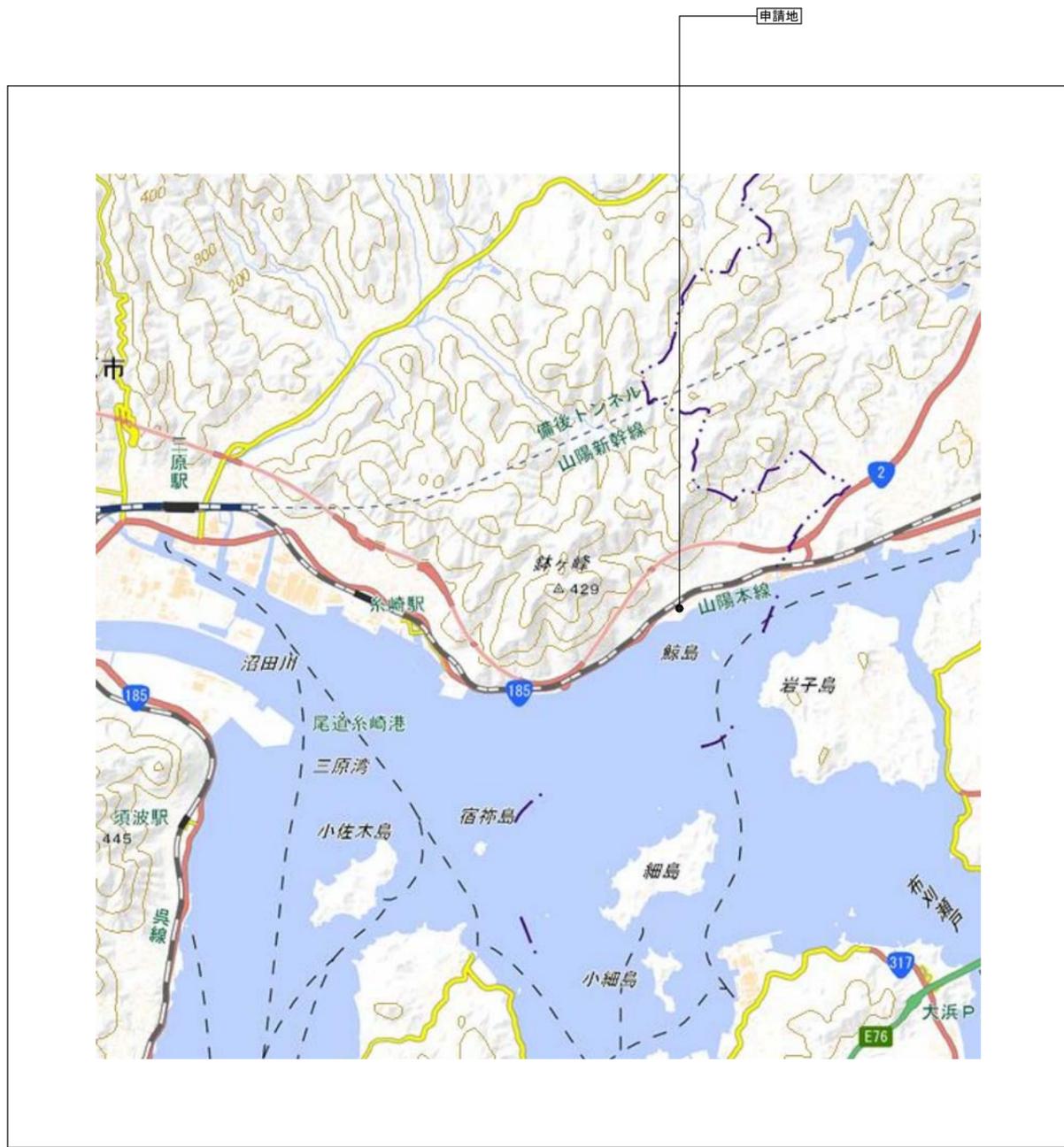
中電技術コンサルタント株式会社

CHUDEN ENGINEERING CONSULTANTS INC.

4	造作用単板積層材 (12.2.1) ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材	施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用			
		・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し (等級:)	・適用する	・適用しない					
5	合板等 (12.2.1) ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・普通合板	施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用	
		・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し ()	※1類	広葉樹	※1類	※C-D	・適用する	・適用しない	
6	接着剤 (12.2.2.3) 接着剤は、可塑剤 (揮発性の可塑剤を除く) が添加されていないものとする。 ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外	施工箇所	厚さ (mm)	表面の状態	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)	
		・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し ()	※1類	・適用する	・適用しない	※P又はM	※15		
7	防蟻・防蟻処理 (12.3.1.2) 防蟻・防蟻処理を省略できる樹種による製材 適用部位: ()	施工箇所	厚さ (mm)	表面の状態	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)	
		・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し ()	※1類	・適用する	・適用しない	※P又はM	※15		
13	屋根及びびとい工事 1 長尺金属板葺 (13.2.2.3)	施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺き形式	備考		
		※JIS G 3322の屋根用コイル	・心木なし瓦葺葺 ・立平葺 ・蟻掛葺						
2	折板葺 ※折板葺の仕様はプレハブメーカーの仕様による。	施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先面戸板	耐火性能
		・重ね形 ・はげ締め形 ・かん合形	()種	※鋼板製 ・アルミニウム合金板製	・有り ・無し	・30分 ・無し			
3	粘土瓦葺 (13.4.2.3)	施工箇所	種類	大きさ	産地	役物瓦の種類	止め瓦		
		製法による区分	形状による区分	寸法による区分					
4	とい (13.5.2.3) (表13.5.4) といの材料 ・ 配管用鋼管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管 ・ ルーフドレン とい受け金物及び足金物の材料、形状及び取付け間隔 ※ 標準仕様書13.5.2による (溶融亜鉛めっきを行ったもの)	施工箇所	種類	大きさ	産地	役物瓦の種類	止め瓦		
		製法による区分	形状による区分	寸法による区分					
14	金属工事 1 ステンレスの表面仕上げ (14.2.1)	種類	施工箇所 (手すり、タラップ、建具以外)						
		※H L程度							
2	アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2) (表14.2.1) (成形板、笠木、建具以外)	種類	色合等	施工箇所					
		※標準色 () ・ 特注色 ()							
3	鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3) (表14.2.2)	表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり、タラップ以外)					
		溶融亜鉛めっき	・ A種 ・ B種 ・ C種						
4	軽量鉄骨天井下地 ※軽量鉄骨天井下地の仕様はプレハブメーカーの仕様による。	野縁等の種類	野縁 (※25形) 屋内 (※19形・25形)	野縁受、吊りボルト及びビーンサートの間隔 ・ 図示 周辺部の端からの間隔 ・ 図示 野縁の間隔 ・ 図示 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法 ※ 図示 天井のふところ高が1.5m以上3.0m以下の場合 補強方法 ※ 標準仕様書14.4.4(3)による ・ 図示 天井のふところ高が3.0mを超える場合 補強方法 ※ 「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」(平成25年国土交通省告示第771号) 第3条第2項第二号に適合させる。 図示					
		野縁受、吊りボルト及びビーンサートの間隔 ・ 図示 周辺部の端からの間隔 ・ 図示 野縁の間隔 ・ 図示 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法 ※ 図示 天井のふところ高が1.5m以上3.0m以下の場合 補強方法 ※ 標準仕様書14.4.4(3)による ・ 図示 天井のふところ高が3.0mを超える場合 補強方法 ※ 「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」(平成25年国土交通省告示第771号) 第3条第2項第二号に適合させる。 図示							
5	軽量鉄骨地下地 (14.5.3) (表14.5.1) スタッド、ランナーの種類 ※ 標準仕様書14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ○ 図示 スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※ 図示 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※ 標準仕様書14.5.4(5)による	種類	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理 (標準仕様書14.2.1による) 色合等		
		・押し出し ・ロール ・プレス	スパン ドレル形 パネル形				※標準色 () ・ 特注色 () 無着色		
6	金属成形板張り (14.6.2.3) (表14.2.1)	種類	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理 (標準仕様書14.2.1による) 色合等		
		・押し出し ・ロール ・プレス	スパン ドレル形 パネル形				※標準色 () ・ 特注色 () 無着色		
7	アルミニウム製笠木 (14.7.2.3) (表14.2.1) (表14.7.1)	種類	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理 (標準仕様書14.2.1による) 色合等		
		・押し出し ・ロール ・プレス	スパン ドレル形 パネル形				※標準色 () ・ 特注色 () 無着色		
8	手すり及びタラップ (14.8.2.3)	手すり	ステンレス製 (表面処理 ※ H L程度 ・ №2B程度) 鋼製 (表面処理 ※ 溶融亜鉛めっき 種別C種) アルミ製 タラップ	ステンレス製 (表面処理 ※ H L程度 ・ №2B程度) 鋼製 (表面処理 ※ 溶融亜鉛めっき 種別C種) アルミ製 タラップ					
		ステンレス製 (表面処理 ※ H L程度 ・ №2B程度) 鋼製 (表面処理 ※ 溶融亜鉛めっき 種別C種) アルミ製 タラップ	ステンレス製 (表面処理 ※ H L程度 ・ №2B程度) 鋼製 (表面処理 ※ 溶融亜鉛めっき 種別C種) アルミ製 タラップ						
15	左官工事 1 モルタル塗り (15.3.2.5)	モルタル	現場調合材料 ・ 既調合材料 (材料既製目地材 ・ 図示 形状 (※図示) ・ 図示)	現場調合材料 ・ 既調合材料 (材料既製目地材 ・ 図示 形状 (※図示) ・ 図示)					
		現場調合材料 ・ 既調合材料 (材料既製目地材 ・ 図示 形状 (※図示) ・ 図示)	現場調合材料 ・ 既調合材料 (材料既製目地材 ・ 図示 形状 (※図示) ・ 図示)						
2	ラス系下地 (15.2.4)	ラス系下地の種類及び材料	適工法二層下地 (材料 ※ 2種防水紙付きプラス800 換気口部の措置 ※ 木造標準仕様書11.4.3(2)(f)による) ・ 適工法二層下地 (材料 ※ 2種波形ラス700) ・ 直張り工法ラスモルタル下地 (材料) ・ 直張りラスシートモルタル下地 (材料)	適工法二層下地 (材料 ※ 2種防水紙付きプラス800 換気口部の措置 ※ 木造標準仕様書11.4.3(2)(f)による) ・ 適工法二層下地 (材料 ※ 2種波形ラス700) ・ 直張り工法ラスモルタル下地 (材料) ・ 直張りラスシートモルタル下地 (材料)					
		適工法二層下地 (材料 ※ 2種防水紙付きプラス800 換気口部の措置 ※ 木造標準仕様書11.4.3(2)(f)による) ・ 適工法二層下地 (材料 ※ 2種波形ラス700) ・ 直張り工法ラスモルタル下地 (材料) ・ 直張りラスシートモルタル下地 (材料)	適工法二層下地 (材料 ※ 2種防水紙付きプラス800 換気口部の措置 ※ 木造標準仕様書11.4.3(2)(f)による) ・ 適工法二層下地 (材料 ※ 2種波形ラス700) ・ 直張り工法ラスモルタル下地 (材料) ・ 直張りラスシートモルタル下地 (材料)						
3	床コンクリート直均し仕上げ (15.4.2) (6.2.5)	仕上げの平たんさは、図示及び標準仕様書15.4.2(2)(f)以外下記による	標準仕様書6.2.5による	仕上げの平たんさは、図示及び標準仕様書15.4.2(2)(f)以外下記による					
		標準仕様書6.2.5による	標準仕様書6.2.5による						
4	セルフレベリング材 (15.5.2) (表15.5.1)	種類及び品質	せつこう系 ・ セメント系	種類及び品質 ・ せつこう系 ・ セメント系					
		せつこう系 ・ セメント系	せつこう系 ・ セメント系						
5	仕上塗材仕上げ (15.6.2)	建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外	仕上塗材の種類	建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外					
		仕上塗材の種類	仕上塗材の種類						
6	樹脂製建具 (16.2.5) (16.3.2~5) (表16.3.1~4)	性能値等	耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()	性能値等					
		耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()	耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()						
16	建具工事 1 防火戸 (16.1.3)	防火戸	適用する 指定箇所 (※ 建具表による)	防火戸					
		適用する 指定箇所 (※ 建具表による)	適用する 指定箇所 (※ 建具表による)						
2	建築見本の製作 (16.1.4)	製作しない	製作する (※ 納まり等が分かる程度のもの)	製作しない					
		製作する (※ 納まり等が分かる程度のもの)	製作する (※ 納まり等が分かる程度のもの)						
3	防犯建物部品 (16.1.6)	適用する	適用箇所 (※ 建具表による)	適用する					
		適用箇所 (※ 建具表による)	適用箇所 (※ 建具表による)						
4	アルミニウム製建具 ※アルミニウム製建具の仕様はプレハブメーカーの仕様による。	性能値等	耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()	性能値等					
		耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()	耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()						
5	網戸等 (16.2.3)	種類	材質	線径					
		材質	線径	網目					
6	樹脂製建具 (16.2.5) (16.3.2~5) (表16.3.1~4)	性能値等	耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()	性能値等					
		耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()	耐風圧性の等級 ()、気密性の等級 ()、水密性の等級 ()						

17 カーテンウォール工事	1 取付方法、性能等 (17.1.3) (17.2.2) (17.3.2) 取付方法 ・ 層間方式 ・ 柱、梁方式 ・ 方立方式 ・ スパンドレル方式 性能 水密性 気密性 遮音性 断熱性 耐火性 耐温度差性(℃) ・ 30分 ・ 80 ・ 1時間 ・ 70 ・ 60 耐風圧性 1章 15 適用区分による風圧力の (・1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 主要部材の耐風圧性能 (ガラスを除く) 支柱間距離 (h) 耐風圧性能 4m以下 ・ たわみ量が ± (1/150) × h かつ絶対量20mm以下であること 4mを超える ・ 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による シーリング材 下表以外は標準仕様書表 9.7.1 による 被着体の組合せ シーリング材の種類 主成分による区分 金属 ガラス 石、タイル ガラス ガラス カーテンウォール板間目地 構造用ガスケット ・ 適用する (施工箇所 図示) 材質 ・ クロロレン系 ・ EPDM系 ・ シリコン系 形状 ・ H型 ・ Y型 ・ C型 寸法 (mm) ガラス板厚 ()、支持棒の厚さ ()、ウェブの寸法 () 適用しない 断熱材 種類 () 厚さ (mm) () 施工箇所 図示 耐火材料 施工部位 種類 規格帯 ・ ファスナー部 ・ 取付けブラケット ・ パネル目地部 ・ 層間ふさぎ カーテンウォールの材料 (17.2.2、3、5) 金属材料の種類 規格等 表面処理 映像調整 ※ アルミニウム材 ※ 標準仕様書 種類 () 種 色合等 ・ 標準色 () ・ 行わない ・ 行わない 16.2.3による 製品及び取付け位置の寸法許容差 ※ 標準仕様書表17.2.1~3による ガラス溝の寸法、形状等 ※ カーテンウォールの製造所の仕様による カーテンウォールの材料 (17.3.2~5) (表17.3.1、2) コンクリート ※ 標準仕様書17.3.2(1)(7)~(9)による 鉄筋 ※ SD295A (・D13 ・ D10) 補強鉄線の径 (mm) ※ 3.2 ・ 4.0 ・ 5.0 ・ 6.0 配筋 ※ 図示 先付けの材料 ・ 建具枠 ・ ゴンドラ用ガイドレール 表面仕上材 ・ タイル ・ 石材 (・ 花ごら岩 ・ 大理石) ガasketを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm) ・ 深さ (h) =1~2、溝幅及び底幅 (W1及びW2) =±1 製品及び取付け位置の寸法許容差 ※ 標準仕様書表17.3.1~2による	4 塗料 (18.4.1~18.13.2) 塗装 種類 塗料の種類 高日射放射率塗料 ・ 合成樹脂調合ペイント 本部屋外 ※ A種 ・ B種 ※ 1種 ・ 2種 塗り (SOP) 本部屋内 ※ B種 ・ A種 ※ 1種 ・ 2種 鉄鋼面 ※ B種 ・ A種 ※ 1種 ・ 2種 ・ 適用する 亜鉛めっき鋼面 ※ 1種 ・ 2種 ・ 適用する ・ クリヤラッカー塗り (CL) ※ B種 ・ A種 ・ 透明 ・ 不透明 ・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD) ※ B種 ・ A種 ○断熱性塗料塗り (DP) 鉄鋼面 ※ 上塗り等級 (3) 級 ・ 適用する 亜鉛めっき鋼面 上塗り等級 () 級 コンクリート面及び 上塗り等級 1 級 押出成形セメント板面 ・ B種 上塗り等級 2 級 ・ C種 上塗り等級 3 級 ・ つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-) コンクリート面、モルタル面、プラスチック面、せっこうボード面その他ボード面等 ※ B種 ・ A種 屋内の鉄鋼面 ※ B種 ・ A種 ・ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP) ※ B種 ・ A種 ・ 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EPT) ※ B種 ・ A種 ・ ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) ※ B種 ・ A種 ・ 透明 ・ 不透明 ・ オイルステイン塗り (OS) ※ B種 ・ A種 (塗料 ・ 水性 ・ 油性) ・ 木材保護塗料塗り (WP) ※ B種 ・ A種 ・ 透明 ・ 不透明 高日射放射率塗料 を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする	7 合成樹脂塗料 (19.4.2、3) (表19.4.4、5) 種類 施工箇所 工法 仕上げの種類 ・ 厚膜型塗料 弾性ウレタン樹脂系塗料 ※ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ ・ 厚膜型塗料 エポキシ樹脂系塗料 ・ 薄膜流しのべ工法 ・ 平滑仕上げ ・ 厚膜流しのべ工法 ・ 防汚仕上げ ・ 樹脂モルタル工法 ※ 平滑仕上げ 塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 材料 水性アクリル系樹脂塗料とし、製造所の指定する製品とする 工法 製造所の指定する工法とする なお、上塗りは2回塗りとし、総塗布量は0.25k/m ² 以上とする 仕上げの種類 (※ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ) (※ 標準色) JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 9 フロアリング張り 単層フロアリング (19.5.2~6) (表19.5.1~6) 種類 工法 樹種 厚さ (mm) 間伐材等の適用 ・ フロアリング ・ 釘留め工法 (根太張り) ※ なら ・ 15 ・ ボード1等 ・ 釘留め工法 (直張り) ※ なら ・ 12 ・ ・ 接着工法 ※ なら ・ 8 ・ ・ フロアリング ・ 接着工法 ※ なら ・ 15 ・ ブロック1等 フロアリングボードの大きさ ※ 標準仕様書表19.5.1、3、5による 複合フロアリング 種類 工法 樹種 種類 厚さ (mm) 間伐材等の適用 ・ 天然木化粧複合フロアリング ・ 釘留め工法 (根太張り) ※ なら ・ A種 ・ 15 ・ 釘留め工法 (直張り) ※ なら ・ B種 ・ 12 ・ 接着工法 ※ なら ・ C種 ・ 12 ・ 接着工法 ※ なら ・ A種 ・ 12 ・ 接着工法 ※ なら ・ B種 ・ 12 ・ 接着工法 ※ なら ・ C種 ・ 12 フロアリングの大きさ ※ 標準仕様書表19.5.2、4、6による フロアリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 接着工法の場合の裏面繊維材 ※ 合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上げ ・ 行う ※ ウレタン樹脂ワニス塗り ・ オイルステインの上、ワックス塗り ・ 生地のままワックス塗り ・ 行わない 10 畳敷き (19.6.2) (表19.6.1) 種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ※ D種 (畳床) ・ KT-I ・ KT-II ※ KT-III ・ KT-K ・ KT-N) 下地の種類 ・ 標準仕様書表12.6.11による床組 ・ ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロム) 畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びビスチレンを発生しないが、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。	11 せっこうボードその他 他のボード及び合板張り (19.7.2、3) (表19.7.1) 合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 種類 JISの記号 厚さ (mm)、規格等 ・ 硬質モセメント板 HW ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・ ・ 中質モセメント板 MW ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・ ・ 普通モセメント板 NF ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・ ・ 硬質木片セメント板 HF ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21 ・ ・ 普通木片セメント板 NF ・ 30 ・ ・ けい酸カルシウム板 0.8FK 1.0FK タイプ2 (無石綿) ・ 6 ・ 8 ・ ロックウール化粧吸音板 DR ・ フラットタイプ (・ 9(不燃) ・ 12(不燃) ・) ・ 凹凸タイプ (・ 12(不燃) ・ 15(不燃) ・) ・ ロックウール吸音ボード1号 RW-B ・ 25 ・ ・ グラスウール吸音ボード32K GB-R ・ 25(ガラスクロス包) ・ ○ せっこうボード GB-R ※ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃) ・ 不燃層せっこうボード GB-NC ※ 9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用) 化粧有 (トラバーチン模様) ・ シーディングせっこうボード GB-S 12.5 (※不燃 ・ 準不燃) ・ 強化せっこうボード GB-F ・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃) ・ せっこうラスボード GB-L 9.5 ・ 化粧せっこうボード (木目) GB-D 12.5 (不燃) 幅 440mm 程度 模様 (・ 柱目 ・ 板目) 専用下地材有り ・ 化粧せっこうボード (トラバーチン模様) GB-D 9.5 (準不燃) ・ 普通合板 表板の樹種名 生地、透明塗料塗り (※ ラワン程度) 不透明塗料塗り (※ しな程度) 板面の品質 () 厚さ (mm) () 接着の程度 (・ 1類 ・ 2類) 防虫処理 (・ 行う ・ 行わない) ・ 天然木化粧合板 樹種名 () 接着の程度 (・ 1類 ・ 2類) 厚さ (mm) () 防虫処理 (・ 行う ・ 行わない) ・ 特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 (・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装) 表面性能 () タイプ 接着の程度 (・ 1類 ・ 2類) 厚さ (mm) () 防虫処理 (・ 行う ・ 行わない) ・ メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903 による厚さ (※ 1.2) ・ ポリエステル樹脂化粧板 ・ ミディアムデンシティファイバーボード MDF ・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・ ・ 単板張り 無研磨板 VN ・ 研磨板 VS パーティクルボード ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ ・ 化粧パーティクルボード 単板オーバーレイ DV ・ プラスチックオーバーレイ DO ・ 塗装 DC ・ 10 (難燃) ・ 12 (難燃) ・ ・ ハードボード (素地) HB ・ 無研磨板 (・ スタンダード ・ テンパーD RN) ・ 研磨板 (・ スタンダード ・ テンパーD RS) ・ ハードボード (化粧) ・ 内装用 DI ・ 外装用 DE ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7 ・ ・ インシュレーションボード IB A級 (・ 天井仕上げ ・ 内装仕上げ) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ せっこうボード等の下地 ※ 図示 軽重鉄骨下地ボード遮音壁に用いる遮音シール材 ※ シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド 合板類の張付け ※ B種 ・ A種 せっこうボードの目地工法 ※ 仕上表による 12 壁紙張り ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 (19.8.2、3) 施工箇所 壁紙の種類 防火性能 備考 紙 繊維 プラスチック その他 待機室 ・ ・ ・ ・ ○ ・ 不燃 ○ 準不燃 便所 ・ ・ ・ ・ ○ ・ 不燃 ○ 準不燃 ・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃 ・ 準不燃 ・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃 ・ 準不燃 モルタル・プラスチック面の裏地ごしらの種類 ※ B種 ・ A種 コンクリート面の裏地ごしらの種類 ※ B種 ・ A種 せっこうボード面の裏地ごしらの種類 ※ B種 ・ A種 13 断熱材 (19.9.2、3) フェノールフォームを使用した断熱材、保温材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 断熱材打込み工法 種類 厚さ (mm) 施工箇所 ・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ・ 25 ・ ※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スチレンなし) ※ 2種 bA ※ 25 ※ 外壁 ※ 3種 bA ※ 25 ※ スラブ ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ 25 ・ ・ フェノールフォーム断熱材 ・ 25 ・ 施工箇所の詳細は、仕上表及び図示による ・ 断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※ A種 1 ・ A種 1H 取付け厚さ (mm) ・ 25 ・ 30 ・ 施工箇所 ※ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフレン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所 ・ 図示				
					2 メタルカーテンウォール (17.2.2、3、5) 金属材料の種類 規格等 表面処理 映像調整 ※ アルミニウム材 ※ 標準仕様書 種類 () 種 色合等 ・ 標準色 () ・ 行わない ・ 行わない 16.2.3による 製品及び取付け位置の寸法許容差 ※ 標準仕様書表17.2.1~3による ガラス溝の寸法、形状等 ※ カーテンウォールの製造所の仕様による カーテンウォールの材料 (17.3.2~5) (表17.3.1、2) コンクリート ※ 標準仕様書17.3.2(1)(7)~(9)による 鉄筋 ※ SD295A (・D13 ・ D10) 補強鉄線の径 (mm) ※ 3.2 ・ 4.0 ・ 5.0 ・ 6.0 配筋 ※ 図示 先付けの材料 ・ 建具枠 ・ ゴンドラ用ガイドレール 表面仕上材 ・ タイル ・ 石材 (・ 花ごら岩 ・ 大理石) ガasketを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm) ・ 深さ (h) =1~2、溝幅及び底幅 (W1及びW2) =±1 製品及び取付け位置の寸法許容差 ※ 標準仕様書表17.3.1~2による	19 内装工事 1 接着剤 (19.2.2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 接着剤は可塑性 (難揮発性の可塑性を除く) が添加されていないものとする 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類 ・ 図示 2 ビニル床シート (19.2.2、3) 種類の記号 色柄 特殊機能 厚さ (mm) 備考 ※ FS ・ 無地 ・ 帯電防止 ・ ※ 2.0 ・ マーブル柄 ・ 耐動荷重性 ・ 柄物 ・ 防汚性 ※ 目地処理 (工法 ※ 熱溶接工法) ・ 突付け (施工箇所) 特殊機能 帯電防止 ・ 帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2以上~3.2未満 又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) 1×10 ¹⁰ ~1×10 ¹⁰ Ω程度 3 ビニル床タイル (19.2.2) 種類の記号 色柄 寸法 特殊機能 厚さ (mm) 備考 ※ KT ・ 無地 ※ 300×300 ・ 帯電防止 ※ 2.0 ・ TT ・ FT ・ 柄物 ・ 450×450 ・ 防汚性 ・ 2.5 ・ FOA ・ FOB ・ 500×500 ・ 3.0 特殊機能 帯電防止 ・ 帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2以上~3.2未満 又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) 1×10 ¹⁰ ~1×10 ¹⁰ Ω程度 4 ビニル床木 (19.2.2) 材質の種類 ※ 軟質 ・ 硬質 (19.2.2) 高さ (mm) ※ 60 ・ 75 ・ 100 厚さ (mm) ※ 1.5以上 5 ゴム床タイル (19.2.2) 種類 ・ 単層品 ・ 複層品 (19.2.2) 色柄 () 厚さ (mm) ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0 寸法 (mm) () 6 カーペット敷き (19.3.2、3) (表19.3.1) ・ 織じゅうたん 編り方 バイルの形状 帯電性 備考 ・ ウィルトンカーペット ・ カットバイバル ・ 適用する ・ ダブルフェースカーペット ・ ループバイバル ・ 適用しない ・ アキスミスターカーペット ・ カット、ループ併用 バイバルの種類等 ※ 模様の無い無地のもの (改修標準仕様書表6.9.11による種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種) ・ タフテッドカーペット バイバルの形状 バイル長さ (mm) 工法 帯電性 備考 ・ カットバイバル ・ 5~7 ・ ※ 全面接着工法 ・ 適用する ・ ループバイバル ・ 4~6 ・ ※ グリッパー工法 ・ 適用しない ・ カット、ループ併用 ・ ニードルパンチカーペット 厚さ (mm) () 帯電性 ・ 適用する ・ 適用しない 備考 () ・ タイルカーペット バイバルの形状 種類 施工箇所 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 備考 ※ ループバイバル ※ 第一種 ※ 500×500 ※ 6.5 ※ 第二種 ・ カットバイバル ・ 第一種 ※ 500×500 ※ 6.5 ・ 第二種 ・ カット、ループ併用 ・ 第一種 ※ 500×500 ※ 6.5 ・ 第二種 タイルカーペットの敷き方 平 場 ※ 市松敷き ・ 模様流し ・ 階段部分 ※ 模様流し ・ 市松敷き ・ 下敷き材 ※ 反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm 見切り、押え金物の材質、種類及び形状 ※ 図示	8 防じん用塗料 9 フロアリング張り 10 畳敷き	11 せっこうボードその他 他のボード及び合板張り
					3 錆止め塗料塗り (18.3.2、3) 下地面等 種類 鉄鋼面 見え隠れ部分 ※ A種 ・ B種 A種 見え隠れ部分 ※ B種 ・ A種 E P-1の場合 ※ B種 ・ A種 亜鉛めっき鋼面 ※ C種 ・ A種 ・ B種 モルタル面及び石膏スター面 ※ B種 ・ A種 コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面 ※ B種 ・ A種 押出成形セメント板面及びコンクリート面 (DP) ※ A種 ・ B種 せっこうボード面及び目地、目地処理工法 ※ A種 ・ B種 その他ボード面 目地、目地処理工法以外 ※ B種 ・ A種 下地面等 工程の種類 塗料の種類 鉄鋼面 見え隠れ部分 ※ A種 ・ B種 A種 見え隠れ部分 ※ B種 ・ A種 E P-1の場合 ※ B種 ・ A種 亜鉛めっき鋼面 鋼製建具等 ※ A種 ・ B種 ※ A種 ・ B種 鋼製建具等以外 ※ B種 ・ A種 E P-1の場合はC種 B種 E P-1の場合はC種	1 材料 (18.1.3) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・ 次の箇所を除き防火材料とする。(箇所:) 2 素地ごしえ (18.2.2~7) 下地面等 種類 木部 不透明塗料塗りの場合 ※ A種 ・ B種 透明塗料塗りの場合 ※ B種 ・ A種 鉄鋼面 ※ C種 ・ A種 ・ B種 亜鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 モルタル面及び石膏スター面 ※ B種 ・ A種 コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面 ※ B種 ・ A種 押出成形セメント板面及びコンクリート面 (DP) ※ A種 ・ B種 せっこうボード面及び目地、目地処理工法 ※ A種 ・ B種 その他ボード面 目地、目地処理工法以外 ※ B種 ・ A種 3 錆止め塗料塗り (18.3.2、3) 下地面等 工程の種類 塗料の種類 鉄鋼面 見え隠れ部分 ※ A種 ・ B種 A種 見え隠れ部分 ※ B種 ・ A種 E P-1の場合 ※ B種 ・ A種 亜鉛めっき鋼面 鋼製建具等 ※ A種 ・ B種 ※ A種 ・ B種 鋼製建具等以外 ※ B種 ・ A種 E P-1の場合はC種 B種 E P-1の場合はC種	1 材料 (18.1.3) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・ 次の箇所を除き防火材料とする。(箇所:) 2 素地ごしえ (18.2.2~7) 下地面等 種類 木部 不透明塗料塗りの場合 ※ A種 ・ B種 透明塗料塗りの場合 ※ B種 ・ A種 鉄鋼面 ※ C種 ・ A種 ・ B種 亜鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 モルタル面及び石膏スター面 ※ B種 ・ A種 コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面 ※ B種 ・ A種 押出成形セメント板面及びコンクリート面 (DP) ※ A種 ・ B種 せっこうボード面及び目地、目地処理工法 ※ A種 ・ B種 その他ボード面 目地、目地処理工法以外 ※ B種 ・ A種 3 錆止め塗料塗り (18.3.2、3) 下地面等 工程の種類 塗料の種類 鉄鋼面 見え隠れ部分 ※ A種 ・ B種 A種 見え隠れ部分 ※ B種 ・ A種 E P-1の場合 ※ B種 ・ A種 亜鉛めっき鋼面 鋼製建具等 ※ A種 ・ B種 ※ A種 ・ B種 鋼製建具等以外 ※ B種 ・ A種 E P-1の場合はC種 B種 E P-1の場合はC種	11 せっこうボードその他 他のボード及び合板張り

20	1	フリーアクセスフロア	<p>(2.0.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>構法</th> <td>・ 置数式</td> <td>・ 支柱調整式</td> </tr> <tr> <th>所定荷重</th> <td>※ 3,000N ・ 5,000N</td> <td>※ 3,000N ・ 5,000N</td> </tr> <tr> <th>耐震性能</th> <td>・ 1.0 ・ 0.6</td> <td>・ 1.0 ・ 0.6</td> </tr> <tr> <th>パネル寸法 (mm)</th> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>高さ (mm)</th> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>表面仕上材</th> <td>※ タイルカーベット ・ 帯電防止床タイル</td> <td>※ タイルカーベット ・ 帯電防止床タイル</td> </tr> <tr> <th>施工箇所</th> <td>※ 図示</td> <td>※ 図示</td> </tr> </table> <p>寸法精度 ※ 標準仕様書20.2.2(2)(a)～(c)による</p> <p>スロープ及びボーダー ※ 製造所の仕様による ・ 図示 配線用取り出しパネル フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 製造所の仕様による ・ 20～30パーセント 配線取り出し開口 ※ 製造所の仕様による ・ パネル枚につき、40mm×80mm程度の開口1箇所以上</p> <p>空調用吹き出し(吸い込み)パネル ・ なし ・ あり(形式、施工箇所: ※ 図示 ・)</p> <p>(性能) (1) 耐荷重性能 変形5.0mm以下 残留変形3.0mm以下 (2) 耐衝撃性能 残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと (3) ローリングロード性能 所定荷重1,000N (5,000Nの積載荷重は1,000N以上で任意) による繰り返し試験後、 残留変形3.0mm以下 (4) 耐震性能</p> <p>イ) 固定台試験による耐震性能</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>性能</th> </tr> <tr> <td>①ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が割れたとき</td> <td>水平荷重の1/2が下記の<適用地震時水平力>以上</td> </tr> <tr> <td>②上記①以外の部分が耐力に達したとき</td> <td>水平荷重の1/1.5が下記の<適用地震時水平力>以上</td> </tr> </table> <p>③適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位</p> <p>構造床面からの高さの1/50以下</p> <p><適用地震時水平力> 3,000N 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m2当り自重+3,000N)/m2当りの支柱本数]×0.6 3,000N 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m2当り自重+3,000N)/m2当りの支柱本数]×1.0 5,000N 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m2当り自重+5,000N)/m2当りの支柱本数]×0.6 5,000N 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m2当り自重+5,000N)/m2当りの支柱本数]×1.0</p> <p>ロ) 振動台試験による耐震性能(設計床高さ≤300mmの場合のみ) 振動台試験において、パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、セリ上がり、隙間及び水平移動がないこと。</p> <p>(5) 耐燃焼性能 建築基準法第2条第9号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炎時間が0秒</p> <p>(6) 帯電防止性能評価値(U) 0.6以上</p> <p>(7) 感電防止性能 漏えい抵抗(R)≥1×10⁹Ω</p> <p>(8) 歩行感 通常の歩行において空音やたつきがなく、歩行感に違和感がない</p> <p>(9) メンテナンス性 交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。</p> <p>(試験方法) (1) 耐震性能 1) 設計床高さ≤300mmの場合 試験体ユニット1000mm×2500mm程度 所定の重りの質量 3000N・200k 5000N・350k 加振 0.6:所定加速度600cm/s² 1.0:所定加速度1000cm/s² 2) 300mm<設計床高さ≤600mmの場合 ①固定台による耐震性能試験 イ、支柱調整式・支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法-1又は、試験方法-2による。 ロ、原則として、試験方法-1はパネル単体設置(Aタイプ)に適用し、試験方法-2はパネル連結設置(Bタイプ)に適用するものとする。</p>	構法	・ 置数式	・ 支柱調整式	所定荷重	※ 3,000N ・ 5,000N	※ 3,000N ・ 5,000N	耐震性能	・ 1.0 ・ 0.6	・ 1.0 ・ 0.6	パネル寸法 (mm)			高さ (mm)			表面仕上材	※ タイルカーベット ・ 帯電防止床タイル	※ タイルカーベット ・ 帯電防止床タイル	施工箇所	※ 図示	※ 図示	項目	性能	①ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が割れたとき	水平荷重の1/2が下記の<適用地震時水平力>以上	②上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の<適用地震時水平力>以上	<p>(2.0.2.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>構造形式による種類</th> <th>構成基材の種類</th> <th>総厚さ (mm)</th> <th>表面仕上材</th> <th>遮音性 (dB/500Hz)</th> <th>防火性能</th> </tr> <tr> <td>※スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式</td> <td>スタッド パネル</td> <td></td> <td>材質 パネル表面仕上げ</td> <td>・0 ・15程度 ・30程度 ・36以上</td> <td>・不燃</td> </tr> </table> <p>パネル内に取付ける建具 ・ あり(※ 図示 ・) ・ なし ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。</p> <p>表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上</p> <p>(2.0.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>走行方向</th> <th>操作方法</th> <th>圧接装置の操作方法</th> <th>総厚さ (mm)</th> <th>表面仕上材</th> <th>遮音性 (dB/500Hz)</th> </tr> <tr> <td>・平行方向移動式 ・二方向移動式</td> <td>※手動式 ・電動式 ・部分電動式</td> <td>・フッシュ式 ・ハンドル式</td> <td>※鋼板 ・</td> <td>・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付塗装 ・壁紙張り ・</td> <td>・36未満 ・36以上</td> </tr> </table> <p>表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による 遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする ハンガーレールの取付け下地の補強 ※ 取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。 ・ 図示 パネルをランナーに取り付ける部品 ※ パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする。 ・ 図示 (品質・性能及び試験方法) (1) パネル(表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材)及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」の表9又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこなないもの又は防食処理を施したものであること。 (2) 吊りボルト JIS B 1051「炭素鋼及び合金鋼製締結用部品の機械的性質-第一部:ボルト、ネジ及び補込みボルト」による。 (3) パネルの外観 JIS A 6512「可動間仕切」の5.e)～e)による。 (4) ホルムアルデヒド等 JIS A 6512「可動間仕切」7材料による。 (5) パネルの操作性 パネル操作の初動力は98N以下とする。 (6) 耐衝撃性 質量50kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく表面の、割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれがあっても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。 (7) 遮音性能 遮音性試験はJIS A 6512に規定する透過損失単位による各区分ごとに、500Hzの音についての透過損失の規定値に適合するものとする。 (8) パネル圧接装置の耐久性 パネル圧接装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。 (9) レールの耐久性 レールは普通パネルで吊り車2個が通過する部分を1m以上とし、吊り車の通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。 (10) 吊り車の耐久性 吊り車は、走行距離60kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。 (11) 吊りボルトの引張強度 一本にかかる荷重の15倍以上の引張強度があるものとする。 (12) ランナーの引張強度 引張試験を実施し、普通パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナーの数で除した値以上の強度があるものとする。</p>	構造形式による種類	構成基材の種類	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (dB/500Hz)	防火性能	※スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式	スタッド パネル		材質 パネル表面仕上げ	・0 ・15程度 ・30程度 ・36以上	・不燃	走行方向	操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (dB/500Hz)	・平行方向移動式 ・二方向移動式	※手動式 ・電動式 ・部分電動式	・フッシュ式 ・ハンドル式	※鋼板 ・	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上	<p>(2.0.2.5)</p> <table border="1"> <tr> <th>表面材の材料</th> <th>脚部形状</th> <th>ドアエッジ材質</th> </tr> <tr> <td>※メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板</td> <td>※幅木タイプ ・</td> <td>※アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材</td> </tr> </table> <p>(品質・性能) (1) パネル</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>表面材</td> <td>メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。</td> </tr> <tr> <td>裏打ち材</td> <td>JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。</td> </tr> <tr> <td>心材</td> <td>JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。</td> </tr> <tr> <td>枠材</td> <td>JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。</td> </tr> <tr> <td>小口</td> <td>防水処理を施す。</td> </tr> </table> <p>(2) 構造金物</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>脚部(脚翼、幅木)</td> <td>JIS G 4305「冷間延延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはH処理とする。</td> </tr> </table> <p>(3) 付属金物</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>ヒンジ</td> <td>耐蝕性のあるものとする。</td> </tr> <tr> <td>ラッチセット</td> <td>腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。</td> </tr> <tr> <td>戸当り</td> <td>腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。</td> </tr> </table> <p>(4) 外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b)による。 (5) パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性等</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>耐薬品性及び耐汚染性</th> <th>耐引っかき性</th> </tr> <tr> <td>メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材</td> <td>JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂系高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>低圧メラミン樹脂系化粧板</td> <td>ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧板MDF、ポリエステル樹脂系化粧板</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂系加工化粧板</td> <td>JAS「合板の日本産規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。平均値が10μm以内であること。</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂系化粧板MDF</td> <td>JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂系化粧板パーティクルボード</td> <td>JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>(試験方法) (1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法-第一部:ドア用金物」に規定する試験による。 (2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上</p>	表面材の材料	脚部形状	ドアエッジ材質	※メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	※アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材	項目	品質・性能	表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。	裏打ち材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。	心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。	枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。	小口	防水処理を施す。	項目	品質・性能	脚部(脚翼、幅木)	JIS G 4305「冷間延延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはH処理とする。	項目	品質・性能	ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。	ラッチセット	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。	戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。	項目	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性	メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂系高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。	—	低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧板MDF、ポリエステル樹脂系化粧板	—	ポリエステル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本産規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。平均値が10μm以内であること。	—	ポリエステル樹脂系化粧板MDF	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	—	ポリエステル樹脂系化粧板パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	—	<p>(2.0.2.6)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>幅 (mm)</th> <th>取付け方法</th> <th>端部フラットエンド</th> </tr> <tr> <td>※ ステンレス製 (SUS304)</td> <td>※ 約35</td> <td>※ 接着工法</td> <td>※ あり</td> </tr> <tr> <td>・ ビニルタイヤ入り</td> <td>・</td> <td>・ 埋込み工法</td> <td>・ なし</td> </tr> </table>	種類	幅 (mm)	取付け方法	端部フラットエンド	※ ステンレス製 (SUS304)	※ 約35	※ 接着工法	※ あり	・ ビニルタイヤ入り	・	・ 埋込み工法	・ なし	<p>(2.0.2.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>色彩</th> <th>形式</th> </tr> <tr> <td>・ 鋼製黒板</td> <td>※ 焼付け</td> <td>※ 緑</td> <td>・ 平面</td> </tr> <tr> <td>・ ほうろろ黒板</td> <td>・</td> <td>・ 黒</td> <td>・ 曲面</td> </tr> <tr> <td>・ ホワイトボード</td> <td>ほうろろ</td> <td>白</td> <td>※ スクリーン付き引き分け</td> </tr> </table>	種類	寸法 (mm)	色彩	形式	・ 鋼製黒板	※ 焼付け	※ 緑	・ 平面	・ ほうろろ黒板	・	・ 黒	・ 曲面	・ ホワイトボード	ほうろろ	白	※ スクリーン付き引き分け	<p>(2.0.2.9)</p> <table border="1"> <tr> <th>取付け箇所</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ 図示</td> <td>・ 図示</td> <td>※ 5</td> </tr> </table>	取付け箇所	寸法 (mm)	厚さ (mm)	・ 図示	・ 図示	※ 5	<p>(2.0.2.10)</p> <p>案内用記号はJIS Z 8210による。 誘導標識、非常用出入口等の表示 ※ 消防法に適合する市販品 室名札、ピクトグラム、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等 ※ 図示</p>	<p>(2.0.2.11)</p> <table border="1"> <tr> <th>適用安全使用温度</th> <th>種類</th> </tr> <tr> <td>・ 400℃まで</td> <td>ゾノトライト系けい酸カルシウムライニング材</td> </tr> </table> <p>煙突用成形ライニング材 (品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用安全使用温度 (上限温度)</th> <th>適用安全使用温度 (下限温度)</th> </tr> <tr> <td>加熱線収縮率</td> <td>2.0%以下</td> <td>0.8N/mm²以上</td> </tr> <tr> <td>曲げ強度</td> <td>1.0N/mm²以上</td> <td>0.8N/mm²以上</td> </tr> <tr> <td>圧縮強度</td> <td>1.0N/mm²以上</td> <td>0.8N/mm²以上</td> </tr> <tr> <td>スプーリング性</td> <td>試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>透水性</td> <td>試験体表面に水滴が生じないものとする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐酸性</td> <td>試験体に形状変化が見られず、崩壊する危険性がないものとする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>石綿</td> <td>使用不可。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ライニング材とコンクリートの境界温度</td> <td>100℃以下とする。</td> <td></td> </tr> </table> <p>加熱線収縮率、曲げ強度、圧縮強度の確認は、社内試験成績書によることできる。</p>	適用安全使用温度	種類	・ 400℃まで	ゾノトライト系けい酸カルシウムライニング材	種類	適用安全使用温度 (上限温度)	適用安全使用温度 (下限温度)	加熱線収縮率	2.0%以下	0.8N/mm ² 以上	曲げ強度	1.0N/mm ² 以上	0.8N/mm ² 以上	圧縮強度	1.0N/mm ² 以上	0.8N/mm ² 以上	スプーリング性	試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。		透水性	試験体表面に水滴が生じないものとする。		耐酸性	試験体に形状変化が見られず、崩壊する危険性がないものとする。		石綿	使用不可。		ライニング材とコンクリートの境界温度	100℃以下とする。		<p>(2.0.2.12)</p> <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>操作方法</th> <th>種類</th> <th>スラットの材質</th> <th>スラット幅 (mm)</th> <th>ボックスレールの材質</th> <th>幅・高さ</th> </tr> <tr> <td>・ 横形</td> <td>※手動</td> <td>※ギア式</td> <td>※アルミニウム合金製</td> <td>※ 25</td> <td>※鋼製</td> <td>※図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 電動</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 縦形</td> <td>※手動</td> <td>※2本操作コード式</td> <td>※アルミスラット</td> <td>・ 80</td> <td>アルミニウム合金製</td> <td>※図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 電動</td> <td>—</td> <td>・ クロススラット</td> <td>・ 100</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>アルミスラットの材質 換付塗装仕上げ クロススラットの材質 清浄法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工 ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は □ する。</p> <p>(2.0.2.13)</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>操作方式</th> <th>遮光性能</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>取付け箇所</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ ガラス繊維製</td> <td>・ 電動式</td> <td>・ 1級</td> <td>※ 図示</td> <td>※ 図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 合成・天然繊維製</td> <td>・ スプリング式</td> <td>・ 2級</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 木製</td> <td>※ チェーン式</td> <td>・ 3級</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </table> <p>巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料 ※ 製造所の仕様</p> <p>(2.0.2.14)</p> <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>開閉操作</th> <th>ひだの種類</th> <th>きれ地の種別</th> <th>取付け箇所</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ シングル</td> <td>・ 手引き</td> <td>・ フランスひだ</td> <td>きれ地の種別</td> <td>※ 図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ダブル</td> <td>・ ひも引き</td> <td>・ 箱ひだ、つまひだ</td> <td>品質、特殊加工等</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 電動</td> <td>・ ブレーンひだ、片ひだ</td> <td></td> <td>・</td> <td>(暗幕)</td> </tr> </table> <p>ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は □ する。 暗幕カーテンの両端、上部及びひ合せの重なり ※ 300mm以上</p> <p>(2.0.2.14)</p> <p>材料による区分 ※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材 ・ ステンレス製 強さによる区分 ※ 10-90 仕上げ ※ アルマイト 形状 ※ 角形</p>	形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックスレールの材質	幅・高さ	・ 横形	※手動	※ギア式	※アルミニウム合金製	※ 25	※鋼製	※図示		・ 電動	—	—	—	—	—	・ 縦形	※手動	※2本操作コード式	※アルミスラット	・ 80	アルミニウム合金製	※図示		・ 電動	—	・ クロススラット	・ 100	—	—	材質	操作方式	遮光性能	寸法 (mm)	取付け箇所	備考	・ ガラス繊維製	・ 電動式	・ 1級	※ 図示	※ 図示		・ 合成・天然繊維製	・ スプリング式	・ 2級	・	・		・ 木製	※ チェーン式	・ 3級	・	・		形式	開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別	取付け箇所	備考	・ シングル	・ 手引き	・ フランスひだ	きれ地の種別	※ 図示		・ ダブル	・ ひも引き	・ 箱ひだ、つまひだ	品質、特殊加工等	・			・ 電動	・ ブレーンひだ、片ひだ		・	(暗幕)	<p>(2.0.2.14)</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>形式</th> <th>外枠</th> <th>内枠</th> </tr> <tr> <td>※ アルミニウム製</td> <td>※ 450×450</td> <td>※ 一般形</td> <td>※ 屋内外用</td> <td>※ 縦横タイプ</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・ 600×600</td> <td>※ 密閉形</td> <td>※ 屋内用</td> <td>※ 目地タイプ</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・ 気密形</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>(品質・性能) 内外枠の材質 アルミニウム製 JIS H 4100 A6063S-5又は同等の性能を有するもの 表面処理 陽極酸化皮膜JIS H 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの (外部に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの) 内枠及び外枠のコーナースペース 鋼板に垂れつき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの 外枠の取付け金物 鋼板に垂れつき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの 内枠の仕上げ材取付金物 アルミニウム及びアルミニウム合金押出し材、垂れつき鋼板又は同等の性能を有するもの 耐久性(繰り返し開閉試験) (1) 50回、100回、300回の内裏の垂れ下がりが、0.5mm以内。 (2) 開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。 枠の寸法許容差 ±0.5mm以内 外枠と内枠のクリアランス 片側2.0mm以内 (試験方法) 内裏(内枠)の繰り返し開閉試験 (1) 試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。 吊り金物は、外枠を天井下取付用補強材に直接取付ける方式(天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式)とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金物箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野線の種類は、19号とし仕上げ材は、せつこうボード厚さ9.5mm (JIS A 6901「せつこうボード製品」の68-Rの難燃2級又は発熱性2級以上) 二重張りとする。 (2) 試験は、内裏を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。 (3) 測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内裏の垂れ下がり状態を測定する。</p>	材質	寸法 (mm)	形式	外枠	内枠	※ アルミニウム製	※ 450×450	※ 一般形	※ 屋内外用	※ 縦横タイプ	・	・ 600×600	※ 密閉形	※ 屋内用	※ 目地タイプ	・	・	・ 気密形	・	・	<table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>形式</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ アルミニウム製</td> <td>・ 450×450</td> <td>・ 一般形</td> <td>・ 屋内外用</td> </tr> <tr> <td>・ ステンレス製</td> <td>※ 600×600</td> <td>・ 密閉形</td> <td>・ 屋内用</td> </tr> <tr> <td>・ 鋼製</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・ 壁付式</td> </tr> </table> <p>密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものをとする。</p>	材質	寸法 (mm)	形式	備考	・ アルミニウム製	・ 450×450	・ 一般形	・ 屋内外用	・ ステンレス製	※ 600×600	・ 密閉形	・ 屋内用	・ 鋼製	・	・	・ 壁付式	<p>(2.0.2.1)</p> <p>(試験方法) (1) スプーリング性試験 適用安全使用温度 (300℃) から適用安全使用温度まで100℃間隔で30分間加熱冷却を繰り返し、各温度設定時の加熱後及び冷却時の試験体亀裂、剥離、脱落の状況を観察する。 (試験体は完成品とし、サイズは内径600mm×長さ1000mm程度とする。) (2) 透水性試験 JIS A 5430「繊維強化セメント板」9.6透水性試験による。 (3) 耐酸性試験 1.0%濃度の硝酸及び硫酸水溶液に下記の方法で浸せきした後、試験体の外観を観る。 試験体は、試験体を温度20℃、湿度0%の試験室に24時間以上静置した後、酸水溶液に1週間(168時間) 浸せきする。(ただし、酸水溶液は48時間毎に交換する。) その後、48時間以上(26時間) 湿度20℃、湿度60%の試験室に静置した後、外観観察を行う。(試験体のサイズは、100mm×50mmとする。) (4) 熱伝導率測定 JIS R 2616「耐火断熱れんがの熱伝導率の試験方法」による。 試験体設定温度は100℃、150℃、300℃、450℃、600℃とする。</p>	<p>(2.0.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>操作方法</th> <th>種類</th> <th>スラットの材質</th> <th>スラット幅 (mm)</th> <th>ボックスレールの材質</th> <th>幅・高さ</th> </tr> <tr> <td>・ 横形</td> <td>※手動</td> <td>※ギア式</td> <td>※アルミニウム合金製</td> <td>※ 25</td> <td>※鋼製</td> <td>※図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 電動</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 縦形</td> <td>※手動</td> <td>※2本操作コード式</td> <td>※アルミスラット</td> <td>・ 80</td> <td>アルミニウム合金製</td> <td>※図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 電動</td> <td>—</td> <td>・ クロススラット</td> <td>・ 100</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>アルミスラットの材質 換付塗装仕上げ クロススラットの材質 清浄法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工 ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は □ する。</p> <p>(2.0.2.13)</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>操作方式</th> <th>遮光性能</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>取付け箇所</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ ガラス繊維製</td> <td>・ 電動式</td> <td>・ 1級</td> <td>※ 図示</td> <td>※ 図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 合成・天然繊維製</td> <td>・ スプリング式</td> <td>・ 2級</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 木製</td> <td>※ チェーン式</td> <td>・ 3級</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </table> <p>巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料 ※ 製造所の仕様</p> <p>(2.0.2.14)</p> <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>開閉操作</th> <th>ひだの種類</th> <th>きれ地の種別</th> <th>取付け箇所</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ シングル</td> <td>・ 手引き</td> <td>・ フランスひだ</td> <td>きれ地の種別</td> <td>※ 図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ダブル</td> <td>・ ひも引き</td> <td>・ 箱ひだ、つまひだ</td> <td>品質、特殊加工等</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 電動</td> <td>・ ブレーンひだ、片ひだ</td> <td></td> <td>・</td> <td>(暗幕)</td> </tr> </table> <p>ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は □ する。 暗幕カーテンの両端、上部及びひ合せの重なり ※ 300mm以上</p> <p>(2.0.2.14)</p> <p>材料による区分 ※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材 ・ ステンレス製 強さによる区分 ※ 10-90 仕上げ ※ アルマイト 形状 ※ 角形</p>	形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックスレールの材質	幅・高さ	・ 横形	※手動	※ギア式	※アルミニウム合金製	※ 25	※鋼製	※図示		・ 電動	—	—	—	—	—	・ 縦形	※手動	※2本操作コード式	※アルミスラット	・ 80	アルミニウム合金製	※図示		・ 電動	—	・ クロススラット	・ 100	—	—	材質	操作方式	遮光性能	寸法 (mm)	取付け箇所	備考	・ ガラス繊維製	・ 電動式	・ 1級	※ 図示	※ 図示		・ 合成・天然繊維製	・ スプリング式	・ 2級	・	・		・ 木製	※ チェーン式	・ 3級	・	・		形式	開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別	取付け箇所	備考	・ シングル	・ 手引き	・ フランスひだ	きれ地の種別	※ 図示		・ ダブル	・ ひも引き	・ 箱ひだ、つまひだ	品質、特殊加工等	・			・ 電動	・ ブレーンひだ、片ひだ		・	(暗幕)	<p>(2.0.2.1)</p> <p>(試験方法) (1) スプーリング性試験 適用安全使用温度 (300℃) から適用安全使用温度まで100℃間隔で30分間加熱冷却を繰り返し、各温度設定時の加熱後及び冷却時の試験体亀裂、剥離、脱落の状況を観察する。 (試験体は完成品とし、サイズは内径600mm×長さ1000mm程度とする。) (2) 透水性試験 JIS A 5430「繊維強化セメント板」9.6透水性試験による。 (3) 耐酸性試験 1.0%濃度の硝酸及び硫酸水溶液に下記の方法で浸せきした後、試験体の外観を観る。 試験体は、試験体を温度20℃、湿度0%の試験室に24時間以上静置した後、酸水溶液に1週間(168時間) 浸せきする。(ただし、酸水溶液は48時間毎に交換する。) その後、48時間以上(26時間) 湿度20℃、湿度60%の試験室に静置した後、外観観察を行う。(試験体のサイズは、100mm×50mmとする。) (4) 熱伝導率測定 JIS R 2616「耐火断熱れんがの熱伝導率の試験方法」による。 試験体設定温度は100℃、150℃、300℃、450℃、600℃とする。</p>
				構法	・ 置数式	・ 支柱調整式																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
所定荷重	※ 3,000N ・ 5,000N	※ 3,000N ・ 5,000N																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
耐震性能	・ 1.0 ・ 0.6	・ 1.0 ・ 0.6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
パネル寸法 (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
高さ (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
表面仕上材	※ タイルカーベット ・ 帯電防止床タイル	※ タイルカーベット ・ 帯電防止床タイル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
施工箇所	※ 図示	※ 図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
項目	性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
①ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が割れたとき	水平荷重の1/2が下記の<適用地震時水平力>以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
②上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の<適用地震時水平力>以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
構造形式による種類	構成基材の種類	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (dB/500Hz)	防火性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
※スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式	スタッド パネル		材質 パネル表面仕上げ	・0 ・15程度 ・30程度 ・36以上	・不燃																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
走行方向	操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (dB/500Hz)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
・平行方向移動式 ・二方向移動式	※手動式 ・電動式 ・部分電動式	・フッシュ式 ・ハンドル式	※鋼板 ・	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
表面材の材料	脚部形状	ドアエッジ材質																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
※メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	※アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
項目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
裏打ち材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
小口	防水処理を施す。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
項目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
脚部(脚翼、幅木)	JIS G 4305「冷間延延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはH処理とする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
項目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ラッチセット	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
項目	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂系高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧板MDF、ポリエステル樹脂系化粧板	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ポリエステル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本産規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。平均値が10μm以内であること。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ポリエステル樹脂系化粧板MDF	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ポリエステル樹脂系化粧板パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
種類	幅 (mm)	取付け方法	端部フラットエンド																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
※ ステンレス製 (SUS304)	※ 約35	※ 接着工法	※ あり																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ ビニルタイヤ入り	・	・ 埋込み工法	・ なし																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
種類	寸法 (mm)	色彩	形式																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ 鋼製黒板	※ 焼付け	※ 緑	・ 平面																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ ほうろろ黒板	・	・ 黒	・ 曲面																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ ホワイトボード	ほうろろ	白	※ スクリーン付き引き分け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
取付け箇所	寸法 (mm)	厚さ (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
・ 図示	・ 図示	※ 5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
適用安全使用温度	種類																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
・ 400℃まで	ゾノトライト系けい酸カルシウムライニング材																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
種類	適用安全使用温度 (上限温度)	適用安全使用温度 (下限温度)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
加熱線収縮率	2.0%以下	0.8N/mm ² 以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
曲げ強度	1.0N/mm ² 以上	0.8N/mm ² 以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
圧縮強度	1.0N/mm ² 以上	0.8N/mm ² 以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
スプーリング性	試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
透水性	試験体表面に水滴が生じないものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
耐酸性	試験体に形状変化が見られず、崩壊する危険性がないものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
石綿	使用不可。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ライニング材とコンクリートの境界温度	100℃以下とする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックスレールの材質	幅・高さ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
・ 横形	※手動	※ギア式	※アルミニウム合金製	※ 25	※鋼製	※図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	・ 電動	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
・ 縦形	※手動	※2本操作コード式	※アルミスラット	・ 80	アルミニウム合金製	※図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	・ 電動	—	・ クロススラット	・ 100	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
材質	操作方式	遮光性能	寸法 (mm)	取付け箇所	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
・ ガラス繊維製	・ 電動式	・ 1級	※ 図示	※ 図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
・ 合成・天然繊維製	・ スプリング式	・ 2級	・	・																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
・ 木製	※ チェーン式	・ 3級	・	・																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
形式	開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別	取付け箇所	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
・ シングル	・ 手引き	・ フランスひだ	きれ地の種別	※ 図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
・ ダブル	・ ひも引き	・ 箱ひだ、つまひだ	品質、特殊加工等	・																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	・ 電動	・ ブレーンひだ、片ひだ		・	(暗幕)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
材質	寸法 (mm)	形式	外枠	内枠																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
※ アルミニウム製	※ 450×450	※ 一般形	※ 屋内外用	※ 縦横タイプ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
・	・ 600×600	※ 密閉形	※ 屋内用	※ 目地タイプ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
・	・	・ 気密形	・	・																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
材質	寸法 (mm)	形式	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ アルミニウム製	・ 450×450	・ 一般形	・ 屋内外用																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ ステンレス製	※ 600×600	・ 密閉形	・ 屋内用																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ 鋼製	・	・	・ 壁付式																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックスレールの材質	幅・高さ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
・ 横形	※手動	※ギア式	※アルミニウム合金製	※ 25	※鋼製	※図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	・ 電動	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
・ 縦形	※手動	※2本操作コード式	※アルミスラット	・ 80	アルミニウム合金製	※図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	・ 電動	—	・ クロススラット	・ 100	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
材質	操作方式	遮光性能	寸法 (mm)	取付け箇所	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
・ ガラス繊維製	・ 電動式	・ 1級	※ 図示	※ 図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
・ 合成・天然繊維製	・ スプリング式	・ 2級	・	・																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
・ 木製	※ チェーン式	・ 3級	・	・																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
形式	開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別	取付け箇所	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
・ シングル	・ 手引き	・ フランスひだ	きれ地の種別	※ 図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
・ ダブル	・ ひも引き	・ 箱ひだ、つまひだ	品質、特殊加工等	・																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	・ 電動	・ ブレーンひだ、片ひだ		・	(暗幕)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2	2	可動間仕切	<p>(2.0.2.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>構造形式による種類</th> <th>構成基材の種類</th> <th>総厚さ (mm)</th> <th>表面仕上材</th> <th>遮音性 (dB/500Hz)</th> <th>防火性能</th> </tr> <tr> <td>※スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式</td> <td>スタッド パネル</td> <td></td> <td>材質 パネル表面仕上げ</td> <td>・0 ・15程度 ・30程度 ・36以上</td> <td>・不燃</td> </tr> </table> <p>パネル内に取付ける建具 ・ あり(※ 図示 ・) ・ なし ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。</p> <p>表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上</p>	構造形式による種類	構成基材の種類	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (dB/500Hz)	防火性能	※スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式	スタッド パネル		材質 パネル表面仕上げ	・0 ・15程度 ・30程度 ・36以上	・不燃	<p>(2.0.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>走行方向</th> <th>操作方法</th> <th>圧接装置の操作方法</th> <th>総厚さ (mm)</th> <th>表面仕上材</th> <th>遮音性 (dB/500Hz)</th> </tr> <tr> <td>・平行方向移動式 ・二方向移動式</td> <td>※手動式 ・電動式 ・部分電動式</td> <td>・フッシュ式 ・ハンドル式</td> <td>※鋼板 ・</td> <td>・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付塗装 ・壁紙張り ・</td> <td>・36未満 ・36以上</td> </tr> </table> <p>表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による 遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする ハンガーレールの取付け下地の補強 ※ 取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。 ・ 図示 パネルをランナーに取り付ける部品 ※ パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする。 ・ 図示 (品質・性能及び試験方法) (1) パネル(表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材)及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」の表9又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこなないもの又は防食処理を施したものであること。 (2) 吊りボルト JIS B 1051「炭素鋼及び合金鋼製締結用部品の機械的性質-第一部:ボルト、ネジ及び補込みボルト」による。 (3) パネルの外観 JIS A 6512「可動間仕切」の5.a)～e)による。 (4) ホルムアルデヒド等 JIS A 6512「可動間仕切」7材料による。 (5) パネルの操作性 パネル操作の初動力は98N以下とする。 (6) 耐衝撃性 質量50kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく表面の、割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれがあっても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。 (7) 遮音性能 遮音性試験はJIS A 6512に規定する透過損失単位による各区分ごとに、500Hzの音についての透過損失の規定値に適合するものとする。 (8) パネル圧接装置の耐久性 パネル圧接装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。 (9) レールの耐久性 レールは普通パネルで吊り車2個が通過する部分を1m以上とし、吊り車の通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。 (10) 吊り車の耐久性 吊り車は、走行距離60kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。 (11) 吊りボルトの引張強度 一本にかかる荷重の15倍以上の引張強度があるものとする。 (12) ランナーの引張強度 引張試験を実施し、普通パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナーの数で除した値以上の強度があるものとする。</p>	走行方向	操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (dB/500Hz)	・平行方向移動式 ・二方向移動式	※手動式 ・電動式 ・部分電動式	・フッシュ式 ・ハンドル式	※鋼板 ・	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上	<p>(2.0.2.5)</p> <table border="1"> <tr> <th>表面材の材料</th> <th>脚部形状</th> <th>ドアエッジ材質</th> </tr> <tr> <td>※メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板</td> <td>※幅木タイプ ・</td> <td>※アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材</td> </tr> </table> <p>(品質・性能) (1) パネル</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>表面材</td> <td>メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。</td> </tr> <tr> <td>裏打ち材</td> <td>JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。</td> </tr> <tr> <td>心材</td> <td>JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。</td> </tr> <tr> <td>枠材</td> <td>JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。</td> </tr> <tr> <td>小口</td> <td>防水処理を施す。</td> </tr> </table> <p>(2) 構造金物</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>脚部(脚翼、幅木)</td> <td>JIS G 4305「冷間延延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはH処理とする。</td> </tr> </table> <p>(3) 付属金物</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>ヒンジ</td> <td>耐蝕性のあるものとする。</td> </tr> <tr> <td>ラッチセット</td> <td>腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。</td> </tr> <tr> <td>戸当り</td> <td>腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。</td> </tr> </table> <p>(4) 外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b)による。 (5) パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性等</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>耐薬品性及び耐汚染性</th> <th>耐引っかき性</th> </tr> <tr> <td>メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材</td> <td>JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂系高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>低圧メラミン樹脂系化粧板</td> <td>ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧板MDF、ポリエステル樹脂系化粧板</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂系加工化粧板</td> <td>JAS「合板の日本産規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。平均値が10μm以内であること。</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂系化粧板MDF</td> <td>JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂系化粧板パーティクルボード</td> <td>JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>(試験方法) (1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法-第一部:ドア用金物」に規定する試験による。 (2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上</p>	表面材の材料	脚部形状	ドアエッジ材質	※メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	※アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材	項目	品質・性能	表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。	裏打ち材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。	心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。	枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。	小口	防水処理を施す。	項目	品質・性能	脚部(脚翼、幅木)	JIS G 4305「冷間延延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはH処理とする。	項目	品質・性能	ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。	ラッチセット	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。	戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。	項目	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性	メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂系高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。	—	低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧板MDF、ポリエステル樹脂系化粧板	—	ポリエステル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本産規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。平均値が10μm以内であること。	—	ポリエステル樹脂系化粧板MDF	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	—	ポリエステル樹脂系化粧板パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	—	<p>(2.0.2.6)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>幅 (mm)</th> <th>取付け方法</th> <th>端部フラットエンド</th> </tr> <tr> <td>※ ステンレス製 (SUS304)</td> <td>※ 約35</td> <td>※ 接着工法</td> <td>※ あり</td> </tr> <tr> <td>・ ビニルタイヤ入り</td> <td>・</td> <td>・ 埋込み工法</td> <td>・ なし</td> </tr> </table>	種類	幅 (mm)	取付け方法	端部フラットエンド	※ ステンレス製 (SUS304)	※ 約35	※ 接着工法	※ あり	・ ビニルタイヤ入り	・	・ 埋込み工法	・ なし	<p>(2.0.2.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>色彩</th> <th>形式</th> </tr> <tr> <td>・ 鋼製黒板</td> <td>※ 焼付け</td> <td>※ 緑</td> <td>・ 平面</td> </tr> <tr> <td>・ ほうろろ黒板</td> <td>・</td> <td>・ 黒</td> <td>・ 曲面</td> </tr> <tr> <td>・ ホワイトボード</td> <td>ほうろろ</td> <td>白</td> <td>※ スクリーン付き引き分け</td> </tr> </table>	種類	寸法 (mm)	色彩	形式	・ 鋼製黒板	※ 焼付け	※ 緑	・ 平面	・ ほうろろ黒板	・	・ 黒	・ 曲面	・ ホワイトボード	ほうろろ	白	※ スクリーン付き引き分け	<p>(2.0.2.9)</p> <table border="1"> <tr> <th>取付け箇所</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ 図示</td> <td>・ 図示</td> <td>※ 5</td> </tr> </table>	取付け箇所	寸法 (mm)	厚さ (mm)	・ 図示	・ 図示	※ 5	<p>(2.0.2.10)</p> <p>案内用記号はJIS Z 8210による。 誘導標識、非常用出入口等の表示 ※ 消防法に適合する市販品 室名札、ピクトグラム、案内</p>																																																																																																																																																																																																																																																																											
構造形式による種類	構成基材の種類	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (dB/500Hz)	防火性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
※スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式	スタッド パネル		材質 パネル表面仕上げ	・0 ・15程度 ・30程度 ・36以上	・不燃																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
走行方向	操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (dB/500Hz)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
・平行方向移動式 ・二方向移動式	※手動式 ・電動式 ・部分電動式	・フッシュ式 ・ハンドル式	※鋼板 ・	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
表面材の材料	脚部形状	ドアエッジ材質																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
※メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	※アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
項目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
裏打ち材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
小口	防水処理を施す。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
項目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
脚部(脚翼、幅木)	JIS G 4305「冷間延延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはH処理とする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
項目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ラッチセット	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
項目	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂系高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧板MDF、ポリエステル樹脂系化粧板	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ポリエステル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本産規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。平均値が10μm以内であること。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ポリエステル樹脂系化粧板MDF	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ポリエステル樹脂系化粧板パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
種類	幅 (mm)	取付け方法	端部フラットエンド																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
※ ステンレス製 (SUS304)	※ 約35	※ 接着工法	※ あり																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ ビニルタイヤ入り	・	・ 埋込み工法	・ なし																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
種類	寸法 (mm)	色彩	形式																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ 鋼製黒板	※ 焼付け	※ 緑	・ 平面																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ ほうろろ黒板	・	・ 黒	・ 曲面																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ ホワイトボード	ほうろろ	白	※ スクリーン付き引き分け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
取付け箇所	寸法 (mm)	厚さ (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
・ 図示	・ 図示	※ 5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												



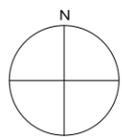
案内図 S=1/50,000

出典元：国土地理院



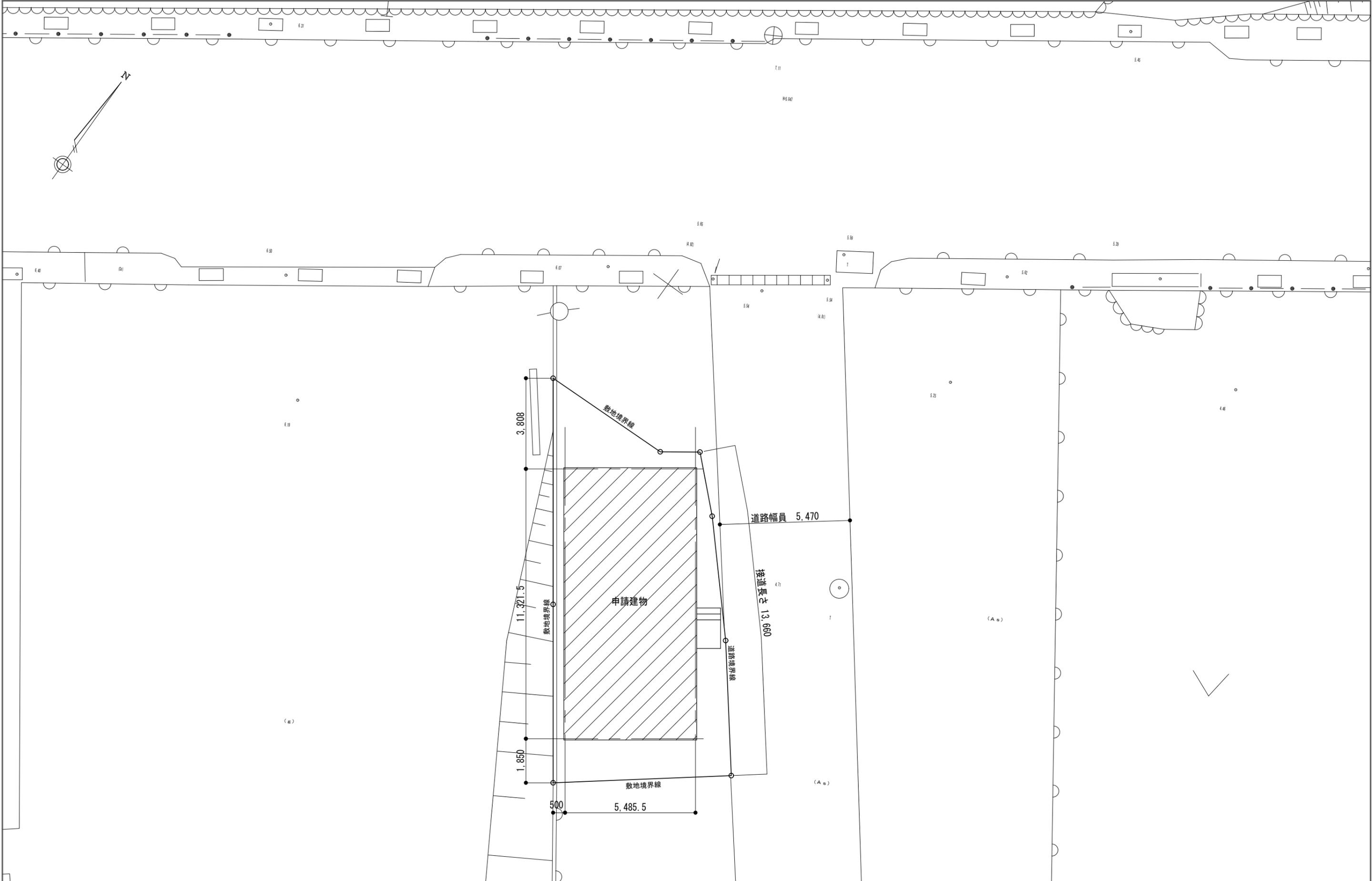
付近見取図 S=1/4,000

出典元：国土地理院



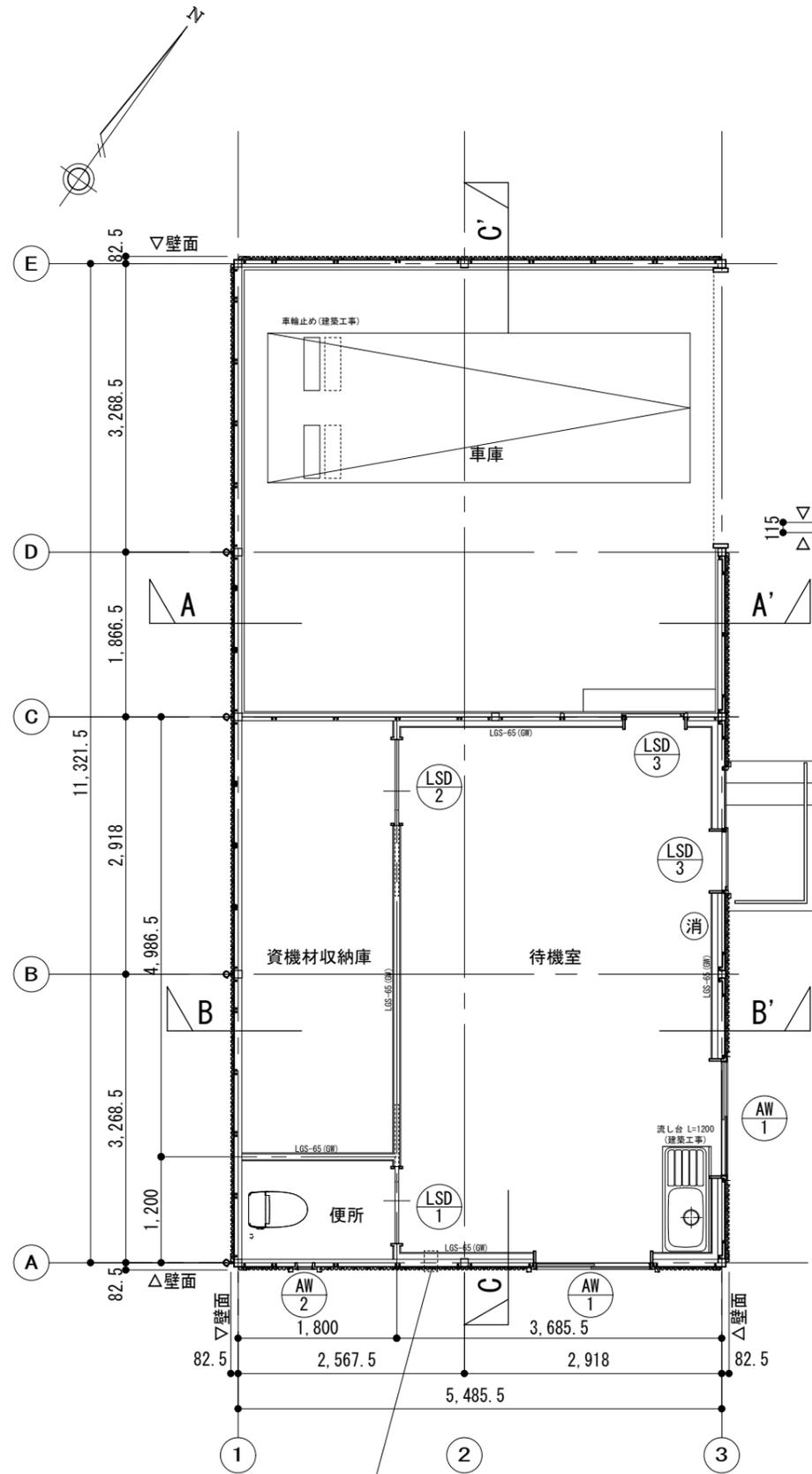
御注文先	御承認	記事	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所 登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797 号 藤賀 光由 高木 洋志	校閲 藤本 矢野 設計 藤賀 高木	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 案内図・付近見取図	図面番号 A-011 縮尺 1/50,000・4,000
------	-----	----	---	--	-----------------------------------	----------------------	-----------------	-----------------------------------	---------------------------------

設計概要				コード	外部仕上表																					
一般事項	工事名称	木原分団屯所建設工事			棟区分	消防詰所																				
	建築主住所	広島県三原市港町三丁目5番1号				屋根	形状	片流れ屋根																		
	建築主氏名	広島県三原市					下地																			
	工事場所	地名地番： 広島県三原市木原四丁目 住居表示：					防水																			
	主要用途	消防団分団詰所(建築基準法 用途08330)(消防法15項)					仕様																			
	工事種別	新築工事					仕上材	ガルバリウム鋼板 t=0.5 折板																		
	用途地域	準工業地域				設備基礎																				
	防火地域	指定なし				折板屋根																				
	その他の地域指定	法22条区域				軒表	ガルバリウム鋼板 t=0.5 折板																			
	容積率等	容積率： 200% 建蔽率： 60%				バラベツト																				
	道路	東側 道路幅員 5.47m 接道長さ 13.66m				外壁	ガルバリウム鋼板 t=0.5 コンクリート打放し アクリルシリコン樹脂塗装																			
	工期	着工予定： 竣工予定： (工事期間：)																								
	行政機関																									
	施工者住所	未定																								
	施工者氏名	未定																								
建物概要 面積表	棟別用途	分団屯所													合計											
	工事種別	新築			根廻り	コンクリート打放し アクリルシリコン樹脂塗装																				
	構造	基礎	布基礎			開口部	窓	アルミサッシュ																		
		屋根	ガルバリウム鋼板				出入口	ガルバリウム鋼板戸																		
	外壁	ガルバリウム鋼板		シャッター	電動軽量シャッター																					
	各階床面積					ガラリ																				
		1階	62.10㎡		玄関庇・ポーチ																					
		合計	62.10㎡																							
	延べ面積	62.10㎡																								
	最高高さ	3.124m																								
	最高軒高さ	3.0185m																								
	敷地面積	103.55㎡		堅礎	堅礎塩ビカラーハイブ76Φ スリッパ埋み金物																					
	建築面積	62.10㎡ (建蔽率 62.10÷103.55×100 = 59.97% <60%)																								
	延床面積	62.10㎡ 容積対象延床面積 : 62.10㎡ (容積率 62.10÷103.55×100 = 59.97% <200%)																								
附帯工事	外構工事				屋外工事 その他										外部金物・備考											
	雨水排水工事				・敷地造成	・囲障	・バリカー				・丸環	・郵便受け														
					・擁壁	・植栽(撤去)	・歩道改良工事				○手摺	・旗受金物														
設備工事	電気				○敷地内舗装	○雨水排水工事	・駐車場ライン引 (出入口一時停止及び止まれ文字共)				・タラップ	・泥落としマット														
	給排水・衛生				・駐車場舗装	○ホース干し塔	・駐輪場				・ルーフドレイン	・荷物場掲示板														
	空調・換気				・門扉	・ホース洗い場	○屋外掲示板				○堅礎	・懸垂幕取付金物														
	消火器	ただし設備機器の色は、監理者の指示に従うこと			凡例・特記事項・認定番号																					
					【記号凡例】																					
支給品					【下地記号】	【材料仕様・認定番号】	施工令20条の5に係わる使用内装材料表			F	天井廻り縁	○一塩ビ廻り縁(既製品)	W	木廻り縁												
					W 木造	石こうボード t=9.5 準不燃 QM-9828	名称	4477ET 散敷等級認定番号	BB	横形ブラインド	SV	縦形ブラインド	LP	室名札												
					C コンクリート	石こうボード t=9.5 不燃 NM-0441	フローリング L-45	F☆☆☆☆	CH	天井点検口(アルミニウム製 450X450)既製品																
					M モルタル	石こうボード t=12.5 不燃 NM-8619	長尺シート	規制外品目	CU	外壁(内部側) グラスカー10k t=65 施工室を示す																
					LS 軽量鉄骨壁・天井下地	化粧石こうボード t=9.5 準不燃 QM-0524	タイルカーベツト	F☆☆☆☆	【特記事項】																	
					CB コンクリートブロック	化粧石こうボードt=9.5(不燃) 不燃 NM-1864	カーベツト	F☆☆☆☆	※ 建築設備の耐震対策は、『建築設備耐震設計施工指針』に準ずる。																	
					PB 石こうボード	耐水石こうボード t=9.5 準不燃 QM-9826	Fフロア	F☆☆☆☆	※ 配管が、防火区画等を貫通する場合の対策は、建基令129条の2及び告示3183号に準ずる。																	
					FB フレキシブルボード	耐水石こうボード t=12.5 不燃 NM-9639	下地合板(普通・構造用)	F☆☆☆☆	※ 空調用冷媒管の防火区画貫通処理は、樹脂保温材を剥ぎ取った上、ロックウール充填とする。																	
					CU 外壁(内部側)	岩綿吸音板 t=12.0 不燃 NM-8599	ビニルクロス	規制外品目	※ 排水(汚水・雑排水)配管には、通気管を設ける。																	
					グラスカー10k t=65	ケイ酸カルシウム板t=5.0~15.0 不燃 NM-2773	無機質クロス	規制外品目	※ 雨水配管は、トラップ側に接続する。																	
特記事項		敷地境界と建物の離隔が小さいため、掘削等の際には注意して施工すること。			化粧ケイ酸カルシウム板t=6.0 不燃 NM-3073	石こうボード	規制外品目	※ 給排水設備・換気設備等に使用する耐火二層管の取扱は、大臣認定工法とする。																		
		外壁貫通部は確実に止水処理を施すこと。			エフジーボード	不燃 NM-2967	押入ボード	規制外品目	※ 換気ダクトは、不燃材料とする。																	
		工事所掌：上屋部分はメーカー工事とし、基礎・内部造作・外構・設備は建築工事とする。			【塗装略号表】	ビニルクロス(準不燃下地防火2級) 準不燃 QM-9410	シナ合板	F☆☆☆☆	※ 消防法第9条に適合する。																	
					SOP 合成樹脂調合ペイント塗り(木部・鉄部)	無機質クロス(不燃下地 防火1級) 不燃 NM-9894	緑甲板	F☆☆☆☆	※ すべての倉庫は令116条および令130条の9に規定する危険物の貯蔵はない。																	
					DP ウレタン系耐候性塗料(鉄部)	塗料(基材不燃材料) 不燃 NM-8585				※ 居室の内装仕上げ及び換気等の措置のない天井裏等の下地材等に																
					EP 合成樹脂エマルジョンペイント塗り	塗料(準不燃材料) 準不燃 QM-9816				使用される特定建材はF☆☆☆☆等級を使用すること。																
					CL クリヤーラッカー塗り	塗料(難燃材料) 難燃 RM-9364	【特記事項】			※ 本工事に關する建築材料の品質は建築基準法第37条に適合するものとする。																
					UP 二液型ポリウレタン樹脂エナメル塗り	吹付け材(基材同等) 不燃 NM-8573	※ 平成12年建設省告示第1388号に適合すること。			※ 令第70条に規定する柱の防火被覆について、特記なき限りPBt=12.5で被覆する。																
					NP 自然塗料	グラスカー吸音板 不燃 NM-8605																				
						リソ吹付け 不燃 NM-8571																				
					押出し成型t=60 30張り 耐火1時間 FPG0NE-9036																					
御注文先	御承認			記事	月日	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐2丁目3番30号 TEL (082) (255) 5501-8			建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所 登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第293665号 藤本 誠二			1級建築士登録 第315797号 藤原 光由 高木 洋志			校閲 藤本 矢野 設計 藤原 高木			設計年月日 2022.9			工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 設計概要・外部仕上表			図面番号 A-012 縮尺 -		



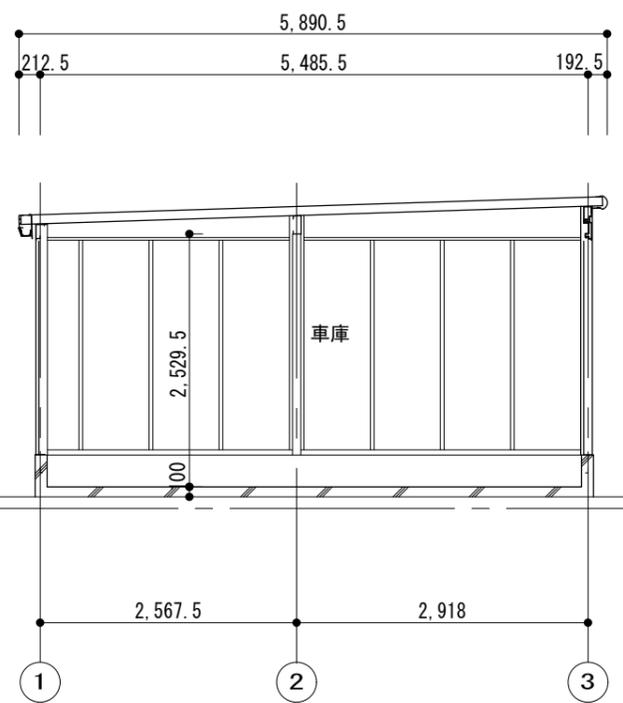
御注文先	御承認	月日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所登録 18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797号 藤賀 光由 高木 洋志	校閲 藤本 矢野 設計 藤賀 高木	設計年月日 2022. 9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 配置図	図面番号 A-014 縮尺 1/100
------	-----	-------------------------------	---	---	----------------------------------	----------------------------	------------------	-----------------------------	------------------------

※A2版をA3版に縮小 (70.7%縮小)

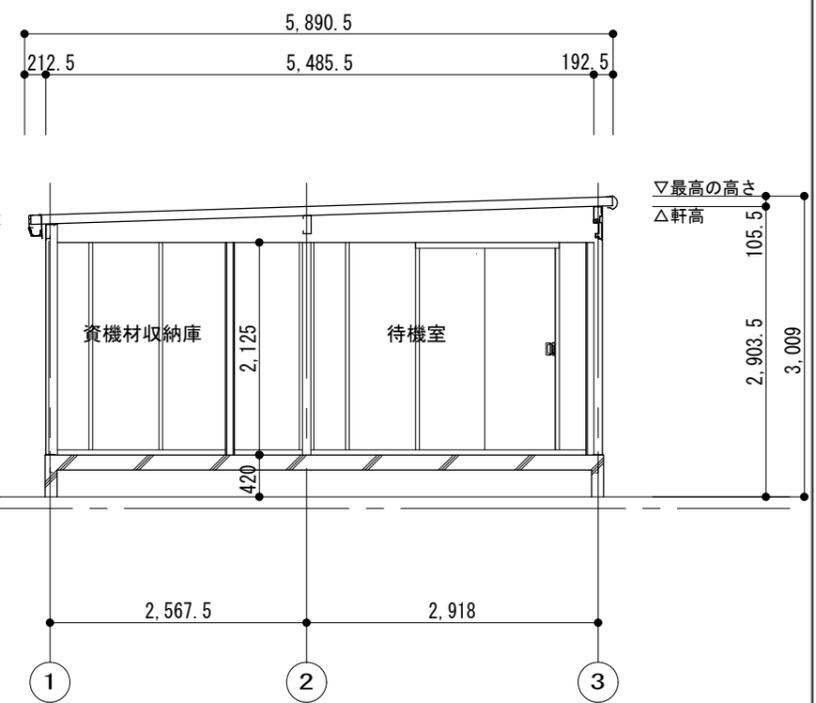


平面図 1:50

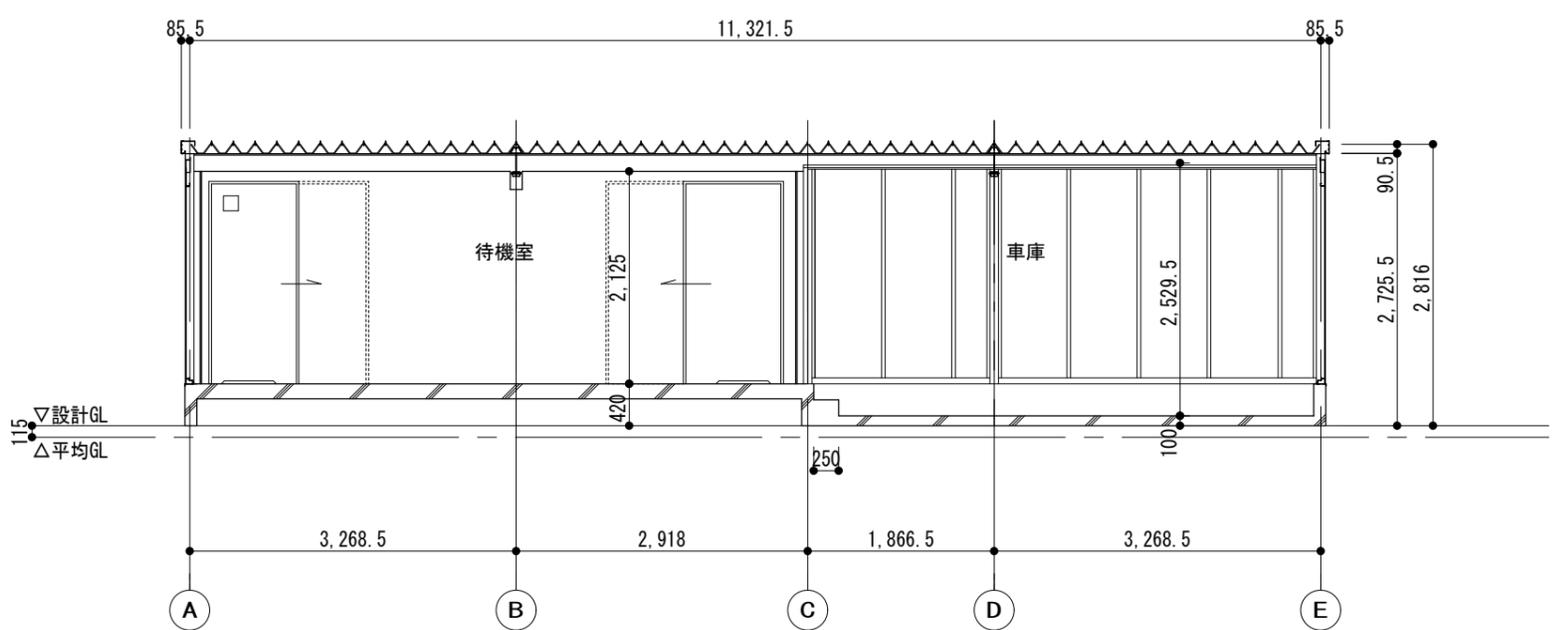
- (凡例)
- 消 消火器ABC10型
 - LGS-65 (GW) 軽鉄65形下地・内部ガラスウール充填 t=50.24k (天井面まで)



A-A'断面図 1:50



B-B'断面図 1:50

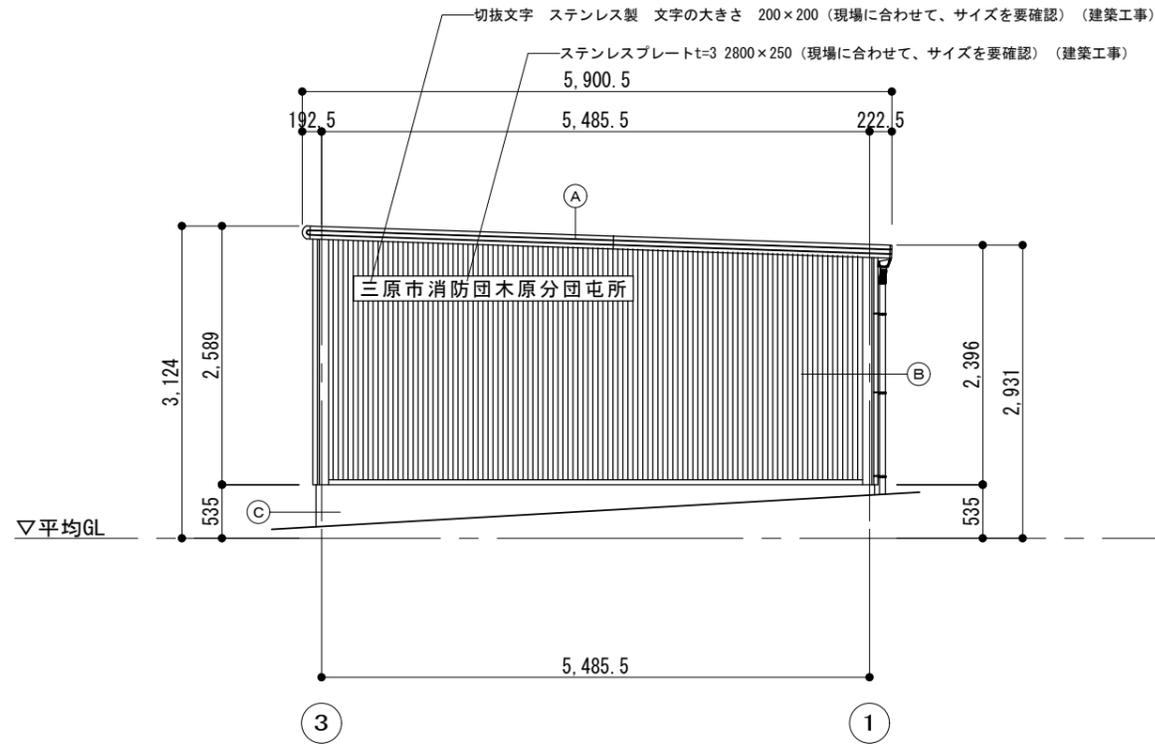


C-C'断面図 1:50

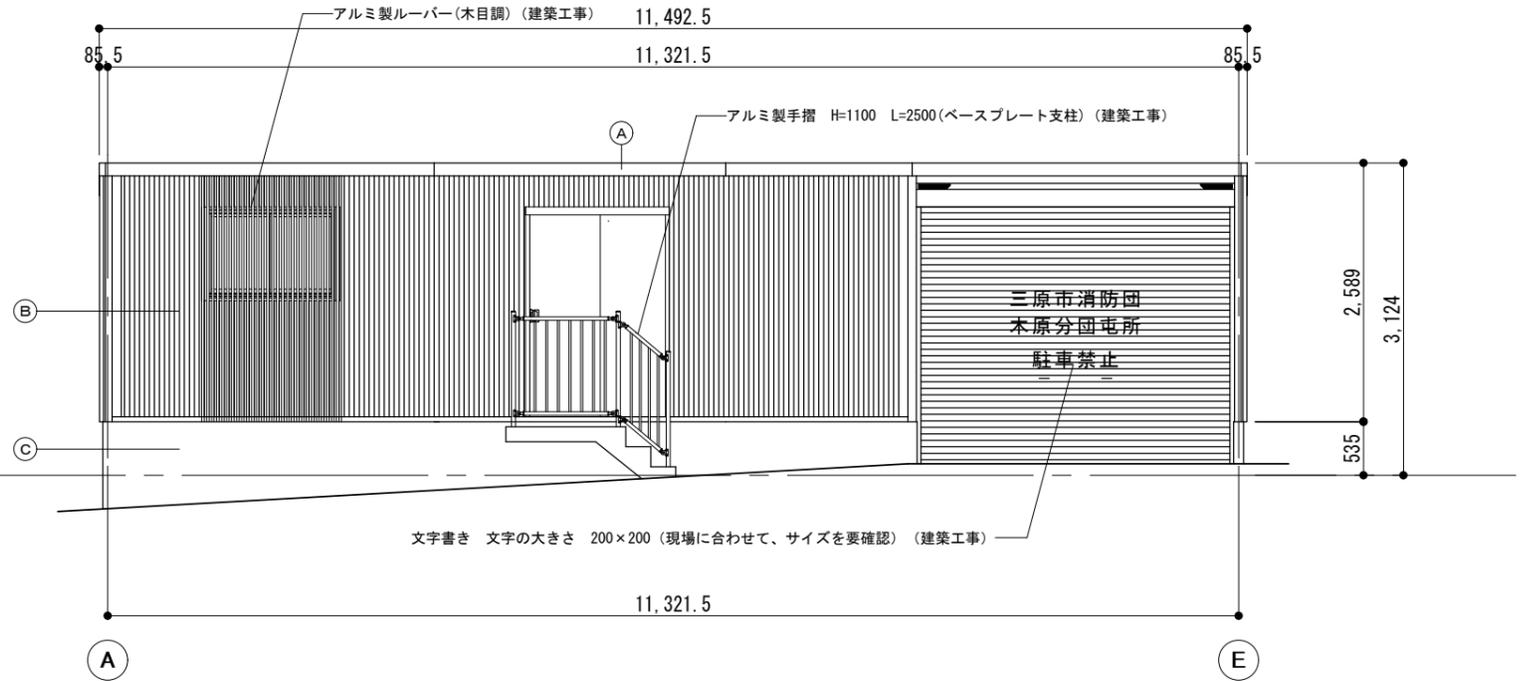
- (特記事項)
- ・車輪止めは将来の車両変更を考慮して、ボルト接合で設置場所の変更が可能なものを選定すること。
 - ・空調用スリーブは止水処理を確実に施し、設置位置については監督職員と協議の上決定すること。

御注文先	御承認	記事	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所登録 18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797号 藤原 光由 高木 洋志	校閲 藤本 矢野 設計 藤原 高木	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 平面図・断面図	図面番号 A-015 縮尺 1/50
------	-----	----	---	---	----------------------------------	----------------------	--------------	---------------------------------	-----------------------

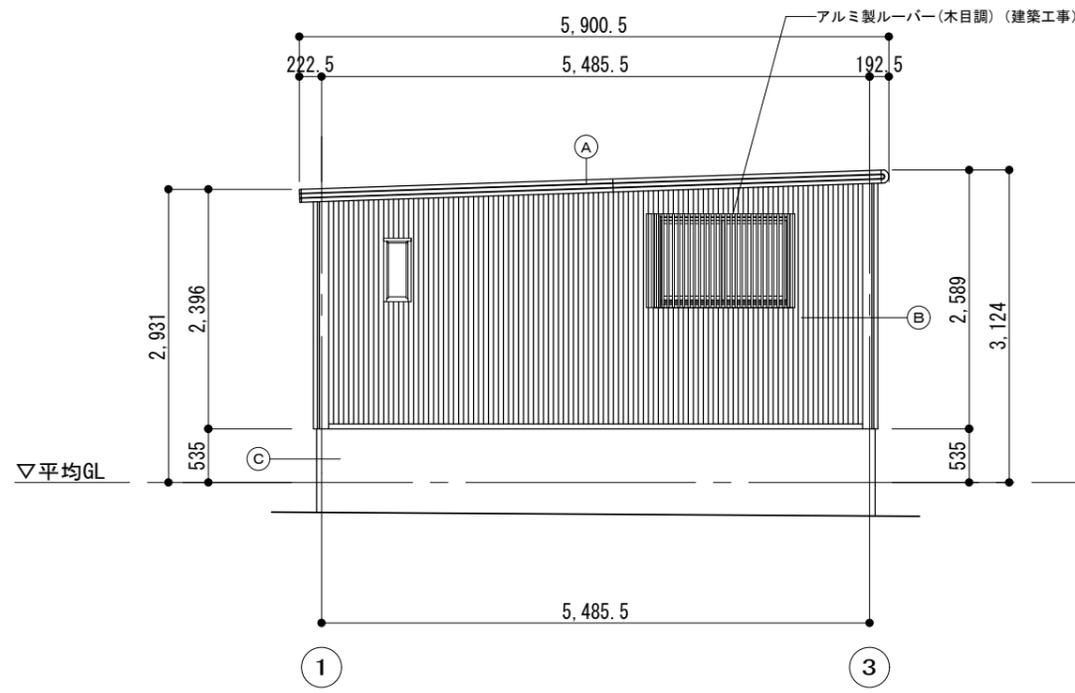
※A2版をA3版に縮小 (70.7%縮小)



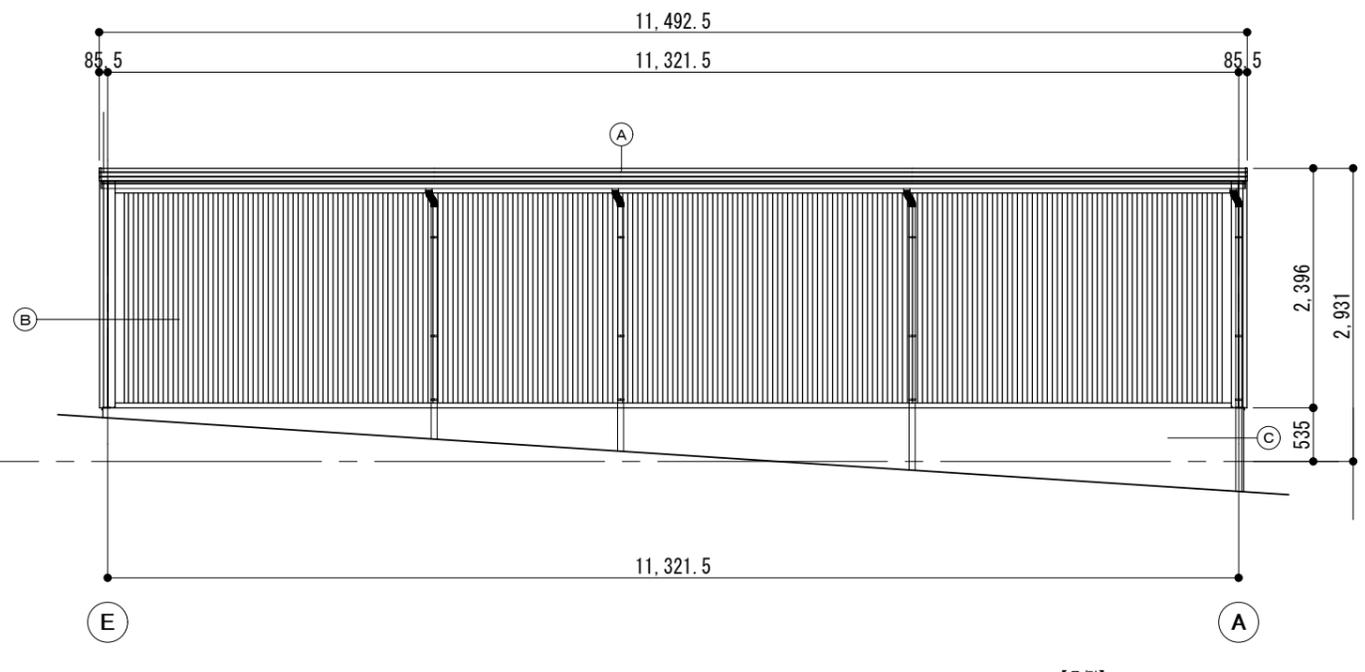
北側立面図 1:50



東側立面図 1:50



南側立面図 1:50



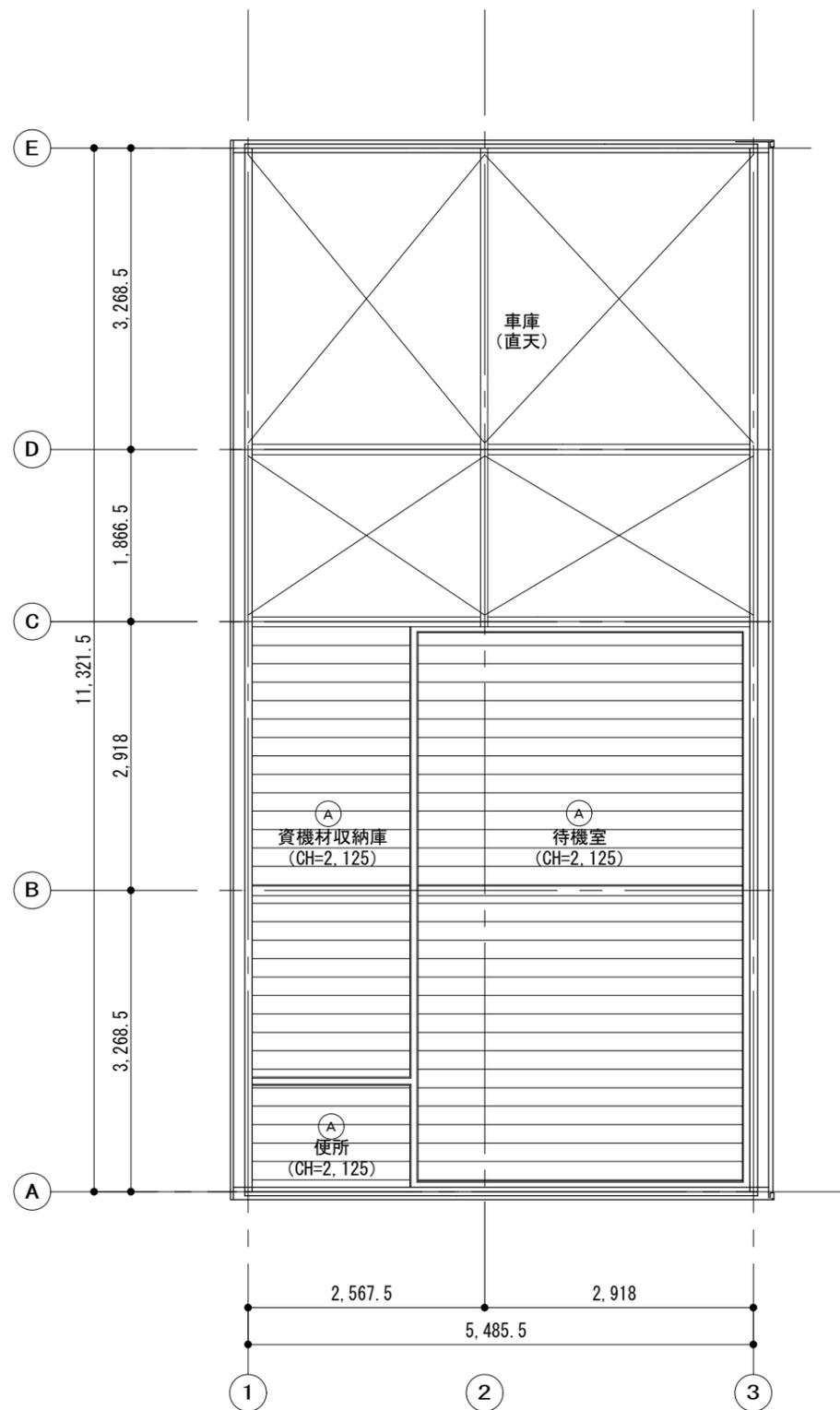
西側立面図 1:50

- 【凡例】
- Ⓐ . . . ガルバリウム鋼板 t=0.5 折板
 - Ⓑ . . . ガルバリウム鋼板 t=0.5
 - Ⓒ . . . コンクリート打放し アクリルシリコン樹脂塗装

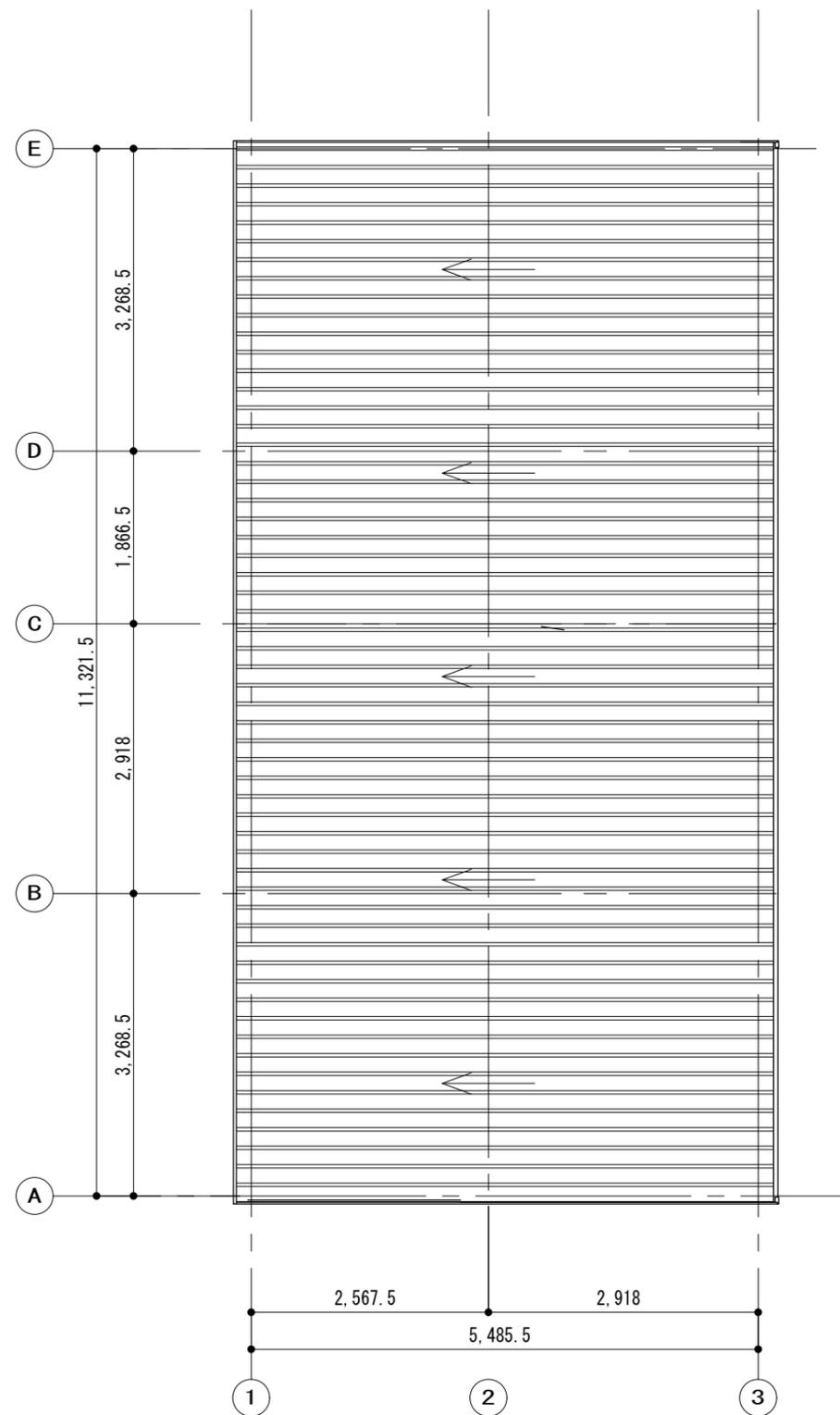
【特記事項】
 ・東側に取り付けるアルミルーバーについては、下地補強を施すこと。

御注文先	御承認	記 事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所 登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797号 藤賀 光由 高木 洋志	校閲 藤本 矢野 設計 藤賀 高木	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 立面図	図面番号 A-016 縮尺 1/50
------	-----	--------	--------	---	---	----------------------------------	----------------------	-----------------	-----------------------------	-----------------------

※A2版をA3版に縮小(70.7%縮小)



天井伏図 1 : 50



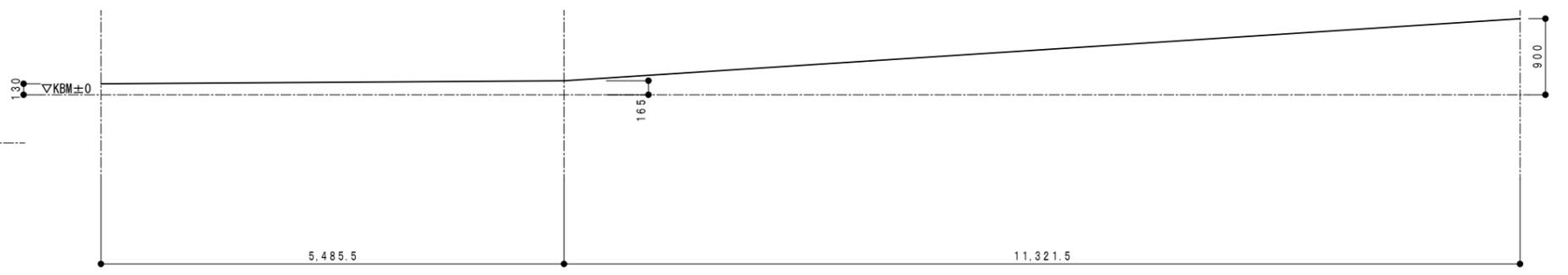
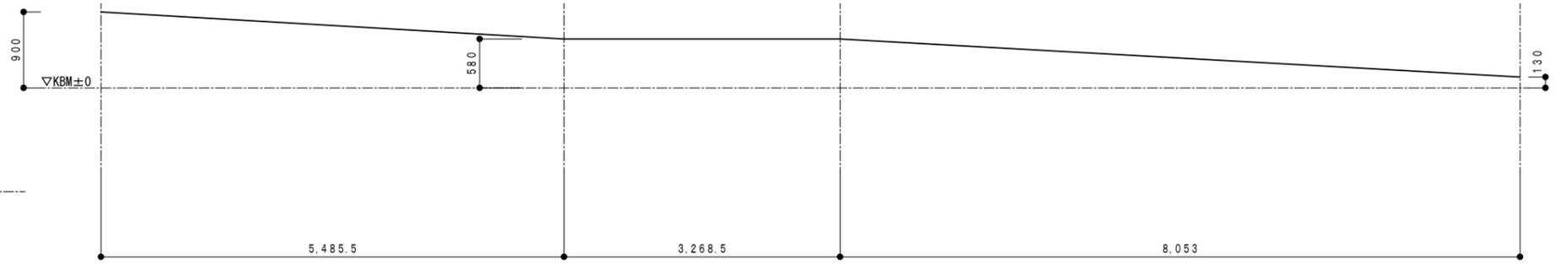
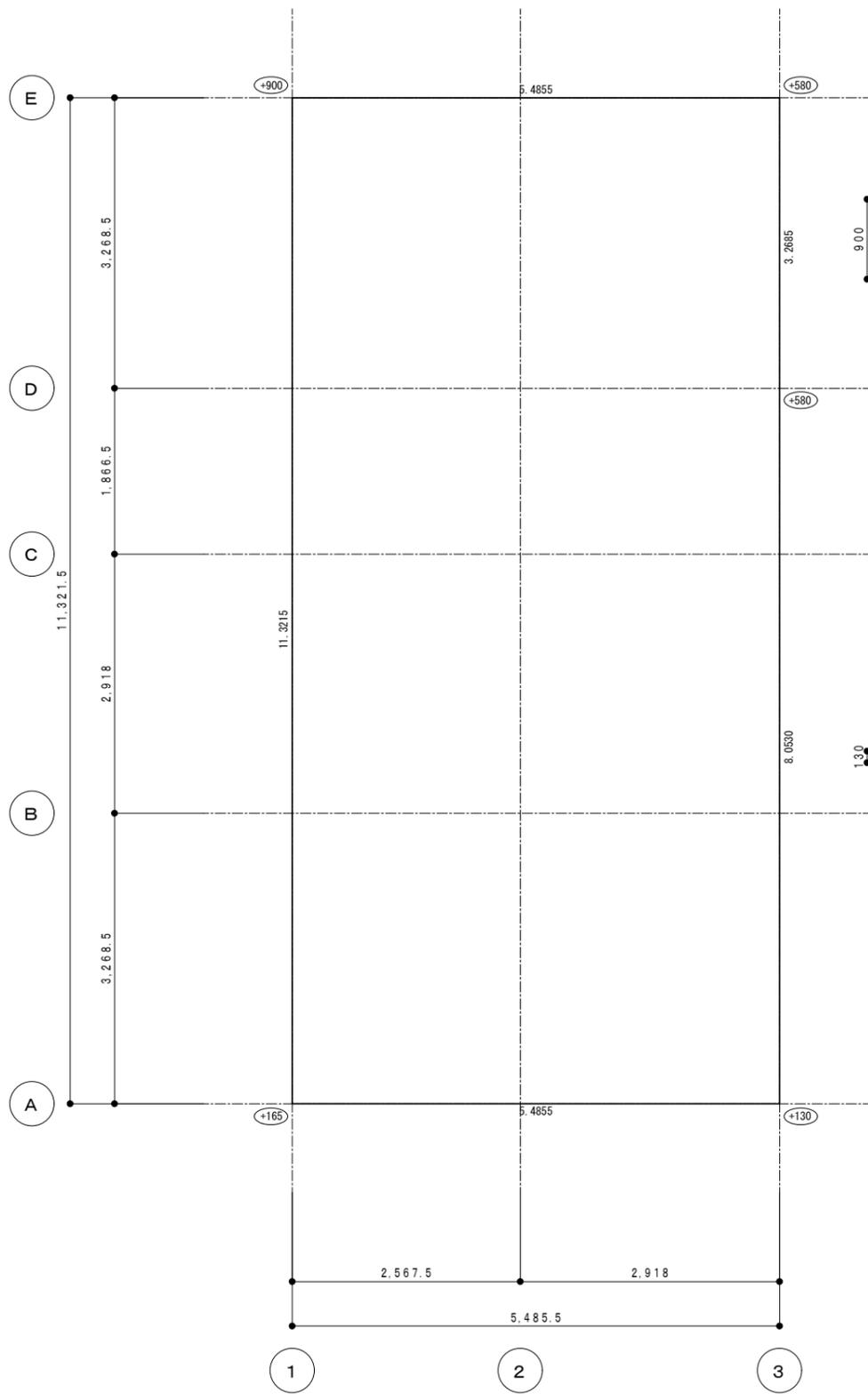
屋根伏図 1 : 50

- 凡例
- A — ガルバリウム鋼板t=0.5張り
 - CH= — 天井高さを示す

御注文先	御承認	記事	<p>中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8</p>	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第293685号 藤本 誠二	1級建築士登録 第315797号 藤賀 光由 高木 洋志	校閲 藤本 矢野 設計 藤賀 高木	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 天井伏図・屋根伏図	図面番号 A-017 縮尺 1/50
------	-----	----	--	---	---------------------------------	----------------------	--------------	-----------------------------------	-----------------------

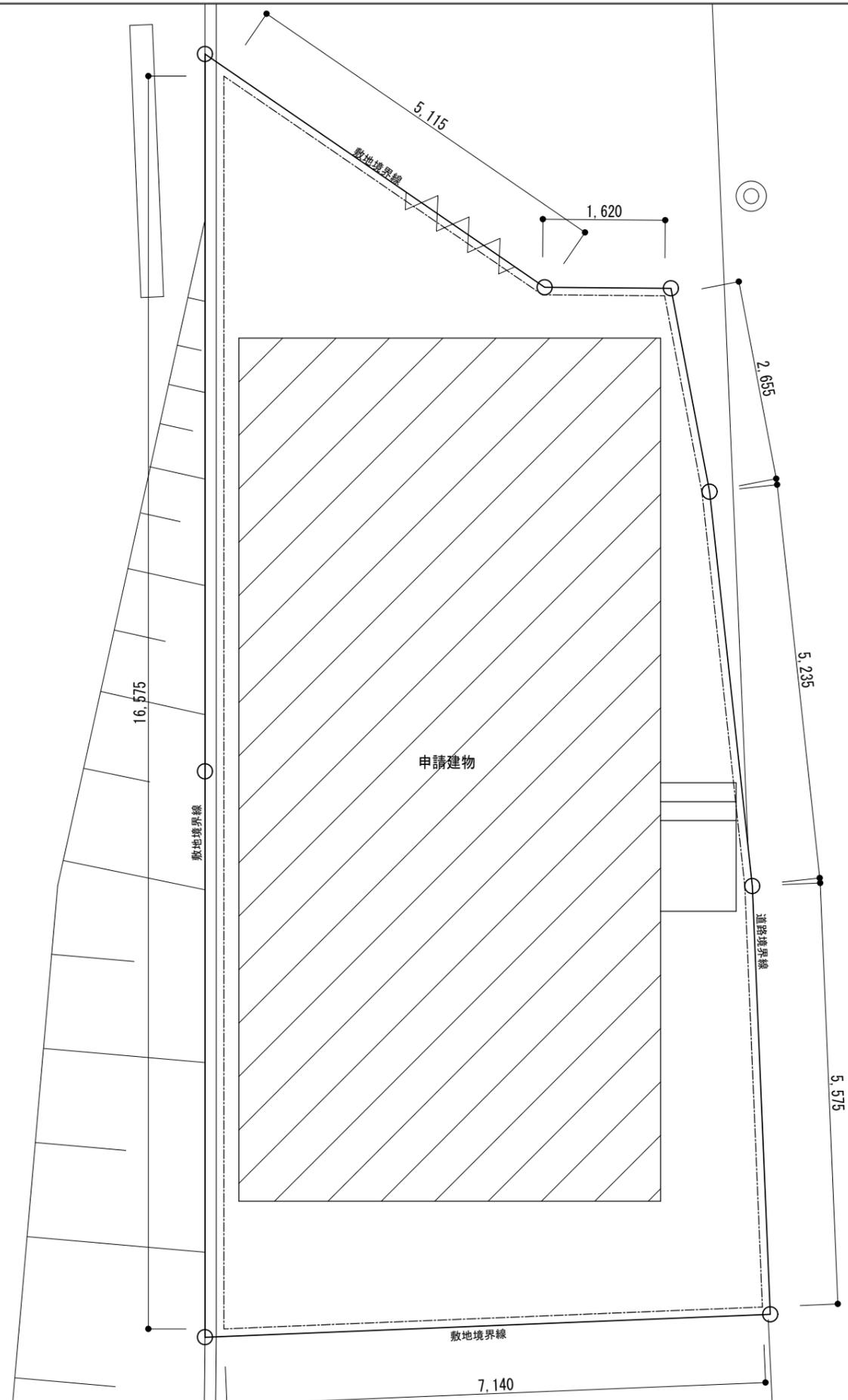
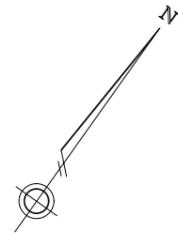
符号	数量	AW-1.....1F-2	AW-2.....1F-1	
形状				
名称		アルミサッシ引違い窓	アルミフィックス窓	
枠見込・扉厚		70	70	
枠仕上・扉仕上				
金物		水切り・アルミ額縁(造作工事)・網戸(造作工事) アルミ製ルーバー(木目調)(造作工事)・付属金物一式	水切り・目隠しシート貼り(造作工事) 付属金物一式	
硝子		透明ガラスt=3.0	ポリカーボネート板t=5.0	
備考・設置場所		待機室	便所	
符号	数量	LSD-1.....1F-1(造作工事)	LSD-2.....1F-1(造作工事)	LSD-3.....1F-2
形状				
名称		灯り窓付引込み戸	引込み戸	引き戸
枠見込・扉厚		110 (36)	110 (36)	65
枠仕上・扉仕上		化粧鋼板	化粧鋼板	ガルバリウム鋼板
金物		埋込みレール・引手・戸当りゴム・戸車・ガラリ(開口率35%)防虫ネット付 付属金物一式	埋込みレール・引手・戸当りゴム・戸車・ガラリ(開口率35%)防虫ネット付 付属金物一式	アルミ額縁(造作工事)・付属金物一式
硝子		型板ガラスt=4.0		
備考・設置場所		便所	資機材収納庫	車庫
符号	数量	SS-1.....1F-1		
形状				
名称		軽量シャッター		
枠見込・扉厚				
枠仕上・扉仕上				
金物		付属金物一式		
硝子				
備考・設置場所		車庫		

階	室名	室面積 (㎡)	採光換気チェック (令116条の2 1項1号、令111条 (法28条 2項、令20条の2 1項1号口))		排煙チェック (令128条の3の2 1項1号) (令116条の2 1項2号)		
			必要採光面積 (㎡)	計算式	フィッ	必要排煙面積 (㎡)	計算式
1階	待機室	22.80	1/20=1.14 1/20=1.14	採光 AW-1×2 1.309×0.860×2 = 2.25 換気 機械換気設備	OK OK	0.46 AW-1×2 1.309×1/2×0.793×2 = 1.03	OK
消防無窓階チェック							
階	室面積 (単位: ㎡)	必要面積	有効開口面積				
1階	62.10	1/30 2.07	建具記号	形状	計算式	面積	
			計				
			判定 = 2.07 < 0.00 → NG				



平均地盤面算定式
面積 $(5.485 \times 0.58 + 5.485 \times 0.32 \div 2) + (3.2685 \times 0.58) + (8.053 \times 0.13 + 8.053 \times 0.45 \div 2) + (5.4855 \times 0.13 + 5.4855 \times 0.035 \div 2) + (11.3215 \times 0.165 + 11.3215 \times 0.735 \div 2) = 15.651625$
周長 $5.4855 + 3.2685 + 8.053 + 5.4855 + 11.3215 = 33.614$
平均地盤面 $15.651625 \div 33.614 = 0.46562816 \dots$ KBM+0.465
KBM+0.465

御注文先	御承認	記事	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所 登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797 号 藤賀 光由 高木 洋志	校閲  設計 	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 平均地盤面算定図	図面番号 A-019 縮尺 1/50
------	-----	----	---	--	-----------------------------------	--	-----------------	--	-----------------------------



- 凡例
- . . . 伸縮ゲート(シートゲート等)
 - . . . フェンスバリケード H=1800
 - $L=5.115+1.620+5.235+5.575+7.140+16.575 = 41.26m$
 - . . . 誘導員

御注文先	御承認	記事	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797号 藤原 光由 高木 洋志	校閲 矢野 設計 高木	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 仮設計画図	図面番号 A-021 縮尺 1/50
------	-----	----	---	--	----------------------------------	----------------------	-----------------	-------------------------------	-----------------------

※A2版をA3版に縮小(70.7%縮小)

構造特記仕様書																																					
<p>《一般事項》</p> <p>1. 適用範囲</p> <p>(1) 構造関係共通図(配筋標準図)は、鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。</p> <p>(2) 構造関係共通図(鉄骨標準図)は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。</p> <p>(3) 構造関係共通図(配筋標準図、鉄骨標準図)以外については、図面及び監督職員の指示による。</p> <p>(4) 設計図書及び特記仕様書に記載されていない事項は、下記等に準拠する。</p> <p>a) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修『公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)』</p> <p>b) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修『建築工事監理指針(令和4年版)』</p> <p>c) 一般社団法人 日本建築学会『建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事』</p> <p>d) 一般社団法人 日本建築学会『建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事』</p> <p>e) 一般社団法人 日本建築学会『鉄骨工事技術指針・工場製作編』</p> <p>f) 一般社団法人 日本建築学会『鉄骨工事技術指針・工事現場施工編』</p> <p>g) 一般社団法人 日本建築学会『鉄骨精度測定指針』</p> <p>h) 一般社団法人 日本建築学会『鋼構造接合部設計指針』</p> <p>i) 一般社団法人 日本建築学会『鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説』</p> <p>j) 一般社団法人 日本建築学会『冷間成形角鋼管設計・施工マニュアル』</p> <p>k) その他 日本建築学会及び日本建築センター『各種基(規)準、指針』</p> <p>2. 設計図書の優先順位</p> <p>(1) 設計図書の図面のうち建築構造図に相違がある場合、本工事の優先順位は、以下の通りとする。</p> <p>① 質疑回答書、追加説明書、現場説明書</p> <p>② 構造特記仕様書</p> <p>③ 設計図(構造図)</p> <p>④ 構造関係共通図(配筋標準図、鉄骨標準図)</p> <p>⑤ 公共建築工事標準仕様書</p> <p>⑥ その他 各種基(規)準、指針等</p> <p>※特記仕様書と設計図面に差異が生じた場合は協議すること。</p> <p>3. 特記仕様書の取り扱い</p> <p>a) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。</p> <p>b) 特記事項は◎印の付いたものを適用する。</p> <p>c) ◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。</p> <p>d) ◎印と◎印の付いた場合は共に適用する。</p> <p>e) ・印のものは場合は、適用しない。</p> <p>4. 用語の定義</p> <p>a) 設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書、構造関係共通図以外の図面をいう。</p> <p>b) 異形鉄筋の径(本文、図、表において「D、d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。</p> <p>c) 長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。</p> <p>5. 記号等</p> <p>図面で使用する記号等は、表1.1を標準とする。</p> <table border="1"> <caption>表1.1 異形鉄筋の断面表示記号</caption> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>●</th> <th>×</th> <th>♯</th> <th>○</th> <th>◎</th> <th>⊗</th> <th>⊙</th> <th>⊚</th> <th>⊛</th> <th>⊜</th> <th>⊝</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>異形鉄筋</td> <td>D10</td> <td>D13</td> <td>D16</td> <td>D19</td> <td>D22</td> <td>D25</td> <td>D29</td> <td>D32</td> <td>D35</td> <td>D38</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最外径</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>33</td> <td>36</td> <td>40</td> <td>43</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>記号の説明</p> <p>d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値(丸鋼では径)</p> <p>◎: 中心線</p> <p>r: 半径</p> <p>R: 直径</p> <p>φ: 直径又は丸鋼</p> <p>ST: あばら筋</p> <p>HOOP: 帯筋</p> <p>P, ⊙: 間隔</p> <p>l o, L o: 部材間の内法距離</p> <p>R: 直径</p> <p>h o: 部材間の内法高さ</p> <p>B: 部材の幅</p> <p>D: 部材のせい又は異形鉄筋</p> <p>・フックのない場合</p> <p>・フックのある場合</p> <p>・本数に差がある場合</p> <p>・機械式継手表示</p> <p>・溶接継手表示(ガス圧接、突き合せ溶接)</p>		記号	●	×	♯	○	◎	⊗	⊙	⊚	⊛	⊜	⊝	異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38		最外径	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	
記号	●	×	♯	○	◎	⊗	⊙	⊚	⊛	⊜	⊝																										
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38																											
最外径	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43																											
<p>《地盤調査資料》</p> <p>1. 調査報告書</p> <p>・当該敷地の既往調査報告書のみによる【設計段階で行ったもの】</p> <p>・当該敷地の既往調査報告書及び今回工事に含まれる地盤調査報告書による</p> <p>※工事着手前に当該敷地内で()図に示す地盤調査を行う</p> <p>2. 調査内容(既往調査内容含む)</p> <p>・サウンディング</p> <p>※標準貫入試験</p> <p>◎スウェーデン式サウンディング試験</p> <p>・オランダ式二重管コーン貫入試験</p> <p>・土質試験</p> <p>・物理的性質試験</p> <p>(・土粒子密度試験 ・含水比試験 ・粒度試験 ・液性限界、塑性限界試験)</p> <p>・力学的性質試験</p> <p>(・一軸圧縮試験 ・圧密試験 ・直接せん断試験 ・三軸圧縮試験)</p> <p>・振動三軸試験 ・中空ねじりせん断試験)</p> <p>・現場透水試験</p> <p>・孔内水平載荷試験</p> <p>・弾性波速度検層</p> <p>・常時微動測定</p> <p>・平板載荷試験</p>																																					

《建物概要・構造設計概要等》																																																					
<p>1. 建物概要</p> <p>a. 工事名称 (木原分屯屯所建設工事)</p> <p>b. 工事場所 (広島県三原市)</p> <p>c. 延べ面積 (62.09) m²</p> <p>d. 建築面積 (62.09) m²</p> <p>e. 階数 地上(1)階 地下(―)階 塔屋(―)階</p> <p>f. 高さ関係 高さ(3.079) m 軒高(3.079) m</p> <p>g. 工事種別 ○新築 ・増築 ・改築 ・移転 ・大規模の修繕 ・大規模の模様替</p> <p>2. 構造概要</p> <p>a. 構造種別 地上: R C造 ○S造 ・SRC造 ・その他() 地下: R C造 ・S造 ・SRC造 ・その他()</p> <p>b. 架構形式 X方向: 地上 ・ラーメン構造 ・耐震壁付ラーメン構造 ○その他(プレハブ) 地下 ・ラーメン構造 ・耐震壁付ラーメン構造 ・その他() Y方向: 地上 ・ラーメン構造 ・耐震壁付ラーメン構造 ○その他(プレハブ) 地下 ・ラーメン構造 ・耐震壁付ラーメン構造 ・その他()</p> <p>c. 耐震構造方式 ○耐震構造 ・制震構造 ・免震構造(免震層の位置 ・基礎下免震 ・中間階免震【 階])</p> <p>d. 基礎方式 ○直接基礎(・独立 ○連続 ・べた) 地盤改良併用(・有り ・無し) ・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭 ・既製コンクリート杭 ・鋼管杭) 支持層、杭先端位置(※図示による)</p> <p>e. 耐震安全性の分類 重要度係数 I = ・1.50(I類) ・1.25(II類) ・1.00(III類) 重要度係数の適用 ・1次設計のみ ・2次設計のみ ・1次、2次設計とも ・局部震度</p> <p>3. 計算法等</p> <p>a. 計算ルート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>各計算手法</th> <th>X方向</th> <th>Y方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・許容応力度計算(令第82条各号+令第82条の4)【ルート1】</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>・許容応力度等計算【ルート2】</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・保有水平耐力計算【ルート3】</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・その他の計算法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・特別な検証法(時刻歴応答解析による)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・大臣認定(認定番号)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>指定性能評価機関名() 評価 ・高層評価 ・免震評価 ・その他(評価番号)</p> <p>b. 設計層間変形角 X方向: 一次設計()、二次設計() Y方向: 一次設計()、二次設計()</p> <p>4. 外力条件等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>適用・分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">地震力</td> <td>設計用一次固有周期 (0.09)秒</td> </tr> <tr> <td>地震地域係数(Z) Z = 1.00・(0.90)・0.80・0.70</td> </tr> <tr> <td>地盤種別 第(2)種地盤 Tc=(0.6)秒</td> </tr> <tr> <td>振動特性係数 R t = (1.0)</td> </tr> <tr> <td>標準せん断力係数 X方向 Y方向 一次設計 Co=(0.3) Co=(0.3) 二次設計 Co=() Co=()</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">風圧力(施行令第7条)</td> <td>地表面相区分 基準風速(V) 速度圧(q) ・I・II・III・IV (32)m/s (740)N/m²</td> </tr> <tr> <td>地表面相区分 基準風速(V) 平均速度圧(q) ・I・II・III・IV (32)m/s (430)N/m²</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">積雪荷重</td> <td>区域 ・多雪区域 ・多雪区域以外</td> </tr> <tr> <td>設計垂直積雪量 (30)cm</td> </tr> <tr> <td>単位荷重 (20)N/m²/cm 垂直積雪量の低減 ・低減する ○低減しない</td> </tr> </tbody> </table> <p>※積雪荷重は、『広島県建築基準法施行細則 第12の3』の規定により設定している。</p> <p>5. 積載荷重 (代表部分) (N/m²)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>床用・小梁用</th> <th>架構用</th> <th>地震用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>待機室</td> <td>2900</td> <td>1800</td> <td>800</td> </tr> <tr> <td>資機材格納庫</td> <td>2900</td> <td>1800</td> <td>800</td> </tr> <tr> <td>車庫</td> <td>5400</td> <td>3900</td> <td>2000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※: 金属屋根は、将来改修用として荷重を見込む。</p>		各計算手法	X方向	Y方向	・許容応力度計算(令第82条各号+令第82条の4)【ルート1】	○	○	・許容応力度等計算【ルート2】			・保有水平耐力計算【ルート3】			・その他の計算法			・特別な検証法(時刻歴応答解析による)			・大臣認定(認定番号)			項目	適用・分類	地震力	設計用一次固有周期 (0.09)秒	地震地域係数(Z) Z = 1.00・(0.90)・0.80・0.70	地盤種別 第(2)種地盤 Tc=(0.6)秒	振動特性係数 R t = (1.0)	標準せん断力係数 X方向 Y方向 一次設計 Co=(0.3) Co=(0.3) 二次設計 Co=() Co=()	風圧力(施行令第7条)	地表面相区分 基準風速(V) 速度圧(q) ・I・II・III・IV (32)m/s (740)N/m ²	地表面相区分 基準風速(V) 平均速度圧(q) ・I・II・III・IV (32)m/s (430)N/m ²	積雪荷重	区域 ・多雪区域 ・多雪区域以外	設計垂直積雪量 (30)cm	単位荷重 (20)N/m ² /cm 垂直積雪量の低減 ・低減する ○低減しない	用途	床用・小梁用	架構用	地震用	待機室	2900	1800	800	資機材格納庫	2900	1800	800	車庫	5400	3900	2000
各計算手法	X方向	Y方向																																																			
・許容応力度計算(令第82条各号+令第82条の4)【ルート1】	○	○																																																			
・許容応力度等計算【ルート2】																																																					
・保有水平耐力計算【ルート3】																																																					
・その他の計算法																																																					
・特別な検証法(時刻歴応答解析による)																																																					
・大臣認定(認定番号)																																																					
項目	適用・分類																																																				
地震力	設計用一次固有周期 (0.09)秒																																																				
	地震地域係数(Z) Z = 1.00・(0.90)・0.80・0.70																																																				
	地盤種別 第(2)種地盤 Tc=(0.6)秒																																																				
	振動特性係数 R t = (1.0)																																																				
	標準せん断力係数 X方向 Y方向 一次設計 Co=(0.3) Co=(0.3) 二次設計 Co=() Co=()																																																				
風圧力(施行令第7条)	地表面相区分 基準風速(V) 速度圧(q) ・I・II・III・IV (32)m/s (740)N/m ²																																																				
	地表面相区分 基準風速(V) 平均速度圧(q) ・I・II・III・IV (32)m/s (430)N/m ²																																																				
積雪荷重	区域 ・多雪区域 ・多雪区域以外																																																				
	設計垂直積雪量 (30)cm																																																				
	単位荷重 (20)N/m ² /cm 垂直積雪量の低減 ・低減する ○低減しない																																																				
用途	床用・小梁用	架構用	地震用																																																		
待機室	2900	1800	800																																																		
資機材格納庫	2900	1800	800																																																		
車庫	5400	3900	2000																																																		

4章 地業工事	
<p>① 支持地盤</p> <p>○ 直接基礎 (3.2.1)</p> <p>支持地盤の種類及び位置(基礎底部の位置含む)</p> <p>※図示による</p> <p>支持地盤の長期設計支持力度 (70) kN/m²</p> <p>試験掘(掘切り底の状態の確認)</p> <p>※行わない</p> <p>・行う 位置等 ※図示による</p> <p>・杭基礎 (4.2.2)</p> <p>支持地盤の位置及び種類(基礎ぐいの先端位置含む)</p> <p>※図示による</p> <p>試験杭 ()本</p> <p>※図示による</p> <p>試験掘</p> <p>・行わない</p> <p>・行う 位置等は、監督員または監理者と協議のうえ決定する。</p> <p>・杭の載荷試験 (4.2.3)</p> <p>※行わない</p> <p>・行う ・杭の鉛直載荷試験 ・杭の水平載荷試験 ・杭の引き抜き試験</p> <p>杭径()φ 箇所数()箇所 最大載荷荷重()kN</p> <p>試験方法は、地盤工学会基準『杭の鉛直載荷試験方法・同解説』及び『杭の水平載荷試験方法(JGS 1831)』による。</p> <p>・地盤の平板載荷試験 (4.2.4)</p> <p>※行わない</p> <p>・行う 箇所数()箇所 試験深さ G L - ()m 対象地盤() 最大載荷荷重()kN/m² 載荷板 ※直径φ300、鋼板厚さ25mm以上</p> <p>試験方法は、地盤工学会『地盤調査の方法と解説』による。(注)最大載荷荷重は、極限支持力[長期許容支持力の3倍]以上とする。</p> <p>種類 (4.3.3)</p> <p>・連心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭)</p> <p>・節付き連心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC節杭)</p> <p>・プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭)</p> <p>・節付きプレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC節杭)</p> <p>・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭)</p> <p>SC杭の鋼管材料 ※SKK490 ・SKK400</p> <p>寸法、継手、性能等(種別:種類、性能及び曲げ強度区分)</p> <p>※図示による</p> <p>杭先端部形状</p> <p>・開放形 ・半開放形 ・閉塞形</p> <p>なお、特定埋込杭工法における杭材料は、JIS又は認定条件に適合するものとする。</p> <p>施工方法</p> <p>・打込み工法(・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー) プレボリングの併用 ※行う ・行わない</p> <p>掘削深さ ※図示による</p> <p>掘削径 ※図示による</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ※杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※1/100以内</p> <p>試験杭 試験杭の位置 ※図示による 打込杭の推定支持力の算定方法 ※図示による</p> <p>・セメントミルク工法 (4.3.4)</p> <p>アースオーガーの支持地盤への掘削深さ ※1.5m程度</p> <p>杭の支持地盤への掘入れ深さ ※1.0m以上</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ※杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※1/100以内</p> <p>試験杭 試験杭の位置 ※図示による</p> <p>・特定埋込杭工法 (4.3.5)</p> <p>・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力度でα=250を採用できる工法</p> <p>・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力度 α、β、γを採用できる工法 α=()、β=()、γ=()</p> <p>工法 ※プレボリング拡大根固め工法 ・中掘り拡大根固め工法</p> <p>杭周囲定液 ※使用する ・使用しない</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ※杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※1/100以内</p> <p>試験杭 試験杭の位置 ※図示による</p> <p>杭継手工法 (4.3.6)(4.3.7)</p> <p>・アーク溶接継手 ※標準仕様書4.3.6による</p> <p>溶接材料 ※標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・図示による</p> <p>・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)</p> <p>工法 ※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法</p> <p>検査 ※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目</p> <p>施工 ※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による</p> <p>杭頭の処理 (4.3.8)</p> <p>※切断しない ・切断する</p> <p>処理方法(切断に伴う補強方法含む) ※図示による</p> <p>杭頭の中詰め材料 ※基礎のコンクリートと同調のもの</p>	<p>3 鋼杭地業 (4.4.3)</p> <p>種類(種別:種類、性能及び曲げ強度区分)</p> <p>※SKK490 ・SKK400</p> <p>寸法、継手、性能等(種別:種類、性能及び曲げ強度区分)</p> <p>※図示による</p> <p>杭先端部形状</p> <p>・開放形 ・半開放形 ・閉塞形</p> <p>標準仕様書4.4.1、表4.4.2による</p> <p>先端部の補強(補強バンド等)及びその他付属品材質 ※SS400と同等又はそれ以上</p> <p>施工方法</p> <p>・打込み工法(・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー) (4.4.4) プレボリングの併用 ※行う ・行わない</p> <p>掘削深さ及び掘削径 ※図示による</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ※杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※1/100以内</p> <p>試験杭 試験杭の位置 ※図示による 打込杭の推定支持力の算定方法 ※図示による</p> <p>・特定埋込杭工法 (4.4.4)</p> <p>・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力度でα=250を採用できる工法</p> <p>・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力度 α、β、γを採用できる工法 α=()、β=()、γ=()</p> <p>工法 ・中掘り拡大根固め工法</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ※杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※1/100以内</p> <p>試験杭 試験杭の位置 ※図示による</p> <p>杭の現場継手 (4.4.5)</p> <p>・溶接継手 ※JIS A 5525による</p> <p>形状 ※標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・図示による</p> <p>溶接材料 ※標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・図示による</p> <p>・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)</p> <p>工法 ※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法</p> <p>検査 ※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目</p> <p>施工 ※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による</p> <p>杭頭の処理 (4.4.6)</p> <p>※切断しない ・切断する</p> <p>処理方法(切断に伴う補強方法含む) ※図示による</p> <p>杭頭の中詰め材料 ※基礎のコンクリートと同調のもの</p> <p>施工管理技術者 (4.5.2)</p> <p>※適用する</p> <p>掘削工法 (4.5.1)(4.5.5)</p> <p>・アースドリル工法(※安定液使用 ・無水掘削)</p> <p>・リバース工法</p> <p>・オールケーシング工法(孔内の水張り ※行う ・行わない)</p> <p>併用する工法 (4.5.1)(4.5.5)</p> <p>・場所打ち鋼管コンクリート杭工法</p> <p>鋼管巻きの材料 ※SKK490 ・SKK400</p> <p>・拡底杭工法(※安定液使用)</p> <p>寸法等(杭径・鋼管径・鋼管厚、杭長、本数、長期設計支持力) ※図示による</p> <p>材料その他 (4.5.3)(4.5.4)(4.5.5)</p> <p>鉄筋の種類 ※5章 鉄筋工事 5.1 鉄筋の種類による</p> <p>帯筋 ※構造関係共通図【配筋標準図その2】6.2 帯筋(a)(3)④(ロ)による</p> <p>鉄筋かごの補強 ※杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50~75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき4箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。溶接長さは、補強材の幅とする。</p> <p>・</p> <p>鉄筋の最小かぶり厚さ</p> <p>・100mm ・150mm</p> <p>鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ ※図示による</p> <p>セメントの種類 ※高炉セメントB種</p> <p>コンクリートの種別</p> <p>・A種(無水堀りの場合) ・B種(上記以外)</p> <p>・審査(評定又は大臣認定)された内容による</p> <p>コンクリートの設計基準強度</p> <p>・図示による</p> <p>構造体強度補正值</p> <p>・3N/mm² ・図示による</p> <p>・審査(評定又は大臣認定)された内容による</p> <p>スランブ</p> <p>・18 ・21</p> <p>試験杭</p> <p>試験杭の位置 ※図示による</p> <p>孔壁測定 ※行う(オールケーシング工法は除く) ・行わない</p> <p>測定方法 ※超音波測定器</p> <p>測定箇所 ※試験杭()箇所及び本杭()箇所</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ※杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※1/100以内</p>
<p>2 既製コンクリート杭地業 (4.3.3)</p> <p>種類 (4.3.3)</p> <p>・連心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭)</p> <p>・節付き連心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC節杭)</p> <p>・プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭)</p> <p>・節付きプレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC節杭)</p> <p>・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭)</p> <p>SC杭の鋼管材料 ※SKK490 ・SKK400</p> <p>寸法、継手、性能等(種別:種類、性能及び曲げ強度区分)</p> <p>※図示による</p> <p>杭先端部形状</p> <p>・開放形 ・半開放形 ・閉塞形</p> <p>なお、特定埋込杭工法における杭材料は、JIS又は認定条件に適合するものとする。</p> <p>施工方法</p> <p>・打込み工法(・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー) プレボリングの併用 ※行う ・行わない</p> <p>掘削深さ ※図示による</p> <p>掘削径 ※図示による</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ※杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※1/100以内</p> <p>試験杭 試験杭の位置 ※図示による 打込杭の推定支持力の算定方法 ※図示による</p> <p>・セメントミルク工法 (4.3.4)</p> <p>アースオーガーの支持地盤への掘削深さ ※1.5m程度</p> <p>杭の支持地盤への掘入れ深さ ※1.0m以上</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ※杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※1/100以内</p> <p>試験杭 試験杭の位置 ※図示による</p> <p>・特定埋込杭工法 (4.3.5)</p> <p>・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力度でα=250を採用できる工法</p> <p>・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力度 α、β、γを採用できる工法 α=()、β=()、γ=()</p> <p>工法 ※プレボリング拡大根固め工法 ・中掘り拡大根固め工法</p> <p>杭周囲定液 ※使用する ・使用しない</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ※杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※1/100以内</p> <p>試験杭 試験杭の位置 ※図示による</p> <p>杭継手工法 (4.3.6)(4.3.7)</p> <p>・アーク溶接継手 ※標準仕様書4.3.6による</p> <p>溶接材料 ※標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・図示による</p> <p>・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)</p> <p>工法 ※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法</p> <p>検査 ※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目</p> <p>施工 ※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による</p> <p>杭頭の処理 (4.3.8)</p> <p>※切断しない ・切断する</p> <p>処理方法(切断に伴う補強方法含む) ※図示による</p> <p>杭頭の中詰め材料 ※基礎のコンクリートと同調のもの</p>	<p>4 場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1)(4.5.5)</p> <p>施工管理技術者 (4.5.2)</p> <p>※適用する</p> <p>掘削工法 (4.5.1)(4.5.5)</p> <p>・アースドリル工法(※安定液使用 ・無水掘削)</p> <p>・リバース工法</p> <p>・オールケーシング工法(孔内の水張り ※行う ・行わない)</p> <p>併用する工法 (4.5.1)(4.5.5)</p> <p>・場所打ち鋼管コンクリート杭工法</p> <p>鋼管巻きの材料 ※SKK490 ・SKK400</p> <p>・拡底杭工法(※安定液使用)</p> <p>寸法等(杭径・鋼管径・鋼管厚、杭長、本数、長期設計支持力) ※図示による</p> <p>材料その他 (4.5.3)(4.5.4)(4.5.5)</p> <p>鉄筋の種類 ※5章 鉄筋工事 5.1 鉄筋の種類による</p> <p>帯筋 ※構造関係共通図【配筋標準図その2】6.2 帯筋(a)(3)④(ロ)による</p> <p>鉄筋かごの補強 ※杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50~75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき4箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。溶接長さは、補強材の幅とする。</p> <p>・</p> <p>鉄筋の最小かぶり厚さ</p> <p>・100mm ・150mm</p> <p>鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ ※図示による</p> <p>セメントの種類 ※高炉セメントB種</p> <p>コンクリートの種別</p> <p>・A種(無水堀りの場合) ・B種(上記以外)</p> <p>・審査(評定又は大臣認定)された内容による</p> <p>コンクリートの設計基準強度</p> <p>・図示による</p> <p>構造体強度補正值</p> <p>・3N/mm² ・図示による</p> <p>・審査(評定又は大臣認定)された内容による</p> <p>スランブ</p> <p>・18 ・21</p> <p>試験杭</p> <p>試験杭の位置 ※図示による</p> <p>孔壁測定 ※行う(オールケーシング工法は除く) ・行わない</p> <p>測定方法 ※超音波測定器</p> <p>測定箇所 ※試験杭()箇所及び本杭()箇所</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ※杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※1/100以内</p>

御注文先	御承認	記事	月日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐2丁目3番30号 TEL (082) (255)5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所 登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第315797号 藤賀 光由 1級建築士登録 第293685号 藤本 誠二	校閲  藤本 誠二 設計  藤賀 光由	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分屯屯所建設工事 図面名称 構造特記仕様書(1)	図面番号 S-001 縮尺 1/-
------	-----	----	----	---	--	--	--------------	------------------------------------	----------------------

<p>⑤ 砂利地業</p> <p>⑥ 捨てコンクリート地業</p> <p>⑦ 床下防湿層</p> <p>8 地盤改良工法</p> <p>9 置換コンクリート地業 (ラップルコンクリート地業)</p> <p>10 接地部の断熱材 (フロンを使用しないもの)</p>	<p>(4.6.1) (4.6.2) (4.6.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材料</th> <th>基礎下</th> <th>基礎梁下</th> <th>土間コンクリート下</th> <th>土に接するスラブ底面下</th> <th>ピット底面下</th> </tr> <tr> <td>砂利地業</td> <td>※ 再生クラッシュサン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石</td> <td>※ 60mm ○ 100mm</td> <td>※ 60mm ○ 100mm</td> <td>※ 60mm ○ 100mm</td> <td>※ 60mm ・</td> <td>※ 60mm ・</td> </tr> <tr> <td>捨てコンクリート</td> <td>※ 普通コンクリート</td> <td>※ 50mm ・</td> <td>※ 50mm ・</td> <td>※ 無し ・ 50mm</td> <td>※ 50mm ・</td> <td>※ 50mm ・</td> </tr> <tr> <td>ラップルコンクリート</td> <td>※ 普通コンクリート</td> <td>※ 図示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>捨てコンクリート (4.6.4)</p> <p>設計基準強度 ※ 6章 コンクリート工事 による スラブ ※ 6章 コンクリート工事 による</p>	種類	材料	基礎下	基礎梁下	土間コンクリート下	土に接するスラブ底面下	ピット底面下	砂利地業	※ 再生クラッシュサン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石	※ 60mm ○ 100mm	※ 60mm ○ 100mm	※ 60mm ○ 100mm	※ 60mm ・	※ 60mm ・	捨てコンクリート	※ 普通コンクリート	※ 50mm ・	※ 50mm ・	※ 無し ・ 50mm	※ 50mm ・	※ 50mm ・	ラップルコンクリート	※ 普通コンクリート	※ 図示					<p>(5.3.4)</p> <p>⑤ 鉄筋の継手</p> <p>継手方法等</p> <table border="1"> <tr> <th>部 位</th> <th>継手工法と適用鉄筋径の範囲</th> </tr> <tr> <td>・ 柱主筋</td> <td>※ガス圧接(D19以上)</td> </tr> <tr> <td>○ 梁主筋</td> <td>※ガス圧接(D19以上)</td> </tr> <tr> <td>・ 耐力壁</td> <td>※重ね継手</td> </tr> <tr> <td>○ 基礎スラブ、耐圧スラブ</td> <td>○ 重ね継手(D25以下) ・ ガス圧接(D29以上)</td> </tr> <tr> <td>・ 土圧壁</td> <td>・ 重ね継手(D25以下) ・ ガス圧接(D29以上)</td> </tr> <tr> <td>・ 杭主筋</td> <td>※重ね継手</td> </tr> <tr> <td>・ 増打補強 主筋</td> <td>※重ね継手</td> </tr> </table> <p>(注1) ガス圧接施工者は原則として(公社)日本鉄筋継手協会の正会員のうちの優良圧接会社とする。圧接作業における技能資格者は、工事に相応したJIS Z 3881(鉄筋のガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)による技量を有する者とする。</p> <p>(注2) 溶接閉鎖型せん断補強筋(工場溶接タイプ)は、(公社)日本鉄筋継手協会の認定を受けた『優良溶接せん断補強筋製造会社』の製品を使用すること。</p> <p>耐力壁の重ね継手の長さ</p> <p>※ 図示による【構造関係共通図(配筋標準図)3.1表3.1】</p> <p>・ 図示による【構造関係共通図(配筋標準図)3.1(a)(3)】</p> <p>継手位置図</p> <p>基礎梁主筋の継手</p> <p>・ 構造関係共通図(配筋標準図)5.1(b) 図5.2による</p> <p>・ 構造関係共通図(配筋標準図)5.1(c) 図5.3による</p> <p>・ 構造関係共通図(配筋標準図)5.1(d) 図5.4による</p> <p>柱主筋の継手</p> <p>※ 構造関係共通図(配筋標準図)6.1(a) 図6.1による</p> <p>大梁主筋の継手</p> <p>※ 構造関係共通図(配筋標準図)7.1による</p> <p>小梁主筋の継手</p> <p>※ 構造関係共通図(配筋標準図)7.3による</p> <p>壁の継手</p> <p>※ 構造関係共通図(配筋標準図)8.1による</p>	部 位	継手工法と適用鉄筋径の範囲	・ 柱主筋	※ガス圧接(D19以上)	○ 梁主筋	※ガス圧接(D19以上)	・ 耐力壁	※重ね継手	○ 基礎スラブ、耐圧スラブ	○ 重ね継手(D25以下) ・ ガス圧接(D29以上)	・ 土圧壁	・ 重ね継手(D25以下) ・ ガス圧接(D29以上)	・ 杭主筋	※重ね継手	・ 増打補強 主筋	※重ね継手	<p>12 壁開口部の補強</p> <p>一般壁</p> <p>補強筋 ※ 構造図による</p> <p>補強要領 ※ 構造関係共通図(配筋標準図)8.2(a) 図8.3による ※ 構造関係共通図(配筋標準図)8.2(b) 図8.4による ※ 構造関係共通図(配筋標準図)8.2(c) 図8.5による</p> <p>耐震壁</p> <p>補強筋 ※ 構造図による</p> <p>補強要領 ※ 構造関係共通図(配筋標準図)8.2(a) 図8.3による ※ 構造関係共通図(配筋標準図)8.2(b) 図8.4による</p> <p>13 梁貫通孔の補強形式</p> <p>※ 全て構造図による</p> <p>上記に記載がない場合：構造関係共通図(配筋標準図)12.1による</p> <p>14 機械式継手及び溶接継手</p> <p>・ 機械式継手 (5.3.4) (5.5.1~5.5.3)</p> <p>使用箇所 ※ 図示による</p> <p>H12建告第1463号に適合する性能 ※ A級以上</p> <p>機械式継手の種類及び工法</p> <p>・</p> <p>カブラー等の接合部分の相互のあき ※ 図示による</p> <p>カブラー等の接合部分の最小かぶり厚さ ※ 図示による</p> <p>品質の確認方法 ※ 図示による</p> <p>不良となった継手の修正方法等 ※ 図示による</p> <p>・ 溶接継手 (5.3.4) (5.6.1~5.6.4)</p> <p>使用箇所 ※ 図示による</p> <p>H12建告第1463号に適合する性能 ※ A級以上</p> <p>機械式継手の種類及び工法</p> <p>・</p> <p>カブラー等の接合部分の相互のあき ※ 図示による</p> <p>カブラー等の接合部分の最小かぶり厚さ ※ 図示による</p> <p>品質の確認方法 ※ 図示による</p> <p>不良となった継手の修正方法等 ※ 図示による</p>	<p>③ 構造体コンクリートの仕上り</p> <p>合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げの種類 (6.2.5) (6.8.2) (表6.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○ A種</td> <td>地中梁</td> </tr> <tr> <td>・ B種</td> <td>※意匠図による</td> </tr> <tr> <td>○ C種</td> <td>基礎</td> </tr> </table> <p>注) コンクリート仕上がり面の種別は、下記による。</p> <p>A種：目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とする。 (化粧打放し、クロス張り、粘着剤付ビニルシート張り又は塗装仕上げ程度)</p> <p>B種：目違い、不陸等の少ない良好な面で、グラインダー掛け等により平滑に調整されたものとする。(仕上げ塗料又は防水仕上程度の吹付け仕上げ)</p> <p>C種：打放しのままで、目違いを許した面とする。 (上記A種・B種以外の仕上げ)</p> <p>タイル仕上げの場合は、躯体処理の有無に拘らずC種とする。</p> <p>打放し仕上げの増打ち厚さ (6.8.1)</p> <p>○ 打放し仕上げの増打ち厚さ(外部に面する部分に限る) (※ 20mm)</p> <p>・ 打放し仕上げの増打ち厚さ(内部に面する部分に限る) (・ 10mm ・ 20mm ・ 意匠図による)</p> <p>・ 外装タイル後張り面の増打ち処理 ※ 20mm</p> <p>・ 床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の増打ち処理 プレートが支持される梁の側面について下記の増打ちを行う (・ 10mm ・ 20mm)</p> <p>④ セメントの種類</p> <p>※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、 (6.3.1) シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 (普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、 水和熱が7日目で 352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする)</p> <p>・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種</p>	種類	適用箇所	○ A種	地中梁	・ B種	※意匠図による	○ C種	基礎	<p>⑤ 骨 材</p> <p>アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1) (6.5.4)</p> <p>※ A ・ B (※コンクリート中のアルカリ総量 R t = 3.0kg/m³以下)</p> <p>⑥ 混和材料</p> <p>※ 混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4) (a)による (6.3.1) ・ 混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4) (b)による</p> <p>⑦ 型 枠</p> <p>せき板の材料及び厚さ (6.8.2)</p> <p>※合板 (※ 12mm)</p> <p>(但し、グリーン購入法基本方針における「合板型枠」の備考3の表示にある合板型枠を用いる場合に限り)</p> <p>・ 床型枠用鋼製デッキプレート(施工範囲 ※構造図による)</p> <p>断熱材兼用型枠</p> <p>※ 使用しない</p> <p>・ 使用する (※ 25mm以下かつ熱抵抗値 1mh²/KCa l 以上)</p> <p>MCR工法用シート</p> <p>※ 用いない</p> <p>・ 用いる 増打ち厚さ ・ 20mm 増打ち範囲 ・ 図示による</p> <p>スリーブの材質 標準仕様書 6.8.3(9) (イ) 表6.8.1による</p> <p>⑧ 型枠の在置期間及び取外し</p> <p>型枠の存置期間 (6.8.4)</p> <p>(a) せき板の最小存置期間は、表6.8.2 又はコンクリートの圧縮強度により定める。</p> <p>(b) 支柱の最小存置期間は、表6.8.3 又はコンクリートの圧縮強度により定める。</p> <p>但し、片持梁、片持スラブ(庇)、長スパン梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱は、構造体コンクリートの圧縮強度がその部材の設計基準強度以上に達したことが確認されるまでとし、存置期間の延長、二層受け等を行うこと。</p> <p>型枠の取外し</p> <p>型枠の取外しは、定められた型枠の最小存置期間に達した後、慎重に取り外す。</p> <p>但し、スラブ下及び梁下のせき板は、原則として、支柱を取り外したのちに取外す。</p> <p>9 構造スリット</p> <p>適用箇所</p> <p>※ 図示による</p> <p>スリットの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>方 向</th> <th>タイプ</th> <th>耐火性能</th> <th>防水性能</th> <th>遮音性能</th> </tr> <tr> <td>※ 鉛直スリット</td> <td>※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型</td> <td>※ 耐火型 ・ 非耐火型</td> <td>※ 有り ・ 無し</td> <td>※ 有り ・ 無し</td> </tr> <tr> <td>※ 水平スリット</td> <td>※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型</td> <td>※ 耐火型 ・ 非耐火型</td> <td>※ 有り ・ 無し</td> <td>※ 有り ・ 無し</td> </tr> </table> <p>振れ止め筋の防錆対策</p> <p>鉄筋表面には溶融亜鉛めっき又は防錆塗装を施す。</p> <p>振れ止め筋の養生</p> <p>材 質：発泡ポリエチレン(又は同等品)</p> <p>養生材(絶縁材)：鉄筋養生カバー(鉄筋絶縁カバー)</p> <p>目地寸法：※ 標準仕様書 9.7.3 による (6.6.4) (6.8.1) (9.7.3)</p> <p>間隔・位置・形状：※ 図示による(意匠図参照)</p> <p>ひび割れ誘発目地 打継目地の深さ寸法は、増打ち厚さ部分で処理する</p> <p>11 軽量コンクリート</p> <p>軽量コンクリート種別 (6.10.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>所要気乾単位容積質量 [t/m³]</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ 1種</td> <td>※ 1.7~2.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 2種</td> <td>※ 1.4~1.8</td> <td></td> </tr> </table>	方 向	タイプ	耐火性能	防水性能	遮音性能	※ 鉛直スリット	※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型	※ 耐火型 ・ 非耐火型	※ 有り ・ 無し	※ 有り ・ 無し	※ 水平スリット	※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型	※ 耐火型 ・ 非耐火型	※ 有り ・ 無し	※ 有り ・ 無し	種類	所要気乾単位容積質量 [t/m ³]	適用箇所	・ 1種	※ 1.7~2.1		・ 2種	※ 1.4~1.8																																																
	種類	材料	基礎下	基礎梁下	土間コンクリート下	土に接するスラブ底面下	ピット底面下																																																																																																																									
	砂利地業	※ 再生クラッシュサン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石	※ 60mm ○ 100mm	※ 60mm ○ 100mm	※ 60mm ○ 100mm	※ 60mm ・	※ 60mm ・																																																																																																																									
	捨てコンクリート	※ 普通コンクリート	※ 50mm ・	※ 50mm ・	※ 無し ・ 50mm	※ 50mm ・	※ 50mm ・																																																																																																																									
	ラップルコンクリート	※ 普通コンクリート	※ 図示																																																																																																																													
	部 位	継手工法と適用鉄筋径の範囲																																																																																																																														
	・ 柱主筋	※ガス圧接(D19以上)																																																																																																																														
	○ 梁主筋	※ガス圧接(D19以上)																																																																																																																														
	・ 耐力壁	※重ね継手																																																																																																																														
	○ 基礎スラブ、耐圧スラブ	○ 重ね継手(D25以下) ・ ガス圧接(D29以上)																																																																																																																														
・ 土圧壁	・ 重ね継手(D25以下) ・ ガス圧接(D29以上)																																																																																																																															
・ 杭主筋	※重ね継手																																																																																																																															
・ 増打補強 主筋	※重ね継手																																																																																																																															
種類	適用箇所																																																																																																																															
○ A種	地中梁																																																																																																																															
・ B種	※意匠図による																																																																																																																															
○ C種	基礎																																																																																																																															
方 向	タイプ	耐火性能	防水性能	遮音性能																																																																																																																												
※ 鉛直スリット	※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型	※ 耐火型 ・ 非耐火型	※ 有り ・ 無し	※ 有り ・ 無し																																																																																																																												
※ 水平スリット	※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型	※ 耐火型 ・ 非耐火型	※ 有り ・ 無し	※ 有り ・ 無し																																																																																																																												
種類	所要気乾単位容積質量 [t/m ³]	適用箇所																																																																																																																														
・ 1種	※ 1.7~2.1																																																																																																																															
・ 2種	※ 1.4~1.8																																																																																																																															
<p>5章 鉄筋工事</p> <p>① 配筋検査</p> <p>受注者(施工者)は原則として全数配筋検査を行い、記録を作成する。(5.1.3)</p> <p>監督員(監理者)が指示した場合には、記録を提出して確認を受ける。</p> <p>◇配筋検査項目</p> <p>1. 鉄筋の種類、径、本数、間隔、位置</p> <p>2. 加工形状(折曲げ寸法、余長など)</p> <p>3. 組立位置(鉄筋の位置・かぶり・定着長・鉄筋のあきなど)</p> <p>4. 継手位置、継手状況、圧接、折曲げ位置</p> <p>5. その他(開口部の補強、出隅・入隅補強、階段、差し筋、梁貫通孔補強増打ち補強、バーサポート・スベアー・結束状況、清掃など)</p> <p>◇監督員(監理者)の立会い</p> <p>1. 検査の結果、不合格となった配筋は補正して記録を監督員(監理者)に提出する。</p> <p>2. 監督員(監理者)は、配筋状態を確認するため、適時に抽出検査を行う。</p> <p>② 鉄筋の種類</p> <p>種類 (5.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>規格の名称</th> <th>種類の記号</th> <th>使用部位</th> <th>呼び径 (mm)</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用 棒鋼)</td> <td>※SD295A</td> <td>※図示による</td> <td>※D16以下</td> </tr> <tr> <td>・SD295B</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>※SD345</td> <td>※図示による</td> <td>※D19~D25</td> </tr> <tr> <td>※JIS G 3112</td> <td>※SD390</td> <td>※図示による</td> <td>※D29以上</td> </tr> <tr> <td>高強度せん断補強筋 (建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの)</td> <td>・KSS785</td> <td>※図示による</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>3 溶接金網</p> <p>形状等 (5.2.2)</p> <p>※使用する溶接金網は JIS G 3551 の規格品とする。</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>使用部位</th> <th>網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ 溶接金網</td> <td></td> <td>・ 6φ-@100 ・ 6φ-@150 ・ 6φ-@100 ・ 6φ-@150</td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋格子</td> <td></td> <td>・ D10-@100</td> </tr> </table> <p>④ 材料検査</p> <p>材料検査 (5.2.3)</p> <p>1) 受注者(施工者)は、工事現場に搬入した材料について検査を行い、検査記録を監督員(監理者)に提出して確認を受ける。</p> <p>2) JIS規格品については、鋼材検査証明書(ミルシート)との照合を行う。</p>	規格の名称	種類の記号	使用部位	呼び径 (mm)	異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用 棒鋼)	※SD295A	※図示による	※D16以下	・SD295B	・	・	※SD345	※図示による	※D19~D25	※JIS G 3112	※SD390	※図示による	※D29以上	高強度せん断補強筋 (建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの)	・KSS785	※図示による	・	種類	使用部位	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	・ 溶接金網		・ 6φ-@100 ・ 6φ-@150 ・ 6φ-@100 ・ 6φ-@150	・ 鉄筋格子		・ D10-@100	<p>(5.3.4)</p> <p>⑥ 鉄筋の定着の方法及び長さ</p> <p>鉄筋の定着方法 (5.3.4)</p> <p>※ 図示による【構造関係共通図(配筋標準図)3.1(b)】</p> <p>鉄筋の定着の長さ</p> <p>※ 図示による【構造関係共通図(配筋標準図)3.1(b)】</p> <p>(5.3.5)</p> <p>最小かぶり厚さ (目地底よりかぶりを確保する)</p> <p>※ 図示による【構造関係共通図(配筋標準図)表4.1】</p> <p>柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無</p> <p>・ 有り 適用箇所() ・ 無し</p> <p>主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する</p> <p>軽量コンクリートで土に接する部分</p> <p>・ 有り 適用箇所() ※ 無し</p> <p>最小かぶり厚さに加える厚さ() mm</p> <p>耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等)</p> <p>・ 有り 適用箇所() ※ 無し</p> <p>最小かぶり厚さは下表による</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>表4.1に加える寸法</th> </tr> <tr> <td>柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打ち放し面</td> <td>※ 10mm</td> </tr> </table> <p>鉄筋相互のあき(機械式継手及び溶接継手を除く)</p> <p>※ 図示による【構造関係共通図(配筋標準図)4.1(d)】</p> <p>(5.3.1) (5.3.2) (5.3.3)</p> <p>⑧ 加工及び組立</p> <p>鉄筋の加工及び組立要領は、図示による以外は『構造関係共通図(配筋標準図)』による。</p> <p>◇加工</p> <p>1. 鉄筋の切断は、シャークッター等によって行う。</p> <p>2. 圧接端面の加工のため鉄筋端部を切断する場合は、鉄筋冷間直角切断機を使用する。</p> <p>◇組立</p> <p>1. 鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスベアー、保持金物等を使用して行う。</p> <p>尚、スベアーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスベアーは、原則として鋼製とする。また、鋼製のスベアーは型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。</p> <p>2. 有害な曲がりまたは損傷等のある鉄筋は、使用しない。</p> <p>※ 全て構造図による (5.3.7)</p> <p>上記に記載がない場合：構造関係共通図(配筋標準図)による</p> <p>10 圧接完了後の試験</p> <p>外観検査 ※ 行う(全数) (5.4.10)</p> <p>抜取試験</p> <p>※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験</p> <p>試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。</p> <p>なお、200箇所を超えるときは、200箇所ごととする。</p> <p>11 帯 筋</p> <p>(高強度せん断補強筋除く)</p> <p>組立の形の種別</p> <p>※ H形 構造関係共通図(配筋標準図)6.2(a) 図6.3①による</p> <p>・ W-1形 構造関係共通図(配筋標準図)6.2(a) 図6.3②による</p> <p>・ S-P形 構造関係共通図(配筋標準図)6.2(a) 図6.3③による</p> <p>帯筋の割付け</p> <p>※ 構造関係共通図(配筋標準図)6.2(d) 図6.4による</p> <p>② コンクリートの種別</p> <p>レディーミクストコンクリートの種別 (6.2.1) (6.4.1~4)</p> <p>※ I類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)</p> <p>・ II類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)</p>	施工箇所	表4.1に加える寸法	柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打ち放し面	※ 10mm	<p>① コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度 (6.2.1~4)</p> <p>コンクリートの種類は、普通コンクリートとする。</p> <p>コンクリートの設計基準強度、セメントの種類、スラブ、単位水量は、下表による。</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>セメントの種類</th> <th>設計基準強度 F c [N/mm²]</th> <th>スラブ [cm]</th> <th>単位水量の最大値 [kg/m³]</th> <th>混和剤</th> </tr> <tr> <td>上部躯体 () 階柱~</td> <td>※普通ポルトランドセメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上部躯体 () 階柱~ () 階床</td> <td>※普通ポルトランドセメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上部躯体 () 階柱~ () 階床</td> <td>※普通ポルトランドセメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎、地中梁</td> <td>※普通ポルトランドセメント</td> <td>21</td> <td>15</td> <td>※185</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土間コンクリート</td> <td>※普通ポルトランドセメント</td> <td>21</td> <td>15</td> <td>※185</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>捨てコンクリート</td> <td>※高炉セメントB種</td> <td>18 *</td> <td>15</td> <td>※185</td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 強度補正 S [N/mm²] は、セメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温に応じて定める強度の割増しを示す。(土間を除く) 但し、各地域によりその期間が異なる為、コンクリート配合計画書により、監督員(監理者)の承諾を受ける。</p> <p>また、Fc+S=39 [N/mm²] となる場合の呼び強度は、40 [N/mm²] とする。</p> <p>※ 所定空気量の目標値は、普通コンクリートで4.5%を標準とする。</p> <p>※ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン (Cl⁻) 量で 0.30kg/m³以下とする。</p> <p>※ 計画供用期間の級の水準は、下表による。(上表 F c の印は、適用しない)</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">級「構造体及び部材の要求性能(耐久性)」</th> </tr> <tr> <th>適用等級</th> <th>計画供用期間</th> <th>耐久設計基準強度 F d</th> </tr> <tr> <td>超長期</td> <td>約 200年</td> <td>36 N/mm²</td> </tr> <tr> <td>長期</td> <td>約 100年</td> <td>30 N/mm²</td> </tr> <tr> <td>● 標準</td> <td>約 65年</td> <td>24 N/mm²</td> </tr> <tr> <td>短期</td> <td>約 30年</td> <td>18 N/mm²</td> </tr> </table> <p>※ 品質基準強度 F q は、設計基準強度 F c と耐久設計基準強度 F d の大きい値とする。</p> <p>強度区分は、下図による。</p>	使用箇所	セメントの種類	設計基準強度 F c [N/mm ²]	スラブ [cm]	単位水量の最大値 [kg/m ³]	混和剤	上部躯体 () 階柱~	※普通ポルトランドセメント					上部躯体 () 階柱~ () 階床	※普通ポルトランドセメント					上部躯体 () 階柱~ () 階床	※普通ポルトランドセメント					基礎、地中梁	※普通ポルトランドセメント	21	15	※185		土間コンクリート	※普通ポルトランドセメント	21	15	※185								捨てコンクリート	※高炉セメントB種	18 *	15	※185		級「構造体及び部材の要求性能(耐久性)」			適用等級	計画供用期間	耐久設計基準強度 F d	超長期	約 200年	36 N/mm ²	長期	約 100年	30 N/mm ²	● 標準	約 65年	24 N/mm ²	短期	約 30年	18 N/mm ²	<p>⑤ 骨 材</p> <p>アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1) (6.5.4)</p> <p>※ A ・ B (※コンクリート中のアルカリ総量 R t = 3.0kg/m³以下)</p> <p>⑥ 混和材料</p> <p>※ 混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4) (a)による (6.3.1) ・ 混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4) (b)による</p> <p>⑦ 型 枠</p> <p>せき板の材料及び厚さ (6.8.2)</p> <p>※合板 (※ 12mm)</p> <p>(但し、グリーン購入法基本方針における「合板型枠」の備考3の表示にある合板型枠を用いる場合に限り)</p> <p>・ 床型枠用鋼製デッキプレート(施工範囲 ※構造図による)</p> <p>断熱材兼用型枠</p> <p>※ 使用しない</p> <p>・ 使用する (※ 25mm以下かつ熱抵抗値 1mh²/KCa l 以上)</p> <p>MCR工法用シート</p> <p>※ 用いない</p> <p>・ 用いる 増打ち厚さ ・ 20mm 増打ち範囲 ・ 図示による</p> <p>スリーブの材質 標準仕様書 6.8.3(9) (イ) 表6.8.1による</p> <p>⑧ 型枠の在置期間及び取外し</p> <p>型枠の存置期間 (6.8.4)</p> <p>(a) せき板の最小存置期間は、表6.8.2 又はコンクリートの圧縮強度により定める。</p> <p>(b) 支柱の最小存置期間は、表6.8.3 又はコンクリートの圧縮強度により定める。</p> <p>但し、片持梁、片持スラブ(庇)、長スパン梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱は、構造体コンクリートの圧縮強度がその部材の設計基準強度以上に達したことが確認されるまでとし、存置期間の延長、二層受け等を行うこと。</p> <p>型枠の取外し</p> <p>型枠の取外しは、定められた型枠の最小存置期間に達した後、慎重に取り外す。</p> <p>但し、スラブ下及び梁下のせき板は、原則として、支柱を取り外したのちに取外す。</p> <p>9 構造スリット</p> <p>適用箇所</p> <p>※ 図示による</p> <p>スリットの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>方 向</th> <th>タイプ</th> <th>耐火性能</th> <th>防水性能</th> <th>遮音性能</th> </tr> <tr> <td>※ 鉛直スリット</td> <td>※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型</td> <td>※ 耐火型 ・ 非耐火型</td> <td>※ 有り ・ 無し</td> <td>※ 有り ・ 無し</td> </tr> <tr> <td>※ 水平スリット</td> <td>※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型</td> <td>※ 耐火型 ・ 非耐火型</td> <td>※ 有り ・ 無し</td> <td>※ 有り ・ 無し</td> </tr> </table> <p>振れ止め筋の防錆対策</p> <p>鉄筋表面には溶融亜鉛めっき又は防錆塗装を施す。</p> <p>振れ止め筋の養生</p> <p>材 質：発泡ポリエチレン(又は同等品)</p> <p>養生材(絶縁材)：鉄筋養生カバー(鉄筋絶縁カバー)</p> <p>目地寸法：※ 標準仕様書 9.7.3 による (6.6.4) (6.8.1) (9.7.3)</p> <p>間隔・位置・形状：※ 図示による(意匠図参照)</p> <p>ひび割れ誘発目地 打継目地の深さ寸法は、増打ち厚さ部分で処理する</p> <p>11 軽量コンクリート</p> <p>軽量コンクリート種別 (6.10.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>所要気乾単位容積質量 [t/m³]</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ 1種</td> <td>※ 1.7~2.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 2種</td> <td>※ 1.4~1.8</td> <td></td> </tr> </table>	方 向	タイプ	耐火性能	防水性能	遮音性能	※ 鉛直スリット	※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型	※ 耐火型 ・ 非耐火型	※ 有り ・ 無し	※ 有り ・ 無し	※ 水平スリット	※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型	※ 耐火型 ・ 非耐火型	※ 有り ・ 無し	※ 有り ・ 無し	種類	所要気乾単位容積質量 [t/m ³]	適用箇所	・ 1種	※ 1.7~2.1		・ 2種	※ 1.4~1.8	
規格の名称	種類の記号	使用部位	呼び径 (mm)																																																																																																																													
異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用 棒鋼)	※SD295A	※図示による	※D16以下																																																																																																																													
	・SD295B	・	・																																																																																																																													
	※SD345	※図示による	※D19~D25																																																																																																																													
※JIS G 3112	※SD390	※図示による	※D29以上																																																																																																																													
高強度せん断補強筋 (建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの)	・KSS785	※図示による	・																																																																																																																													
種類	使用部位	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)																																																																																																																														
・ 溶接金網		・ 6φ-@100 ・ 6φ-@150 ・ 6φ-@100 ・ 6φ-@150																																																																																																																														
・ 鉄筋格子		・ D10-@100																																																																																																																														
施工箇所	表4.1に加える寸法																																																																																																																															
柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打ち放し面	※ 10mm																																																																																																																															
使用箇所	セメントの種類	設計基準強度 F c [N/mm ²]	スラブ [cm]	単位水量の最大値 [kg/m ³]	混和剤																																																																																																																											
上部躯体 () 階柱~	※普通ポルトランドセメント																																																																																																																															
上部躯体 () 階柱~ () 階床	※普通ポルトランドセメント																																																																																																																															
上部躯体 () 階柱~ () 階床	※普通ポルトランドセメント																																																																																																																															
基礎、地中梁	※普通ポルトランドセメント	21	15	※185																																																																																																																												
土間コンクリート	※普通ポルトランドセメント	21	15	※185																																																																																																																												
捨てコンクリート	※高炉セメントB種	18 *	15	※185																																																																																																																												
級「構造体及び部材の要求性能(耐久性)」																																																																																																																																
適用等級	計画供用期間	耐久設計基準強度 F d																																																																																																																														
超長期	約 200年	36 N/mm ²																																																																																																																														
長期	約 100年	30 N/mm ²																																																																																																																														
● 標準	約 65年	24 N/mm ²																																																																																																																														
短期	約 30年	18 N/mm ²																																																																																																																														
方 向	タイプ	耐火性能	防水性能	遮音性能																																																																																																																												
※ 鉛直スリット	※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型	※ 耐火型 ・ 非耐火型	※ 有り ・ 無し	※ 有り ・ 無し																																																																																																																												
※ 水平スリット	※ 完全スリット型 ・ 部分スリット型	※ 耐火型 ・ 非耐火型	※ 有り ・ 無し	※ 有り ・ 無し																																																																																																																												
種類	所要気乾単位容積質量 [t/m ³]	適用箇所																																																																																																																														
・ 1種	※ 1.7~2.1																																																																																																																															
・ 2種	※ 1.4~1.8																																																																																																																															

<p>12 寒中コンクリート</p> <p>適用期間 : ()月()日 ~ ()月()日 (6.11.1~6) 強度管理の材齢 : ※ 28日 初期養生期間 : ※ 圧縮強度が5N/mm²以上得られるまで</p> <p>13 暑中コンクリート</p> <p>適用期間 : ()月()日 ~ ()月()日 (6.12.1~4) 構造体強度補正值 : ※ 6N/mm² ・ N/mm²</p> <p>14 マスコンクリート</p> <p>適用箇所 : ※ 図示による () (6.13.1~5) セメントの種類 : ※ 中熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種</p> <p>スランブ : ※ 15cm 混和剤 : ※ JIS A 6204に適合するA E減水剤または高性能A E減水剤 構造体強度補正值 : ※ 表6.13.1による 荷卸し時のコンクリートの温度 : ※ 35℃以下 温度測定 : ※ 行わない ・ 行う</p>	<p>7章 鉄骨工事</p> <p>1 鉄骨製作工場</p> <p>鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3) ※ 建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める()グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ 監督職員の承諾する工場(標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)</p> <p>2 施工管理技術者</p> <p>※ 適用する ・ 適用しない (7.1.4)</p> <p>3 鋼材</p> <p>鋼材は、『標準仕様書』によるJIS規格品とし、証明書付きとする。 (7.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>鋼材の種類</th> <th>使用箇所</th> <th>JIS規格番号・規格名称等</th> </tr> <tr> <td>SS400</td> <td></td> <td>JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>SM490A</td> <td></td> <td>JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>SN400B</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SN400C</td> <td></td> <td>JIS G 3136 建築構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>SN490B</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SN490C</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SSC400</td> <td></td> <td>JIS G 3350 一般構造用軽量形鋼</td> </tr> <tr> <td>STK400</td> <td></td> <td>JIS G 3444 一般構造用炭素鋼鋼管</td> </tr> <tr> <td>STK490</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>STKR400</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>STKN490B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>建築基準法第37条第二号に適合する国土交通大臣認定品</p> <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>使用箇所</th> <th>規格等(認定番号)</th> </tr> <tr> <td>BCR295</td> <td></td> <td>大臣認定品</td> </tr> <tr> <td>BCP325</td> <td></td> <td>大臣認定品</td> </tr> </table>	鋼材の種類	使用箇所	JIS規格番号・規格名称等	SS400		JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材	SM490A		JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材	SN400B			SN400C		JIS G 3136 建築構造用圧延鋼材	SN490B			SN490C			SSC400		JIS G 3350 一般構造用軽量形鋼	STK400		JIS G 3444 一般構造用炭素鋼鋼管	STK490			STKR400			STKN490B			種類の記号	使用箇所	規格等(認定番号)	BCR295		大臣認定品	BCP325		大臣認定品	<p>8 溶接材料</p> <p>溶接材料(溶接棒等の種類) (7.2.5) ※ 標準仕様書7.2.5(1)の表7.2.4(2)による ・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)以外の(3)の溶接材料</p> <p>9 ターンバックル</p> <p>ターンバックルは、JIS A 5540の規格品とする。 (7.2.6)</p> <p>種類 建築用ターンバックル鋼 ※ 割替式 建築用ターンバックルボルト ※ 羽子板ボルト ねじの呼び ※ 図示による</p> <p>10 床構造用のデッキプレート</p> <p>種類、適用箇所、材質・形状・寸法等 (7.2.7)(7.7.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> <th>材質・形状・寸法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ 合成スラブ用デッキプレート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋トラス付き捨て型枠デッキプレート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 床型枠専用デッキプレート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(注) 床型枠用を使用する場合に受注者は、施工に先立ち施工の安全性を確認すること</p> <p>鉄骨部材への溶接方法 ※ 図示による</p> <p>耐火認定 ・ 有り(耐火時間 ※ 図示による ()) ・ 無し 開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む) ※ 図示による</p>	種類	適用箇所	材質・形状・寸法	備考	・ 合成スラブ用デッキプレート				・ 鉄筋トラス付き捨て型枠デッキプレート				・ 床型枠専用デッキプレート				<p>21 現場溶接の有無</p> <p>・ 無し ・ 有り</p> <p>22 入熱、バス間温度の溶接条件</p> <p>鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 <JASS6> ※ 構造関係共通図(鉄骨標準図)による</p> <p>適用箇所 ※ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部 ・ 図示による</p> <p>23 溶接部の試験</p> <p>完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.11)(7.6.12) ※ 行う ・ 行わない 試験の規準は、(一社)日本建築学会『鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準』による。</p> <p>◇工場溶接の場合</p> <table border="1"> <tr> <th>平均出検査品質率 [AQL(%)] (※ 4.0・2.5)</th> <th>節</th> <th>全て</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> <tr> <td>検査水準 ※ 第6水準</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◇工事現場溶接の場合</p> <p>※ 全て 割れの疑いのある表面欠陥 割れの疑いのある表面欠陥においては、JIS Z 2343-1(非破壊試験-浸透探傷試験)又はJIS Z 2320-1(非破壊試験-磁粉探傷試験)による試験を行う。 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査②</p>	平均出検査品質率 [AQL(%)] (※ 4.0・2.5)	節	全て				検査水準 ※ 第6水準					
鋼材の種類	使用箇所	JIS規格番号・規格名称等																																																																										
SS400		JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材																																																																										
SM490A		JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材																																																																										
SN400B																																																																												
SN400C		JIS G 3136 建築構造用圧延鋼材																																																																										
SN490B																																																																												
SN490C																																																																												
SSC400		JIS G 3350 一般構造用軽量形鋼																																																																										
STK400		JIS G 3444 一般構造用炭素鋼鋼管																																																																										
STK490																																																																												
STKR400																																																																												
STKN490B																																																																												
種類の記号	使用箇所	規格等(認定番号)																																																																										
BCR295		大臣認定品																																																																										
BCP325		大臣認定品																																																																										
種類	適用箇所	材質・形状・寸法	備考																																																																									
・ 合成スラブ用デッキプレート																																																																												
・ 鉄筋トラス付き捨て型枠デッキプレート																																																																												
・ 床型枠専用デッキプレート																																																																												
平均出検査品質率 [AQL(%)] (※ 4.0・2.5)	節	全て																																																																										
検査水準 ※ 第6水準																																																																												
<p>15 無筋コンクリート(ラッブルコンクリートにも適用)</p> <p>適用箇所 : ※ 標準仕様書6.14.1(5)による (6.14.1~3) セメントの種類 : ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種</p> <p>設計基準強度 : ※ 18N/mm² スランブ : ※ 15cmまたは18cm</p> <p>16 流動化コンクリート</p> <p>適用箇所 : ※ 図示による (6.15.1~4) スランブ : ベースコンクリート()cm : 流動化コンクリート()cm 流動化剤の投入場所 : ※ 工事現場 ・ レディーミクストコンクリート工場</p>	<p>4 高力ボルト</p> <p>ボルトの種類 (7.2.2) ※ トルシア形高力ボルト 2種(S10T) 建築基準法に基づき認定を受けたもの ・ JIS S形高力ボルト 2種(F10T)</p> <p>高力ボルトの径 ※ 図示による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ 図示による [構造関係共通図(鉄骨標準図)]</p> <p>すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う(試験方法等 ・ 図示による)</p> <p>軸力導入試験 ※ 行う ・ 行わない</p>	<p>11 レール及びその付属品</p> <p>天井クレーン走行用等に使用する 形状及び寸法等 ※ 図示による</p> <p>12 スタッドボルト</p> <p>材質、規格 ※ 頭付きスタッド (JIS B 1198) (7.2.8)(7.7.1~7)</p> <p>種類等(径・長さ)</p> <table border="1"> <tr> <th>径(呼び名)</th> <th>長さ(呼び長さ)</th> <th>mm</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ 16φ</td> <td>・ 80</td> <td>・ 100</td> <td>・ 120</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 19φ</td> <td>・ 80</td> <td>・ 100</td> <td>・ 130</td> <td>・ 150</td> </tr> <tr> <td>・ 22φ</td> <td>・ 80</td> <td>・ 100</td> <td>・ 130</td> <td>・ 150</td> </tr> </table>	径(呼び名)	長さ(呼び長さ)	mm	適用箇所	・ 16φ	・ 80	・ 100	・ 120		・ 19φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150	・ 22φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150	<p>24 錆止め塗装</p> <p>塗料の種類 (7.8.3~4)(18.3.2~3)</p> <p>屋外 ※ 鉄骨錆止め塗装 塗装範囲() 素地ごしらえ ・ A種 ・ B種 ※ C種 (表18.2.2) 錆止め塗料 ※ A種() (表18.3.1) ・ B種 (E-P-Gの場合)</p> <p>塗り回数 ※ 工場2回</p> <p>屋内 ※ 仕上げ塗装 塗装範囲() 素地ごしらえ ・ A種 ※ B種 ・ C種 (表18.2.2) 錆止め塗料 ※ A種() (表18.3.1) ・ B種 (E-P-Gの場合)</p> <p>塗り回数 ※ 工場2回</p> <p>亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 (表18.3.2) 標準仕様書18.3.2表18.3.2(※ A種 ・ B種 ・ C種) 但し、つや合成樹脂エマルジョンペイント塗り(E-P-G)の場合は、C種とする。</p> <p>鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る) 標準仕様書18.3.2表18.3.1 A種</p> <p>耐火被覆材の接着する面への塗装 (7.8.2) ※ 行わない ・ 行う 適用箇所 ※ 図示による 塗装の種類 ・ 標準仕様書18.3.2表18.3.1()種 ・ 標準仕様書18.3.2表18.3.2()種</p>																																																						
径(呼び名)	長さ(呼び長さ)	mm	適用箇所																																																																									
・ 16φ	・ 80	・ 100	・ 120																																																																									
・ 19φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150																																																																								
・ 22φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150																																																																								
<p>⑩ コンクリートの試験</p> <p>※ コンクリートの強度試験 (6.9.1~5) 公的機関又はこれに準ずる機関で行う。但し、調合管理強度の管理試験用及び型枠取外し時期の決定用については、生コン工場試験室でもよい。 構造体コンクリート強度の推定試験について、普通ポルトランドセメント以外のセメントを使用し、標準仕様書6.9.5(1)(4)の判定による場合は、現場計かん養生供試体の材齢28日の圧縮強度試験も実施すること。 ※ コンクリートの単位水量測定 ○ 行わない ・ 行う 実施要領は、平成15年11月10日 国営建第95号「レディーミクストコンクリートの品質確保について」等により示された「レディーミクストコンクリート単位水量測定要領(案)」に準拠する。 (1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(イ)による。 (3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 ・ 測定した単位水量が、配合計画書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合は、そのまま打設する。 ・ 測定した単位水量が設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、その運搬車の生コンは打設してよいが、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 ・ 測定した単位水量が設計値±20kg/m³を超える場合は、その運搬車は打込まずに持ち帰らせるとともに、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、単位水量が設計値±20kg/m³以内になるまで全運搬車の測定を行い、更に設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 ・ 3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (4)単位水量管理についての記録を書面(配合計画書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。 また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。</p>	<p>5 普通ボルト</p> <p>ボルト及びナットの材料 (7.2.3) ※ 標準仕様書表7.2.3 (JIS附属書品)による ・ 標準仕様書表7.2.3 (JIS附属書品)又はJIS本体規格品 (ISO規格)による (JIS本体規格品による場合は、ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルト、強度区分を4.6又は4.8の鋼製とし、ナットの種類を六角ナット-Oの鋼製とする。尚、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径以下とする。) 座金 ※ 標準仕様書7.2.3(4)による ボルトの径 ※ 図示による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ 図示による [構造関係共通図(鉄骨標準図)]</p> <p>6 溶融亜鉛めっき高力ボルト</p> <p>セットの種類 (7.2.2)(7.3.8)(7.12.2~5) ※ 1種 (F8T相当) 建築基準法に基づき認定を受けたもの</p> <p>溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 ※ 図示による</p> <p>溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ・ 審査(評定又は大臣認定)を受けた内容による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ 図示による [構造関係共通図(鉄骨標準図)]</p> <p>摩擦面の処理 ※ プラスト処理(表面粗度50μmRz以上) ・ プラスト処理以外の特別な処理方法(りん酸塩処理) すべり耐力等の確認方法 ※ すべり係数試験 試験方法等 ・ 工場実績による</p>	<p>13 柱底均しモルタル</p> <p>モルタルの種類 (7.2.9)(7.10.3) ※ 無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料及び割合等 ※ 標準仕様書7.2.9(2)(7)から(2)表7.2.5による ・ 標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル</p> <p>14 材料試験等</p> <p>※ 材料試験 (7.2.10) 鋼材の品質を試験により証明する場合は、標準仕様書7.2.10による。 ※ 材料検査 JIS等の規定に適合する品質であることを証明する資料は、原則として規格品証明書とする。その際、審しい錆や傷、有害な表面欠陥、曲がり、ねじれ等の変形がないことを確認する。</p> <p>15 工作図</p> <p>監督職員による原寸検査 (7.3.2) ※ 行わない ・ 行う (注) 増築工事等を含め、既存建築物との取り合う箇所がある場合は、現場実測の上作成を行う。</p> <p>16 製作精度</p> <p>※ 標準仕様書7.3.3による 通しダイヤフラムの許容誤差 ・ ダイヤフラムをH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きによる補強方法 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・ 全てのダイヤフラムは、H12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること</p> <p>17 仮組</p> <p>※ 行わない (7.3.10) ・ 行う 仮組を行う範囲 : ※ 図示による 確認方法、確認項目 : ※ 図示による</p> <p>18 高力ボルト接合</p> <p>スプライスプレートの材質 (7.4.6) ※ 鋼材の種類及び引張強さによる区分は母材と同等とする</p> <p>19 溶接作業者の技量付加試験</p> <p>※ 溶接技能者技量付加試験 (7.6.3) ※ 建築鉄骨溶接技能者技量検定試験(AW)に準拠 但し、AW検定協議会AW検定合格者のうち、当該溶接資格者については、監督員(監理者)の承諾を得て、省略することができる。また、ロボット溶接オペレーターについてもAW検定ロボット溶接オペレーター資格を有していることを必要とする。</p> <p>20 溶接接合</p> <p>開先の形状 ※ 構造関係共通図(鉄骨標準図)による (7.6.4)(7.6.7) スカラップの形状 ※ 構造関係共通図(鉄骨標準図)による 鋼製エンドタブの切除する部分 ※ 全て 完全溶込み溶接部の余盛り高さ ※ JASS6 付則6 [鉄骨精度検査基準] 付表3 [溶接]による エンドタブ・裏あて金 ※ 鋼材の種類及び引張強さによる区分は母材と同等とする ・ 低応力高サイクル疲労を受ける部位 ・ 図示による</p>	<p>25 耐火被覆</p> <p>種類 (7.9.2~7.9.8) ※ 材料及び工法は、建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> <tr> <td>・ 耐火材吹付け</td> <td>・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式ロックウール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 耐火板張り</td> <td>・ 繊維混入型酸カルシウム板 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 耐火材巻付け</td> <td>・ 高断熱ロックウール ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ラス張りモルタル塗り</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </table> <p>性能 <table border="1"> <tr> <th>性能</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> <tr> <td>・ 30分耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 1時間耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 2時間耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 3時間耐火</td> <td></td> </tr> </table> </p>	種類	材料・工法	適用箇所(部位・部分)	・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式ロックウール		・ 耐火板張り	・ 繊維混入型酸カルシウム板 ・		・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ロックウール ・		・ ラス張りモルタル塗り	・		性能	適用箇所(部位・部分)	・ 30分耐火		・ 1時間耐火		・ 2時間耐火		・ 3時間耐火																																																	
種類	材料・工法	適用箇所(部位・部分)																																																																										
・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式ロックウール																																																																											
・ 耐火板張り	・ 繊維混入型酸カルシウム板 ・																																																																											
・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ロックウール ・																																																																											
・ ラス張りモルタル塗り	・																																																																											
性能	適用箇所(部位・部分)																																																																											
・ 30分耐火																																																																												
・ 1時間耐火																																																																												
・ 2時間耐火																																																																												
・ 3時間耐火																																																																												
<p>⑪ 品質管理</p> <p>○ かぶり厚の検査 <JASS5 11節> ※ 行わない ○ 行う ・ JASS5 11.10 構造体コンクリートのかぶり厚さの検査による。 ・ (※10% ())の部材に対し、非破壊検査を行う。 抜き取り方法、検査方法、含否判定等は、JASS5による。</p> <p>※ 打込み及び締固め方法 <JASS5 7節> コンクリートが均質かつ密実に充填され、所要の強度と耐久性を有し、有害な打込み欠陥部の無い構造体コンクリートが得られるように行う。</p> <p>※ 打継ぎ部の処理 <JASS5 7節> 高圧洗浄機、ワイヤブラシ、チップング等により、レイタンスや脆弱なコンクリートを取り除き新たに打込むコンクリートと一体となるように処置すること。</p> <p>※ 養生方法 <JASS5 8節> 急激な乾燥、過度の高温または低温の影響、急激な温度変化、振動及び外力の悪影響を受けないようにする。 ・ コンクリートのひび割れ ※ コンクリートのひび割れ対策は、日本建築学会「鉄筋コンクリート造のひび割れ対策(設計・施工)指針・同解説」による。 ※ 竣工後コンクリートに著しいひび割れが生じた場合は、施工業者により調査し、必要に応じて適切な補修を行うこと。その場合、外壁等で雨水の浸透の恐れがある部分には、伸縮性がある水性ポリアマー樹脂を使用する。</p>	<p>⑦ アンカーボルト</p> <p>適用 (7.2.4)(7.10.3)</p> <p>・ 構造用アンカーボルト セットの種類 (JIS G 3138: 建築構造用圧延棒鋼) ・ SNR400B ・ SNR400B (折曲げ加工した場合はSNR)</p> <p>※ アンカーボルトセット セットの種類 (JIS B 1220: 構造用両ねじアンカーボルトセット) ・ ABR400 ・ ABR490 形状、寸法 ※ 図示による</p> <p>・ 建方用アンカーボルト種類 ・ SS400</p> <p>アンカーボルト及びナットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格並びに仕上げの程度 ※ 標準仕様書 表7.2.3による 形状、寸法 ※ 図示による ※ アンカーボルトはプレハブメーカーの支給品とする</p>	<p>22 建方精度</p> <p>※ JASS6 付則6 [鉄骨精度検査基準] 付表5 [工事現場]による (7.10.2)</p> <p>27 アンカーボルト等の設置</p> <p>構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7.10.3) ※ 図示による (表7.10.1)</p> <p>建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種別 ※ A種 ・ B種 ・ C種 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類 (表7.10.2) ※ 標準仕様書 表7.10.2 (※ A種 [厚さ50mm] ・ B種 [厚さ30mm])による</p> <p>28 溶融亜鉛めっき(基礎、主要構造部及びその他)構造耐力上主要な部分に限る)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別等</th> <th>材料</th> <th>適用部位</th> </tr> <tr> <td>亜鉛めっきの種別</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ A種(HDZ55)</td> <td>最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板</td> <td>※ 図示による</td> </tr> <tr> <td>・ B種(HDZ45)</td> <td>最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板</td> <td>※ 図示による</td> </tr> <tr> <td>・ C種(HDZ35)</td> <td>普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 2.3mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板</td> <td>※ 図示による</td> </tr> </table> <p>29 梁貫通孔の補強</p> <p>補強方法 ※ 大臣認定品() ・ 補強プレート法 ・ 補強トラス法 適用箇所 ・ 図示による</p>	種別等	材料	適用部位	亜鉛めっきの種別			・ A種(HDZ55)	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	※ 図示による	・ B種(HDZ45)	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板	※ 図示による	・ C種(HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 2.3mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	※ 図示による																																																											
種別等	材料	適用部位																																																																										
亜鉛めっきの種別																																																																												
・ A種(HDZ55)	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	※ 図示による																																																																										
・ B種(HDZ45)	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板	※ 図示による																																																																										
・ C種(HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 2.3mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	※ 図示による																																																																										

構造関係共通図 [配筋標準図]

0. 一般事項

- 鉄筋は、JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) の規格品とする。
- 溶接金網は、JIS G 3551 (溶接金網) の規格品とする。
- 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
- 有害な曲りまたは損傷のある鉄筋は、使用しない。
- 鉄筋加工の切断は、シヤークッター又は直角切斷機等により行う。
折曲げは、手動鉄筋折曲げ機又は自動鉄筋折曲げ機などにより行う。
- 鉄筋の組立ては、鉄筋の交差部及び継ぎ手部分の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、保持金物等を使用して行う。
尚、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。
また、鋼製のスペーサーは型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。
- 鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接とはならない。
- コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、極力少なくする。
特に、かぶり厚さ、上端筋の位置及び間隔の保持に努める。
- 鉄筋には、点付け溶接、アークスライクを行ってはならない。
- 鉄筋の台直しは、鉄筋の付け根で急激に曲げず、勾配1/6以下のできるだけ長い距離で修正すること。(但し、必ず監理者の承認を得ること)

1.1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

折曲げ角度	折曲げ図 (余長)	折曲げ内法直径 (D)			使用箇所
		SD295A SD295B, SD345	D19 ~D38	SD390 D19 ~D38	
180°		3d以上	4d以上	5d以上	柱・梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	5d以上	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋 D13以下の鉄筋
90°		3d以上	4d以上	5d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 及び 90° (幅止め筋)		3d以上	4d以上	5d以上	幅止め筋 壁及び片持床の末端部 壁及び切斷される鉄筋

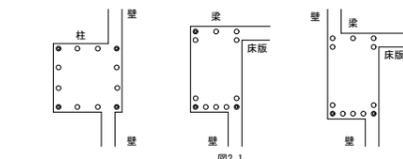
表1.2 鉄筋【中間部】の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

折曲げ角度	折曲げ図 (余長)	折曲げ内法直径 (D)			使用箇所
		SD295A SD295B, SD345	D19 ~D38	SD390 D19 ~D38	
90°以下		3d以上	4d以上	5d以上	帯筋 あばら筋 スパイラル筋
90°以下		4d以上	6d以上	8d以上	上記以外の鉄筋

2.1 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部には、フックを付ける。

- 柱の四隅にある主筋 (図2.1の○) で、重ね継手の場合及び最上層の柱頭にある場合
- 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の隅端 (図2.1の●) にある場合 (基礎梁を除く)



- 煙突の鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
- 杭基礎のベース筋
- 帯筋、あばら筋及び幅止め筋
- 片持スラブ上端筋の先端帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3.1 継手及び定着

(a) 鉄筋の重ね継手

- 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- 建築基準法施行令 第七十三条 第二項に定める鉄筋以外の、鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	長さ	
		L_1 (フックなし)	L_{1h} (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

- L_1 、 L_{1h} : フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
- フックありの場合の L_{1h} は、図3.1に示すようにフック部分 Ω を含まない。
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



- 建築基準法施行令 第七十三条 第二項に定める主筋又は耐力壁の鉄筋については、鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上 (軽量骨材を使用する場合は50d以上) と表3.1の重ね継手の長さのうち大きい値とする。

(4) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は、除く。

重ね継手の種類	フックありの場合		フックなしの場合	
	片側	両側	片側	両側
柱・梁の主筋	L_{1h}	L_{1h}	L_1	L_1
あばら筋、帯筋、スパイラル筋	$a \geq 0.5L_{1h}$	$a \geq 0.5L_{1h}$	$a \geq 0.5L_1$	$a \geq 0.5L_1$
T形及びL形の梁のあばら筋	$a \geq 0.5L_1$	$a \geq 0.5L_1$	$a \geq 0.5L_1$	$a \geq 0.5L_1$
幅止め筋	$a \geq 400mm$	$a \geq 400mm$	$a \geq 400mm$	$a \geq 400mm$

(5) ガス圧接の形状は、表3.2.1による。

形状	形状
■ ガス圧接前形状	■ ガス圧接後形状 (合否判定基準)
① 圧接部のふくらみの直径 ϕ 【図1参照】は、鉄筋径 (径の異なる場合は、細い方の鉄筋径) の1.4倍以上とする。(但し、SD490の場合は、1.5倍以上とする。)	① 圧接部のふくらみの長さ Ω 【図1参照】は、鉄筋径の1.1倍以上とし、その形状はなだらかなものとする。(但し、SD490の場合は、1.2倍以上とする。)
② 圧接面のずれは、 δ 【図2参照】は、鉄筋径の1/4以下とする。	② 圧接面における鉄筋中心軸の偏心量 e 【図3参照】は、鉄筋径 (径の異なる場合は、細い方の鉄筋) の1/5以下とする。
③ 圧接部の片ふくらみ Δh 【図5参照】は、鉄筋径の1/5以下とする。	③ 圧接部の折れ曲がり θ 【図4参照】は、2°以下とする。
④ 圧接部の片ふくらみ Δh 【図5参照】は、鉄筋径の1/5以下とする。	④ 圧接部の片ふくらみ Δh 【図5参照】は、鉄筋径の1/5以下とする。
⑤ 目視により、過熱による著しい垂れ下がり、へこみ、焼き割れがないものとする。	⑤ 目視により、過熱による著しい垂れ下がり、へこみ、焼き割れがないものとする。
⑥ その他有害と認められる欠陥がないものとする。	⑥ その他有害と認められる欠陥がないものとする。

(6) フレア溶接の形状は、表3.2.2による。

鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295A SD295B	E4316, E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW11 YGW12 YGW13 YGW15
SD345	E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW16 YGW18 YGW19

① 適用範囲
本基準は、JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に規定する棒鋼のうち異形棒鋼のSD295A、SD295B、SD345のD16以下に適用する。

② 溶接材料及び施工
フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により施工を行う。
フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ

③ 溶接技能者
溶接技能者は有資格者とし、監理者の承認を得ること。

④ 溶接長さ及び余長
片側の場合: 余長 2d以上, 溶接長さ 10d以上, 片側10d以上
両側の場合: 余長 2d以上, 溶接長さ 5d以上, 両側5d以上

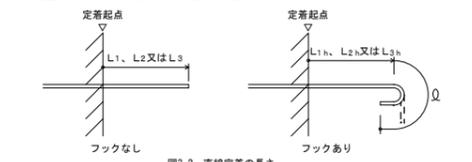
⑤ 溶接の形状
片側の場合: 片側10d以上, 溶接長さ 10d以上
両側の場合: 両側5d以上, 溶接長さ 10d以上

(b) 鉄筋の定着

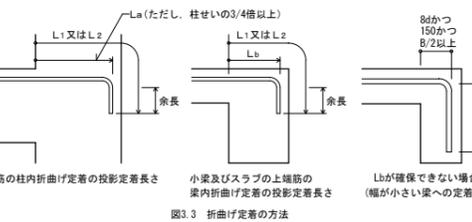
- 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。
下表以外の定着を用いる場合は、建築センター評価を取得した工法 (A級以上) とし、監理者の承認を得ること。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	フックなし					
		L_1	L_2	L_3	小梁	スラブ	
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	かつ	35d	
	21	40d	35d	150mm	以上	30d	
	24, 27	35d	30d	<25d>	150mm	25d	
SD345	18	50d	40d	20d	かつ	35d	
	21	45d	35d	150mm	以上	30d	
	24, 27	40d	35d	<25d>	150mm	25d	
SD390	21	50d	40d	20d	かつ	35d	
	24, 27	45d	40d	150mm	以上	30d	
	30, 33, 36	40d	35d	<25d>	150mm	25d	

- L_1 、 L_{1h} : 2. 以外のフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ。
- L_2 、 L_{2h} : 階層境のそのれない箇所へのフックなし直線定着の長さ及びフックありの直線定着の長さ。
- L_3 : 小梁及びスラブの下端筋のフックなし直線定着の長さ。
ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
> : 片持梁・片持スラブの下端筋を直線定着する場合の長さ。
- L_{3h} : 小梁の下端筋のフックあり直線定着の長さ。
- フックあり直線定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 Ω を含まない。
また、中間部での折曲げは行わない。
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

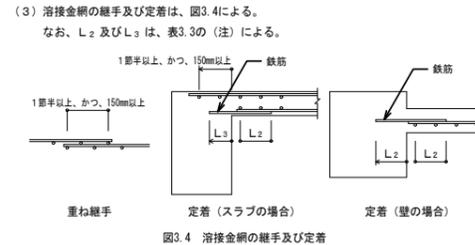


- 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(i)、(ii)及び(iii)をすべて満足するものとする。
(i) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
(ii) 余長は8d以上
(iii) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さは表3.4に示す長さとする。
但し、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

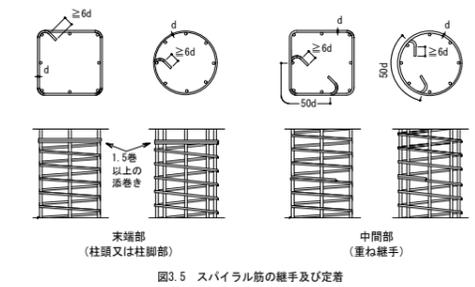


鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	15d
	24, 27	20d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- L_a : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)
- L_b : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



(4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

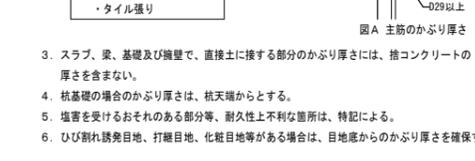


4.1 最小かぶり厚さ

- 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
構造体の計画供用期間はJASSSで定められている。
計画供用期間の級に指示・指定等がない限り、『標準』とする。
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。【図Aを参照】

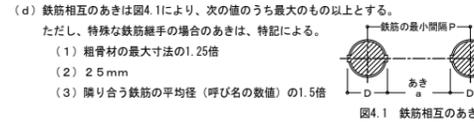
構造部分の種類	計画供用期間の級	標準・長期		超長期	
		最小かぶり厚さ	設計かぶり厚さ	最小かぶり厚さ	設計かぶり厚さ
スラブ	仕上げあり	20	30	30	40
	仕上げなし	30	40	40	50
柱・梁	柱	30	40	『標準・長期』に準ずる	
	梁	30	40		
	耐力壁	30	40		
	耐力壁	40	50		
壁	耐力スラブ	40	50		
	柱・梁・スラブ・壁	*40	*50		
土に接する部分	基礎	*60	*70	60	70
	壁	60	70	60	70

- *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
- 『仕上げあり』とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ (仕上塗料、塗装等) のものを除く。
耐久性上有効な仕上げの例:
・打増し (10mm以上)
・モルタル塗り (10mm以上)
・タイル張り



- スラブ、梁、基礎及び壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
- 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
- 塩害を受けられるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。
- ひび割れ誘発目地、打継目地、化粧目地等がある場合は、目地底からのかぶり厚さを確保する。

(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。



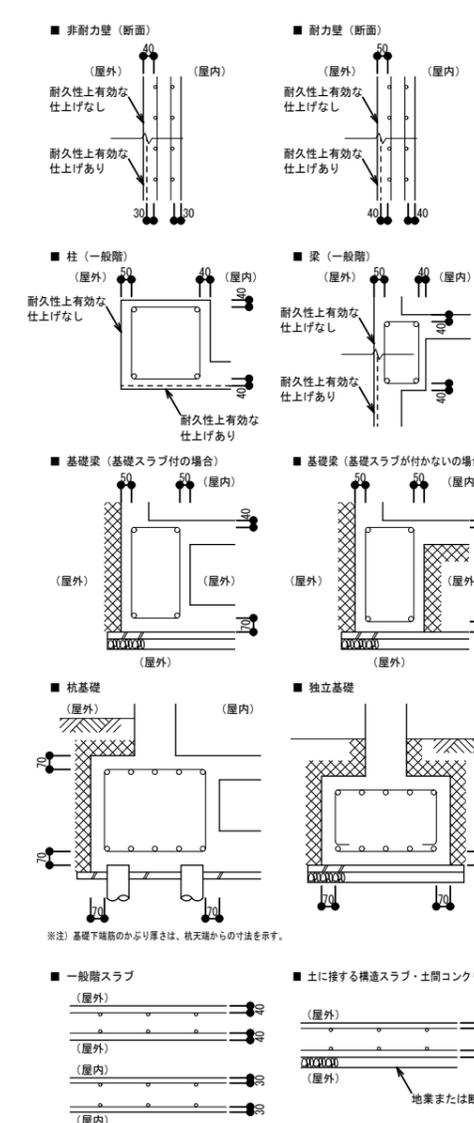
鉄筋の呼び名 (d)	最大径 (D)	主筋のあき最小値 (a)	鉄筋の最小間隔 (P)
D10	11	32*	43*
D13	14	32*	46*
D16	18	32*	50*
D19	21	32*	53*
D22	25	33	58
D25	28	38	66
D29	33	44	77
D32	36	48	84
D35	40	53	93
D38	43	57	100

[注] ※印は (粗骨材最大寸法 × 1.25 + 最大径) によって鉄筋間隔が決定されている。

(e) 鉄筋鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

(g) 標準的な設計かぶり厚さは、部位別に示す。



(5) 柱の隅部2段配筋

- (注) 1. 2段筋の表示は、()印で示し、図6.3の幅止め筋を配置する。
2. 幅止め筋と柱主筋は、必ず鉄線が結束すること。
3. 2段筋と隅筋のあき a は、4.1(d) による。

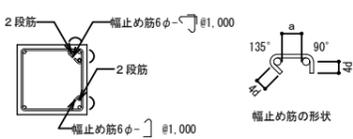


図6.3(a) 2段筋組立の形

(b) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による。

(c) フック及び継手の位置は、交互配列とする。

(d) 帯筋の割付けは、図6.4とし、それ以外の場合は特記による。

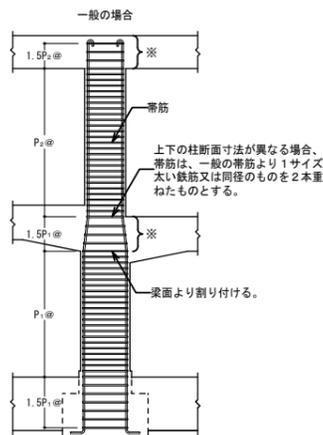


図6.4 帯筋の割付け

- (注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じとする。
2. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P@または1.5P@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P₁@、P₂@は、特記された帯筋の間隔を示す。
3. (※)で示すパネル部分は、帯筋比が0.2%以上確保されていない場合は、0.2%以上の間隔で割り付ける。

(e) 柱・梁仕口部

- (1) 仕口部の範囲は、構造図による。構造図に記載のない場合は、柱に取り付く全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。【図6.5.1】
(2) 直交梁がない場合、柱の仕口部帯筋範囲は、構造図による。構造図に記載のない場合は、仕口部帯筋範囲は適用しない。【図6.5.2】
(3) 仕口部帯筋の範囲は、図6.5.1による。
(4) 仕口部帯筋の配筋要領は、構造図による。

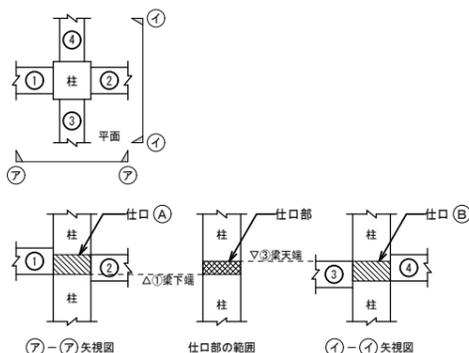


図6.5.1 仕口部の範囲

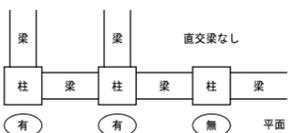


図6.5.2 柱仕口部範囲の有無

(f) 柱筋のしぼり方

- (1) 柱主筋の折曲げ位置は、梁の主筋間隔内とする。【図6.6.1】
(2) 柱主筋を折曲げて通し筋とする場合【図6.6.1】の梁上第1帯筋は、上階柱帯筋と同径の帯筋と同径の帯筋を2組重ねる。

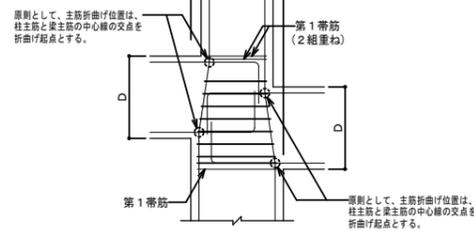


図6.6.1 柱主筋を折曲げて通し筋とする場合

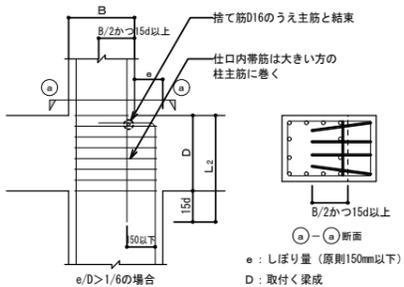


図6.6.2 柱主筋を通し筋としない場合

7.1 大梁

(a) 一般事項

- (1) 梁の上り下り方は、FLを基準とした寸法値とする。
(2) 地中梁下の砂利地層厚及び捨てコンクリート地層厚は、特記による。
(3) 打ち増し部分に スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打ち増し部分を含まない。

(b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- (1) 継手中心位置は、次による。
上端筋：中央 Q₀/2以内
下端筋：柱面より梁せい (D) 以上離し、Q₀/4を加えた範囲以内
(2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は、図7.3及び図7.4による。
(3) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は、柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折曲げて定着する。

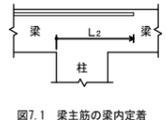


図7.1 梁主筋の梁内定着

- (4) 梁主筋を柱内に折曲げて定着する場合は、次による。
なお、定着の方法は、3.1(b)(3)による。
上端筋：曲げ降ろす
下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。
下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。
(5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は特記による。
(6) 段違い梁は、図7.2による。

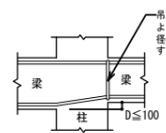
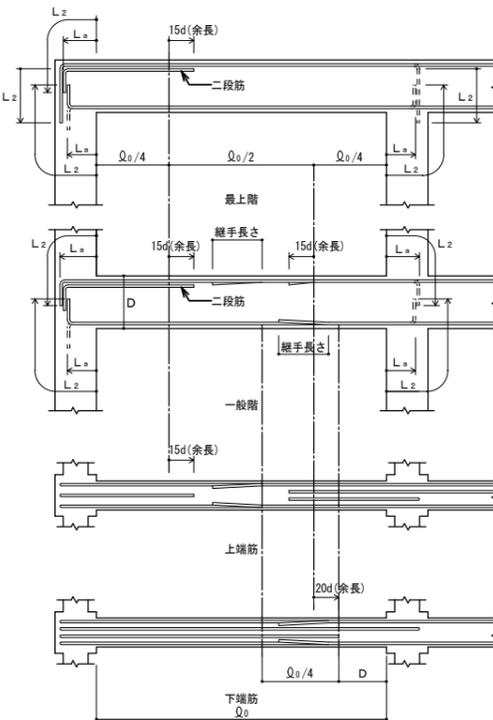


図7.2 段違い梁

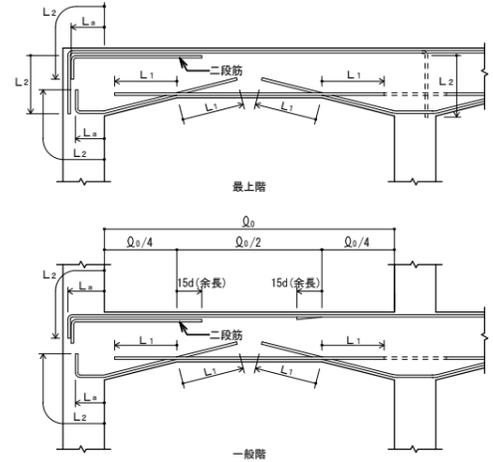
(c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. ()印は、継手及び余長を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. ()印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、==== のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着を示す。
5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋等

(a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

- (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、構造図による。
(2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは、図7.6による。ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは構造図による。
(3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10@1,000程度とする。

(b) あばら筋組立の形及びフックの位置

- (1) 形は、図7.5 (イ) 又は (イ-1) とする。
但し、L形梁の場合は、(ロ) または (ハ)、T形梁の場合は (ロ) ~ (ニ) とすることができる。

(2) フックの位置

- i. (イ) の場合は、交互とする。
ii. (ロ) の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
iii. (ハ) の場合は、床版の付く側を90°折曲げとする。

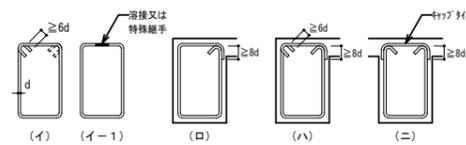


図7.5 あばら筋組立の形

(3) 2段筋受用幅止め筋

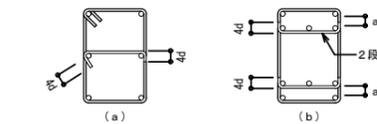
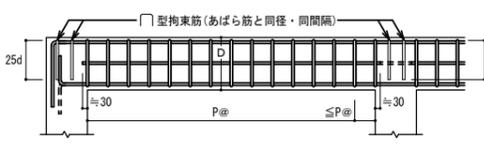


図7.5.1 2段筋受用幅止め筋

- (注) 1. 幅止め筋、2段筋用の幅止め筋は、D10@1,000以下とする。
2. 2段筋のあき a は、4.1(d) による。

(c) あばら筋の割付け

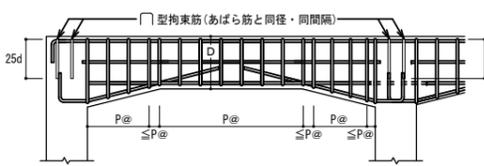
(1) 間隔が一樣でハンチのない場合は、図7.6による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の割付け (その1)

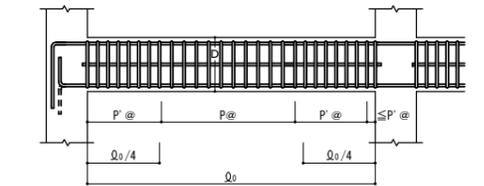
(2) 間隔が一樣でハンチのある場合は、図7.7による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け (その2)

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面位置から割り付ける。
2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け (その3)

(d) 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁は、【図7.9】による。

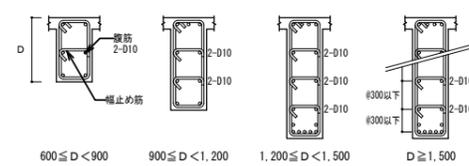


図7.9 腹筋および幅止め筋

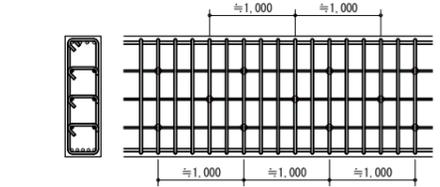
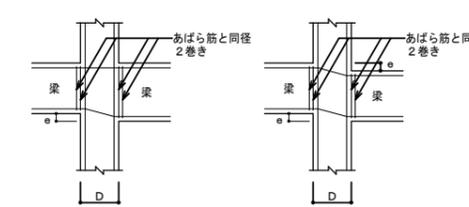


図7.9.1 幅止め筋位置

(e) 段違い梁の配筋

(1) 鉛直方向にずれのある場合は、【図7.10.1】、【図7.10.2】による。



- (注) e/D ≤ 1/6の場合でも図7.10.2としてよい。
e ≤ 100かつ e/D ≤ 1/6の場合

図7.10.1 e/D ≤ 1/6の場合

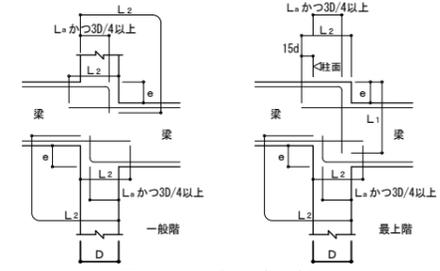
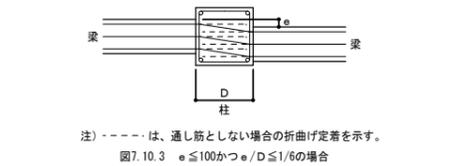


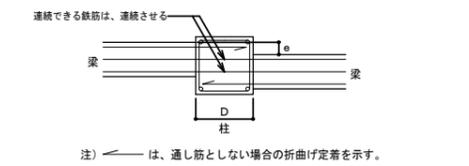
図7.10.2 e > 100または e/D > 1/6の場合

(2) 水平方向にずれのある場合は、【図7.10.3】、【図7.10.4】による。



- (注) ----- は、通し筋としない場合の折曲げ定着を示す。
e ≤ 100かつ e/D ≤ 1/6の場合

図7.10.3 e ≤ 100かつ e/D ≤ 1/6の場合



- (注) ----- は、通し筋としない場合の折曲げ定着を示す。
e > 100または e/D > 1/6の場合

図7.10.4 e > 100または e/D > 1/6の場合

(f) 斜めに定着する場合

柱に対して梁が斜めから取り付く場合は、【図7.10.5】による。

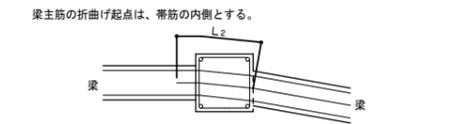


図7.10.5 斜めに定着する場合

御注文先	御承認	月日	中電技術コンサルタント株式会社	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所 登録18(1)第1252号	1級建築士登録 第315797号	藤原 光由	校閲	藤本 誠二	工事名称	木原分団屯所建設工事	図面番号
			広島市南区出汐2丁目3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士登録 第293685号	藤本 誠二	高木 洋志	設計	藤原 高木	図面名称	構造関係共通図 [配筋標準図その3]	縮尺
											1/-

- (8) スラブの中間部に高低差がある場合
1. 段差 (H) が150mm以下の場合、『図9.3.1』による。
 2. 段差 (H) が150mmを超える場合は、小梁を設ける。
小梁断面は図示のない場合は、『図9.3.2』による。(但し、監理者の承認を得ること)

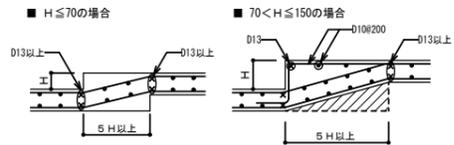


図9.3.1 スラブ段差が150mm以下の場合

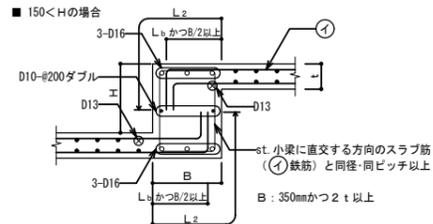


図9.3.2 スラブ段差が150mmを超える場合

- (9) 梁より片側スラブが上がる場合
1. 片側のスラブが $b \geq 200$ かつ $(L_b + 50mm)$ 以上の場合は、『図9.3.3』による。
 2. 片側のスラブが $b < 200$ または $(L_b + 50mm)$ 未満の場合は、『図9.3.4』による。

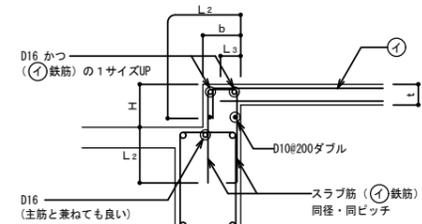


図9.3.3 $b \geq 200$ かつ $(L_b + 50mm)$ 以上の場合

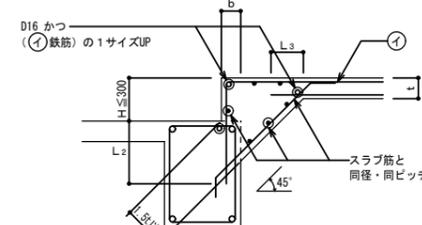


図9.3.4 $b < 200$ または $(L_b + 50mm)$ 未満の場合

- (10) 幅の小さい梁への定着要領
1. スラブの水平定着 L_3 が確保できない場合は、『図9.3.5』による。

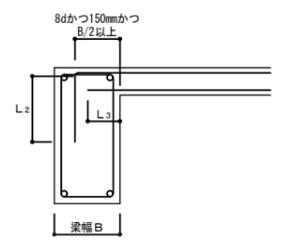
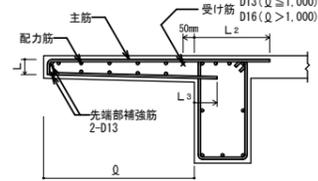


図9.3.5 幅の小さい梁への定着要領

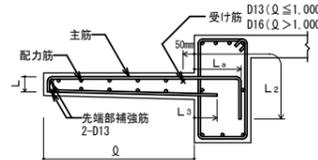
9.2 片持ちスラブ

片持ちスラブの配筋は、次にによる。
(1) 片持ちスラブの配筋は構造図により、配筋要領は、図9.4及び図9.5による。

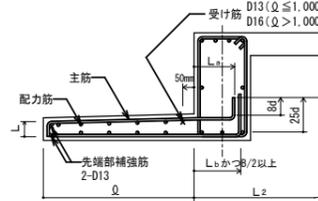
- 段差なし【隣接するスラブと同レベルの場合】



- 段差あり【梁の中間にスラブが付く場合】



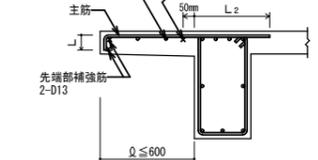
- 段差あり【逆スラブの場合】



(注) 先端の折り曲げ長さ L_3 は、スラブ厚よりかぶり厚を除いた長さとする。

図9.4 片持ちスラブの配筋 (ダブル配筋の場合)

- 段差なし

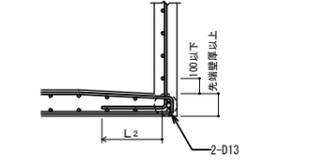


(注) 先端の折り曲げ長さ L_3 は、スラブ厚よりかぶり厚を除いた長さとする。

図9.5 片持ちスラブの配筋 (シングル配筋の場合)

- (2) 先端に壁が取付く場合は、図9.6による。

- 垂れ壁のない場合



- 垂れ壁のある場合

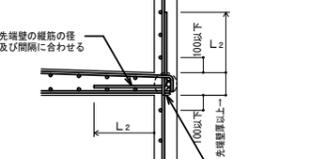
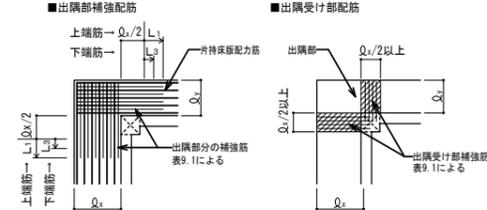


図9.6 先端に壁が取付く場合の配筋

(3) 出隅部

- (i) 補強の配筋は、構造図により、配筋方法は、図9.7による。
- (ii) 出隅受け部分 (図9.7の斜線部分) の補強筋は、表9.1による。



(注) 1. $Q_x \geq Q_y$ とする。 2. 出隅受け部補強筋は柱又は梁に L_1 定着する。

- 入隅部補強配筋

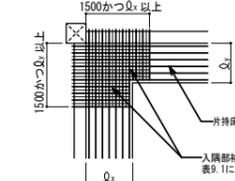


図9.7 片持ちスラブラ出隅部の補強配筋

表9.1 出隅・入隅部補強筋

部 位	径	ピッチ
出隅部分補強筋	・主筋と同径	・主筋と同ピッチ (主筋に加えて主筋量と同量の補強筋を加える)
	・主筋の1/2サイズアップ	・主筋の1/2ピッチ (主筋に加えて主筋量の2倍の補強筋を加える)
入隅部分補強筋	・主筋と同径	・主筋と同ピッチ (主筋に加えて主筋量と同量の補強筋を加える)
	・主筋の1/2サイズアップ	・主筋の1/2ピッチ (主筋に加えて主筋量の2倍の補強筋を加える)
出隅受け部配筋	・主筋と同径	・主筋と同ピッチ (主筋に加えて主筋量と同量の補強筋を加える)
	・主筋の1/2サイズアップ	・主筋の1/2ピッチ (主筋に加えて主筋量の2倍の補強筋を加える)
・図示 ()		

9.3 スラブ等の補強

- (a) スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強は、詳細図による。詳細図がなければ次による。

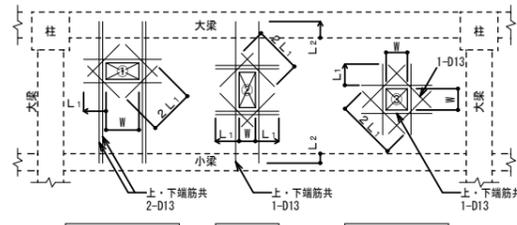


図9.8 スラブ開口部の補強配筋

- (注) 1. 開口の最大寸法 W が100mm以下の場合、補強筋不要とする。ただし、開口間隔は、3倍 (隣接する開口寸法の平均) 以上確保できる場合を原則とする。開口間隔がこれ以下の場合、全体を1つの開口として補強筋を設け、個々の開口についても補強筋を設ける。

2. 開口の最大寸法 W が1,000mmを超える場合は、監督員と協議の上補強する。

3. 開口の最大寸法 W が400mmを超える場合は、短辺方向補強筋は梁内に L_2 定着すること。

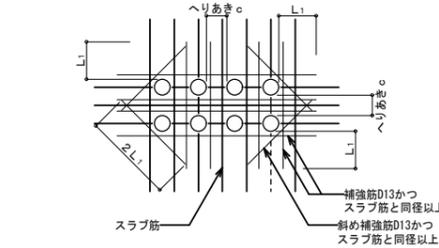
4. 以下、開口の大きさに対応した補強筋は、表9.2による。

表9.2 スラブ開口補強筋

開口の大きさ	短辺・長辺方向補強筋	斜め補強筋
・開口の最大寸法 $W \leq 400$	上端・下端共 各1-D13	1-D13
・開口の最大寸法 $W \leq 800$	上端・下端共 各2-D13	1-D13
・開口の最大寸法 $W \leq 1,000$	上端・下端共 各4-D13	2-D13

5. 床スラブ筋がD16以上の場合は補強筋は、床スラブ筋と同径筋を使用する。

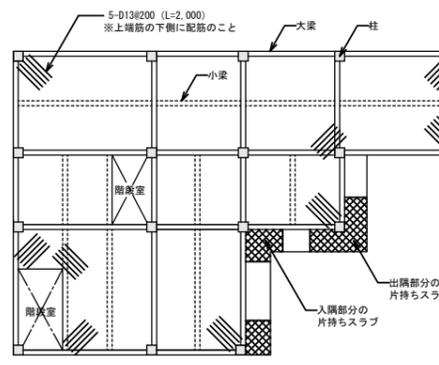
6. □型 幅止め筋は、床スラブ筋と同径・間隔とする。



- (注) 1. 設備の小開口が連続してある場合は、縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口を空けて補強すること。なお、孔と孔のへりあき c は100mm以上とする。
2. 切断した鉄筋末端部と設備開口は、かぶり厚に注意すること。
3. 一枚のスラブに設ける開口位置によっては、図9.8に準じて配筋すること。
4. 事前に監理者と協議し、作業員へ周知徹底させること。
- また、スラブ筋を無理に曲げたりしないこと。

図9.8 小開口を連続して設けた例

- (b) 床スラブの補強 (屋根スラブについても同様)



- (注) 1. 斜線部分で床スラブの配筋が $\phi 100$ 以下の場合、補強筋は不要とする。
2. 点線部分の床スラブは、上端筋の間隔が $\phi 100$ 以下となる様に床スラブ筋と同径筋により補強する。

図9.9 床スラブ (屋根スラブ) の補強

- (c) 土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

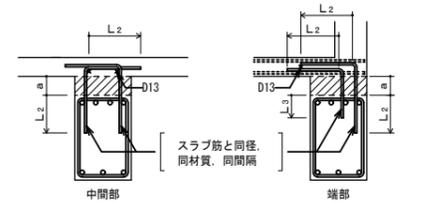


図9.10 打継ぎ補強配筋

- (d) 土間コンクリートの補強
土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。

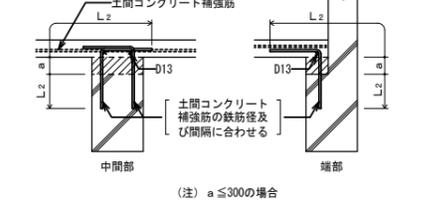


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持ちスラブリ階段

片持ちスラブリ階段の配筋は、図10.1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

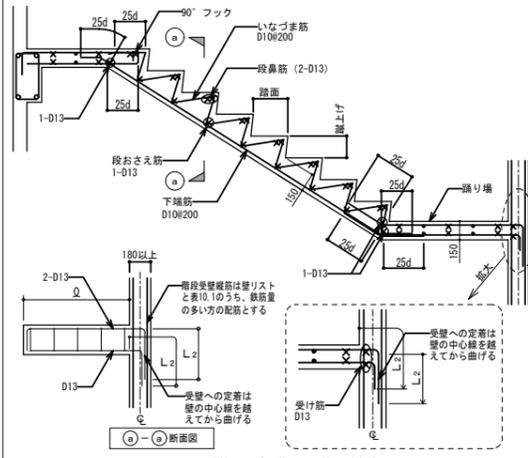


図10.1 片持ちスラブリ階段の配筋及び定着

表10.1 階段受壁の縦筋 (Q: 片持ち階段の寸法)

壁厚	$Q \leq 1,200$	$1,200 < Q \leq 1,500$	$1,500 < Q \leq 1,800$
180	D13#150 ギャブル	D13#125 ギャブル	D13#125 ギャブル
200・220	D13#200 ギャブル	D13#200 ギャブル	D13#150 ギャブル
250		D13#200 ギャブル	D13#200 ギャブル

- (注) 1. 階段寸法は、詳細図、意匠図による。
2. 段部及び踊り場の配筋は、図示による。図示のない場合は、図10.1による。
3. 階段受け壁については、壁リストと表10.1のうち、配筋量の多い方を適用する。

10.2 二辺固定スラブリ階段

二辺固定スラブリ階段の配筋は、図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は構造図による。

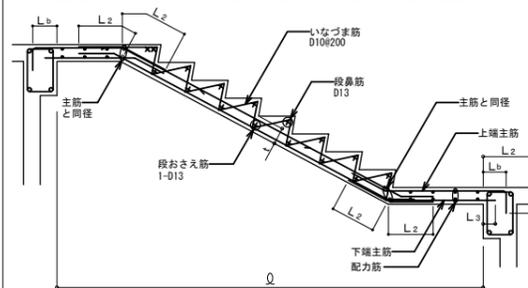


図10.2 二辺固定スラブリ階段配筋 (その1)

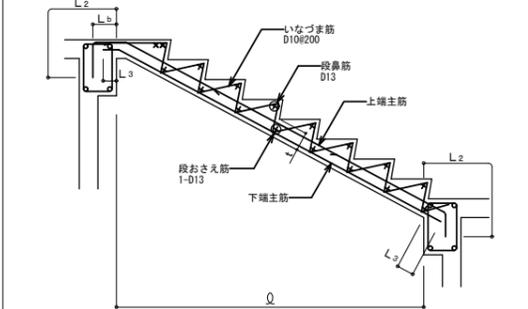


図10.3 二辺固定スラブリ階段配筋 (その2)

表10.2 スラブリ階段の厚さ及び配筋 (Q: スラブリ階段の内法スパン)

通用	内法スパン	t	主筋	配力筋
・	$Q \leq 3,000$	150	D13#200 ギャブル	D10#200 ギャブル
・	$3,000 < Q \leq 3,500$	150	D13#150 ギャブル	D10#200 ギャブル
・	$3,500 < Q \leq 4,000$	180	D13#125 ギャブル	D10#200 ギャブル
・	$4,000 < Q \leq 4,500$	180	D13#100 ギャブル	D10#200 ギャブル
・	$4,500 < Q \leq 5,000$	200	D13・D16#125 ギャブル	D10・D13#200 ギャブル
・	$5,000 < Q \leq 5,500$	220	D16#125 ギャブル	D10・D13#200 ギャブル
・	$5,500 < Q \leq 6,000$	250	D16#125 ギャブル	D13#200 ギャブル

- (注) 1. 階段寸法は、詳細図、意匠図による。
2. 段部及び踊り場の配筋は、図示による。図示のない場合は、図10.2・図10.3及び表10.2による。

11.1 増打ち部配筋要領

- (a) 一般事項
- 構造図に記載のない増打ちを行う場合は、事前に監理者と協議すること。
 - 柱・梁の増打ち部に耐力壁が取り付く場合の増打ち配筋要領は、構造図による。
 - 増打ち寸法 a1, a2 が70mm未満の場合は、補強筋は不要とする。
 - 増打ち寸法 a1, a2 が200mmを超える場合は、補強筋は不要とする。
 - 図11.1.1の部は、増打ちコンクリートを示す。

- (b) 柱の増打ち
- 梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、本柱断面内で確保し、増打ち部は定着長さに算定しない。【図11.1.3】

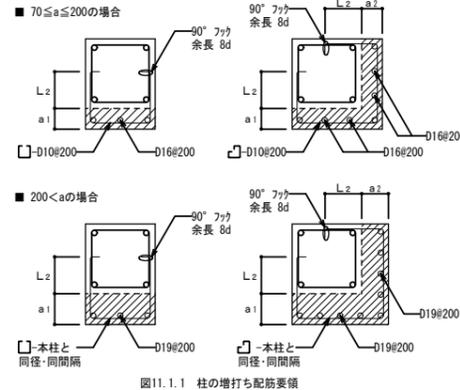


図11.1.1 柱の増打ち部配筋要領

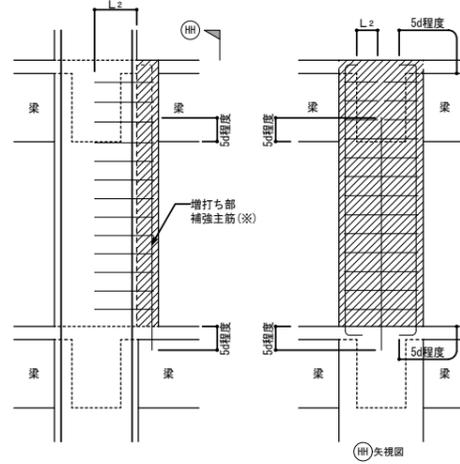


図11.1.2 柱増打ち部の補強主筋の定着要領

【※】補強主筋は、大梁を引き通して（又はL₂）定着しない

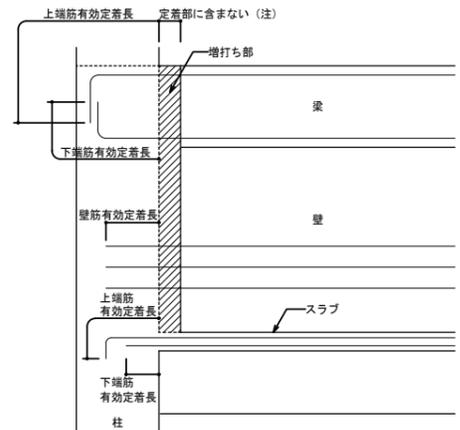
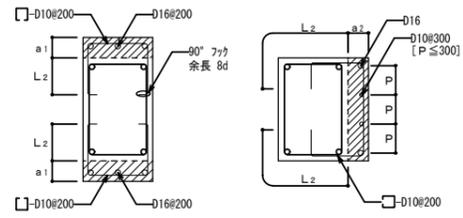


図11.1.3 各部有効定着長のとり方

(c) 梁の増打ち

- 小梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、本梁断面内で確保し、増打ち部は定着長さに算定しない。【図11.2.3】
- 増打ち部腹筋は、本梁と同径・同段数とする。

■ 70 ≤ a ≤ 200 の場合



■ 200 < a の場合

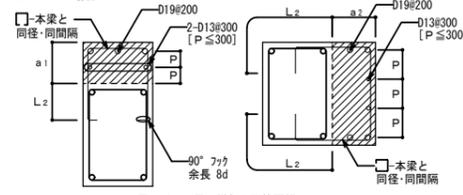


図11.2.1 梁の増打ち部配筋要領

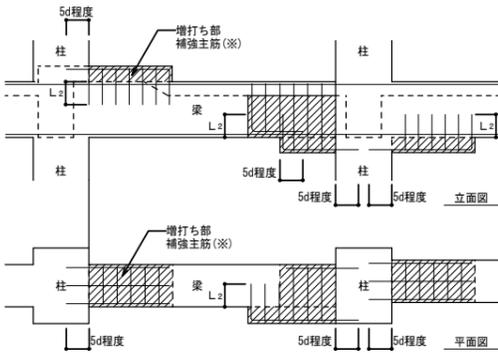
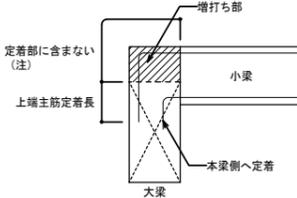


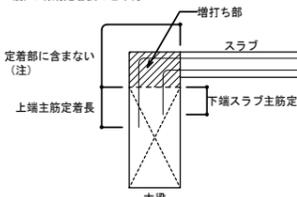
図11.2.2 梁増打ち部の補強主筋の定着要領

【※】補強主筋は、大梁を引き通して（又はL₂）定着しない

■ 小梁（主筋）の有効定着長のとり方



■ スラブ（スラブ筋）の有効定着長のとり方



■ 耐力壁（壁筋）の有効定着長のとり方

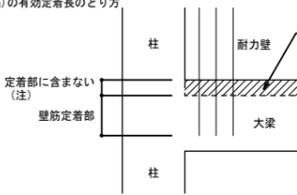


図11.2.3 各部有効定着長（大梁内）

（注）：『図11.2.1 梁の増打ち部配筋要領【■ 200 < a の場合】』に従って配筋した場合には含んで良い。

(d) 梁の割増し幅

- 柱と梁が同一面の場合には、下記のように本梁とは別に梁幅を割増しする。（柱と梁が同幅の場合は、不要）

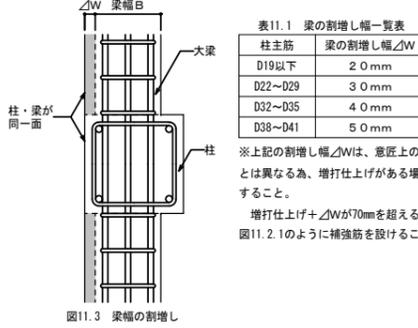


図11.3 梁幅の割増し

柱主筋	梁の割増し幅△W
D19以下	20mm
D22~D29	30mm
D32~D35	40mm
D38~D41	50mm

※上記の割増し幅△Wは、意匠上の増打ち上げとは異なる為、増打ち上げがある場合は、加算すること。
増打ち上げ+△Wが70mmを超える場合は、図11.2.1のように補強筋を設けること。

(e) 壁及びスラブの増打ち

- 壁及びスラブの増打ちは、構造図に記載がない場合、図11.4による。
- 50 < a の場合で図示の無い場合は、監理者の承認を得てを適用すること。
- a ≤ 50 の場合は、補強不要とする。

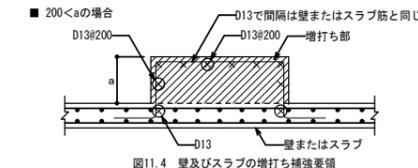
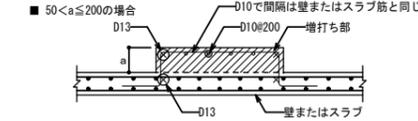


図11.4 壁及びスラブの増打ち部補強要領

12.1 梁貫通孔

(a) 一般事項

- 梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ下記による。
- 梁貫通孔補強筋の名称等は、図12.1.1による。
- 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合は、これの外径とする。
- 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央下部は梁下縁よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。【図12.1.2】
- 孔は、柱面から原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。【図12.1.3】
- 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図12.1.4による。
- 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、補強を省略することができる。但し、孔両側のあばら筋が設計間隔を超える場合は、孔の両側にあばら筋を2巻き配筋する。

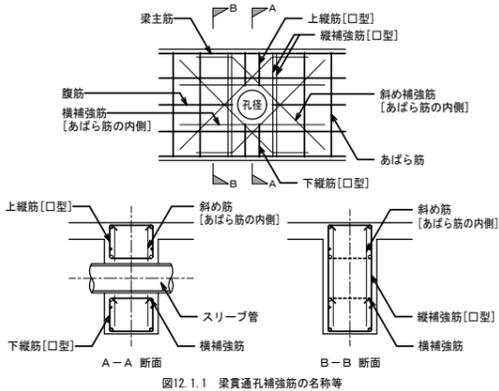


図12.1.1 梁貫通孔補強筋の名称等

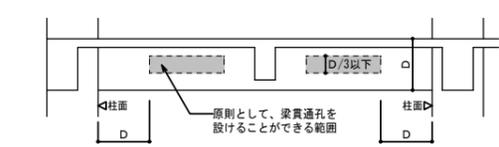


図12.1.2 梁貫通孔を設けることができる範囲

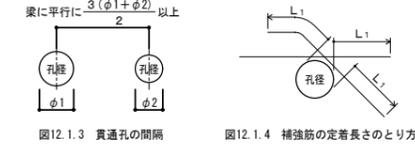


図12.1.3 貫通孔の間隔

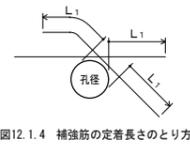


図12.1.4 補強筋の定着長さのとり方



図12.1.5 他の貫通孔を設けない範囲

(b) 人通り孔（φ600～φ800）の補強要領

人通り孔補強は、図示による。図示の無い場合は、監理者の承認を得た上で、表12.1を用いる。

補強筋	地中梁	地中小梁
斜め筋	8-4-D25	4-2-D25
横筋	4-D25	2-D25
縦筋	3-Ⅲ-D16	2-Ⅲ-D16
上下縦筋	D16φ100以内	D13φ100以内

（注）配筋の表示の凡例は、表12.3による。

(c) 一般の梁貫通孔（400φ以下）の補強要領

φ400以下の梁貫通孔の補強要領は、梁のあばら筋量【表12.5】に応じて設定し、補強種別は表12.2、補強要領は表12.3による。

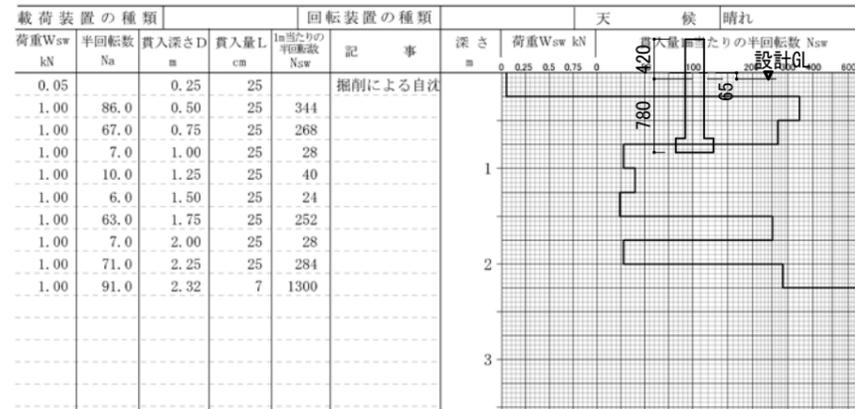
表12.2 補強種別

梁せい	梁幅	300					400					500				
		A	B	C	D	E-F	A	B	C	D	E-F	A	B	C	D	E-F
500	100	1	1	2	2	3	1	2	2	3	3	1	2	2	3	3
550	150	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
600	100	1	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
650	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
700	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
750	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
800	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
850	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
900	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
950	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,000	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,050	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,100	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,150	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,200	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,250	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,300	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,350	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,400	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,450	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,500	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,550	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,600	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,650	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,700	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,750	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,800	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,850	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,900	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
1,950	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,000	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,050	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,100	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,150	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,200	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,250	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,300	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,350	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,400	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,450	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,500	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,550	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,600	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,650	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,700	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,750	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,800	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,850	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,900	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
2,950	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,000	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,050	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,100	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,150	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,200	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,250	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,300	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,350	150	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,400	200	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,450	100	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3
3,500	150	2	2	3	3											

設計GL=KBM+580

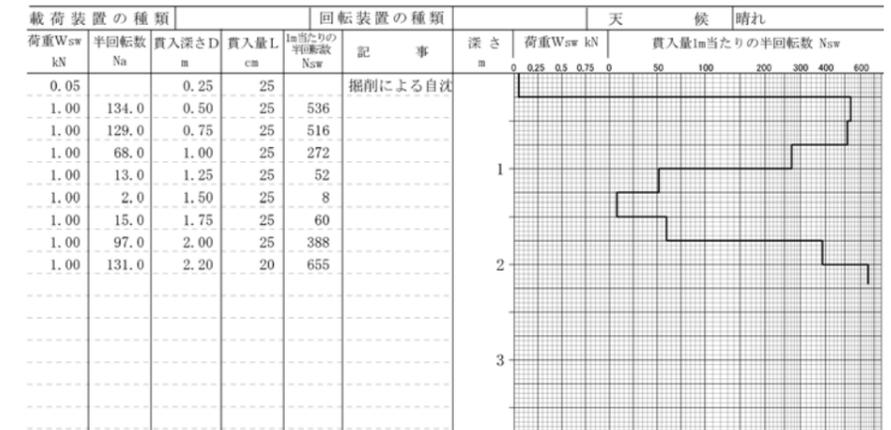
地点番号 (地盤高) No. 1 (KBM+0.645m)

試験者 井上暁男



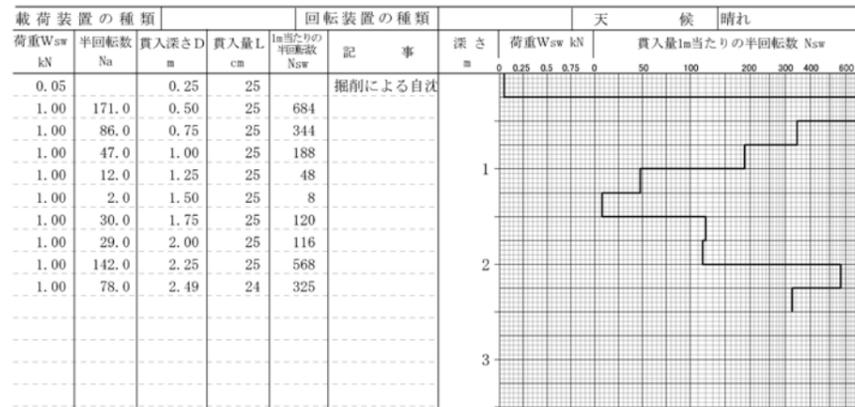
地点番号 (地盤高) No. 2 (KBM+0.165m)

試験者 井上暁男



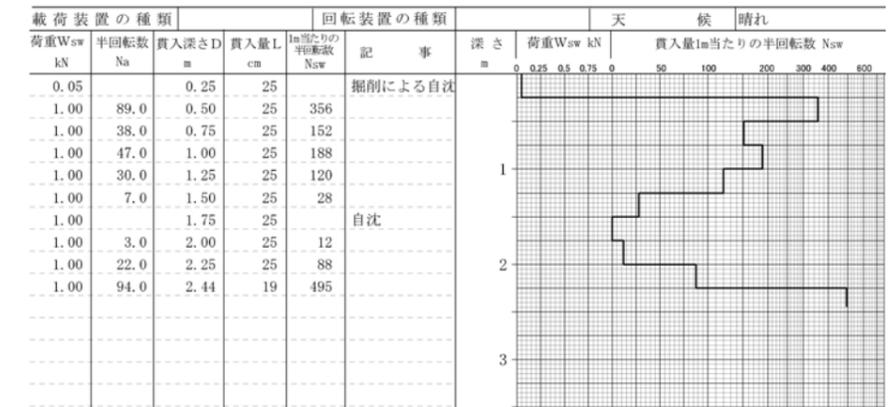
地点番号 (地盤高) No. 3 (KBM+0.215m)

試験者 井上暁男



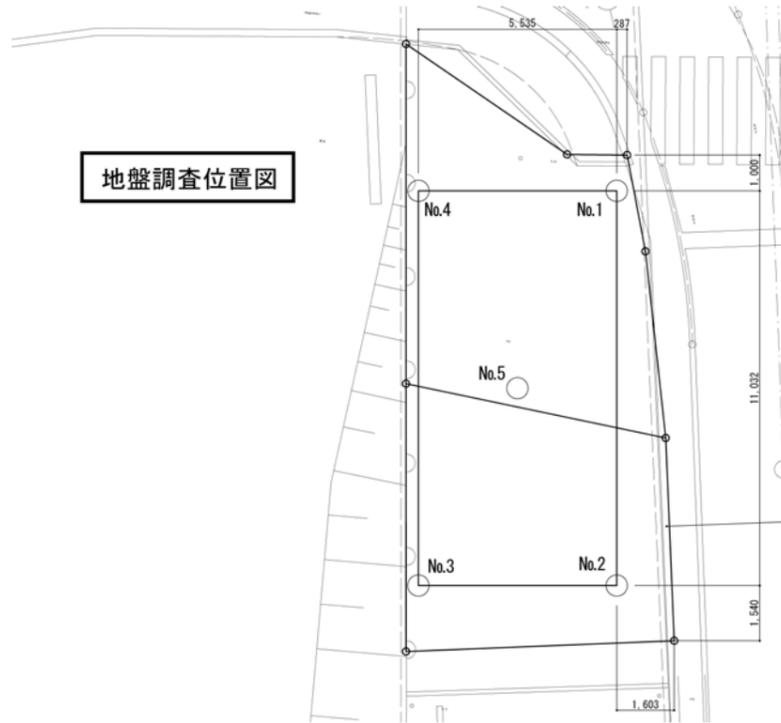
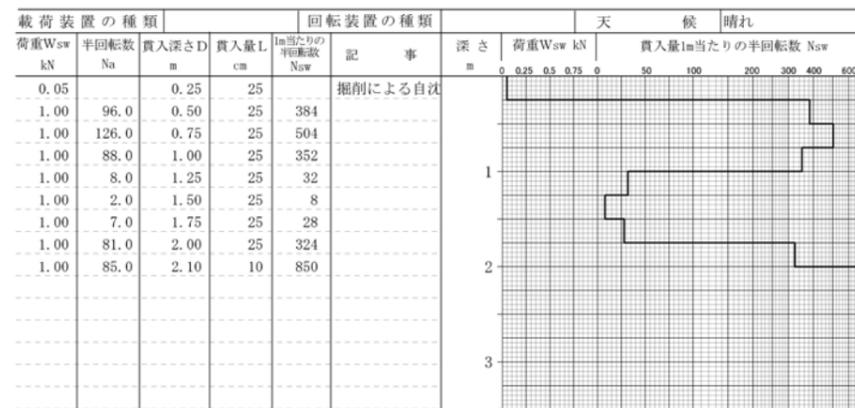
地点番号 (地盤高) No. 4 (KBM+0.945m)

試験者 井上暁男

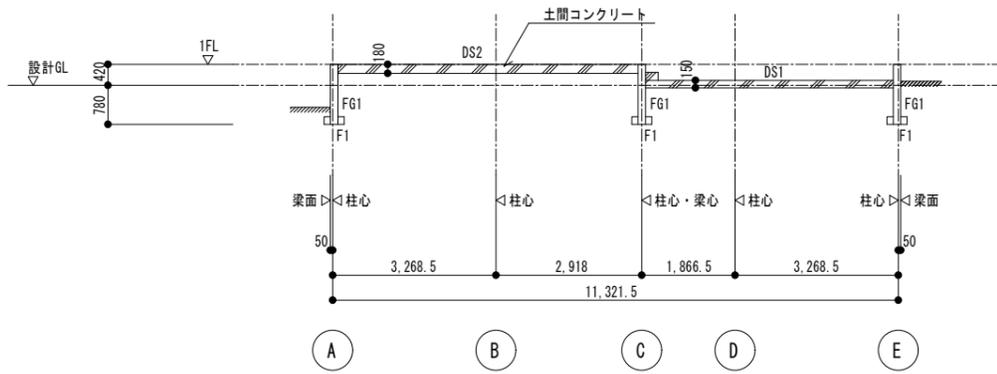


地点番号 (地盤高) No. 5 (KBM+0.460m)

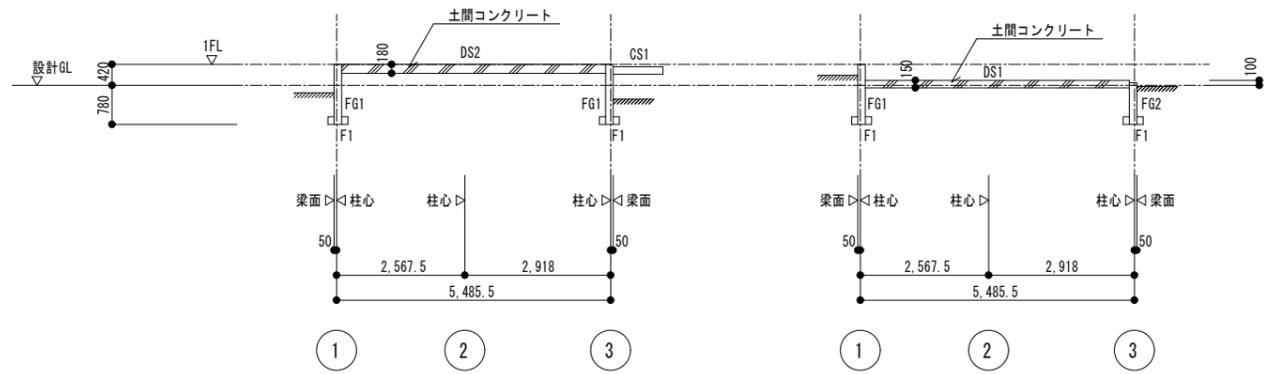
試験者 井上暁男



※A2版をA3版に縮小 (70.7%縮小)

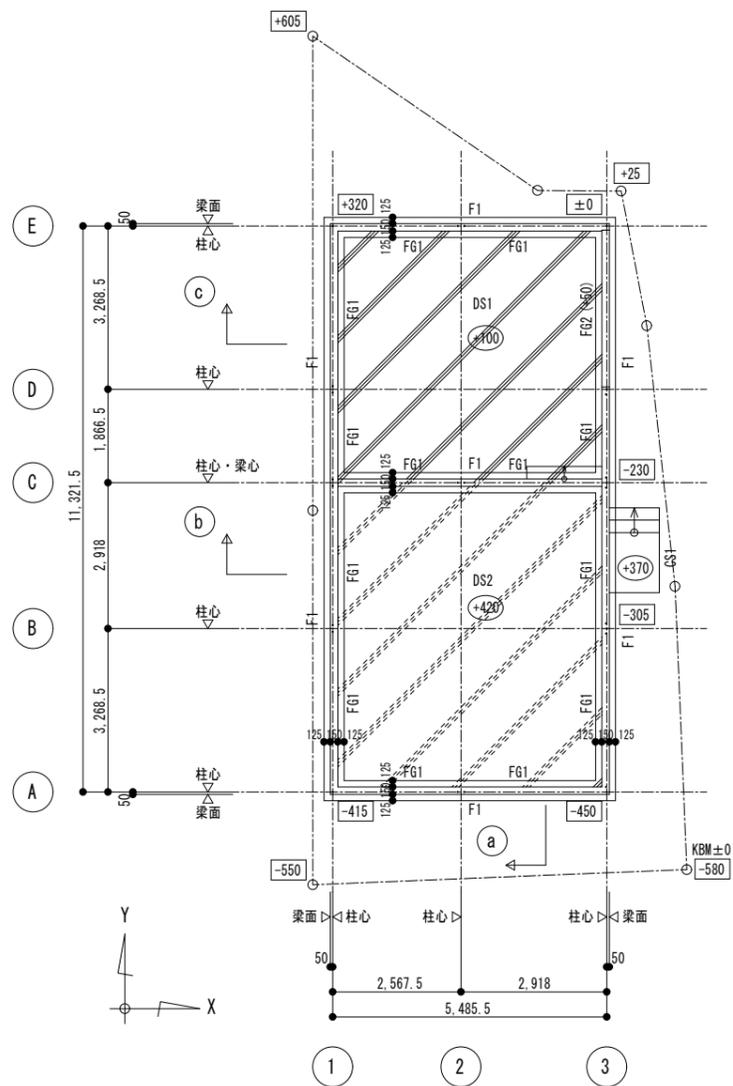


a 矢視 1/100



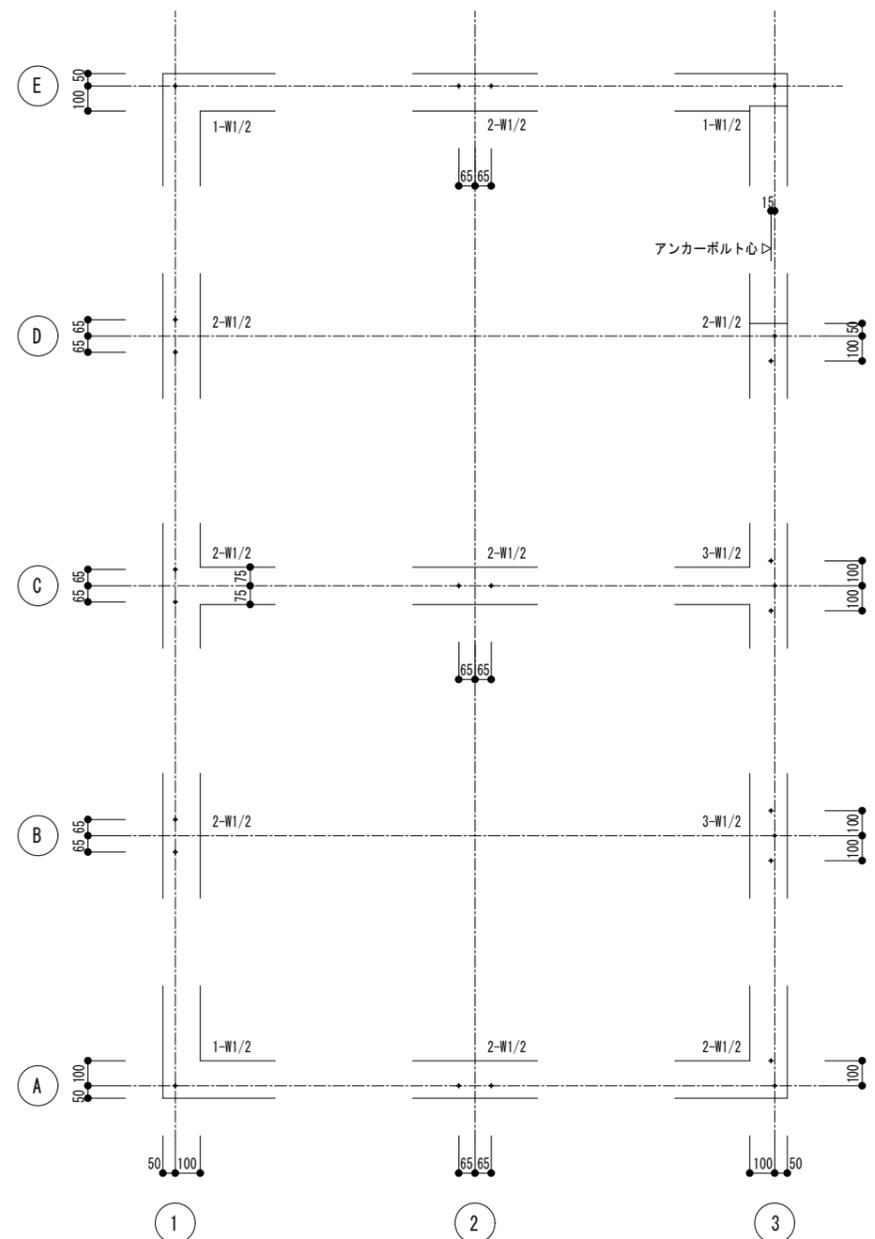
b 矢視 1/100

c 矢視 1/100



基礎伏図 1/100

- 特記なき場合下記による
- 土間コンクリート (DS1) 厚150 D10 @200シングル
 - 土間コンクリート (DS2) 厚180 D10 @200ダブル
- 地中梁天端 設計GL+420
 () 内は設計GLからの地中梁天端を示す。
- 床天端 設計GL+420 (1FL±0)
 ○ 内は設計GLからの床天端を示す
 □ 内は設計GLからの地盤面を示す
- 設計GL = KBM+580

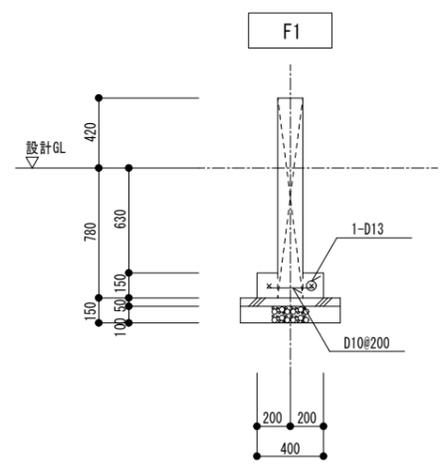


アンカーボルト位置図 1/20

御注文先	御承認	記事	月日	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所登録 18(1)第1252号	1級建築士登録 第 315797 号 藤原 光由 高木 洋志	校閲 藤本 矢野 設計 藤原 高木	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 基礎伏図・断面図・アンカーボルト位置図	図面番号 S-012 縮尺 1/100 1/20
------	-----	----	----	---	--	-----------------------------------	----------------------	--------------	---	-----------------------------

※A2版をA3版に縮小 (70.7%縮小)

基礎 リスト 1/30

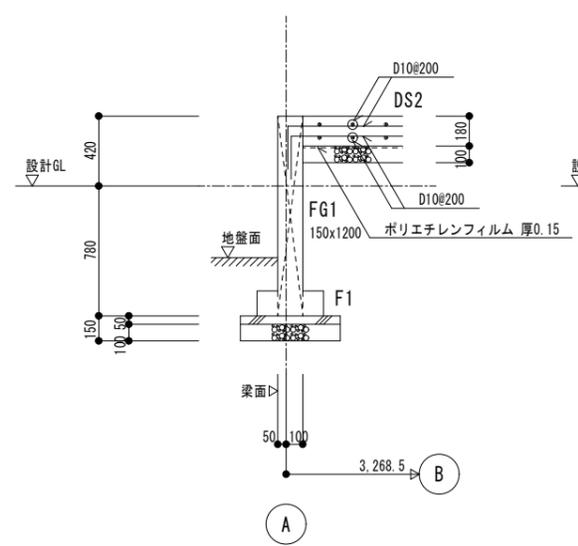


地中梁リスト 1/30

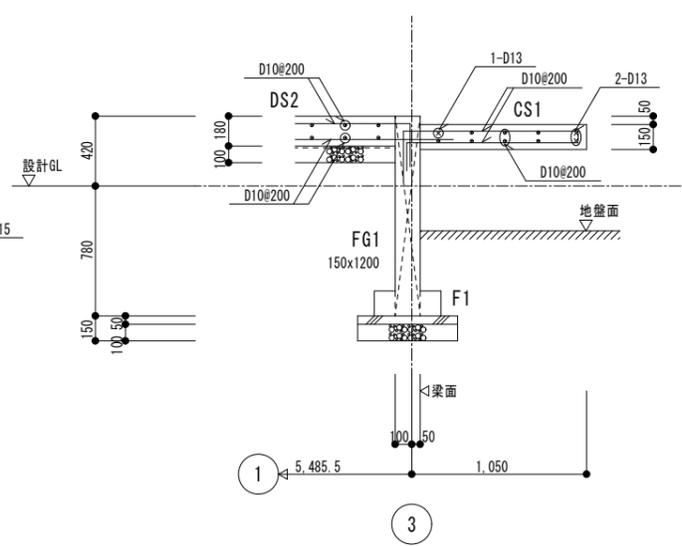
符号	FG1	FG2	
B × D	150 x 1200	150 x 830	
位置	全域	全域	
断面			
上端主筋	1 - D13	1 - D13	
下端主筋	1 - D13	1 - D13	
腹筋	7 - D10	4 - D10	
スターラップ	∩ - D10 @150	∩ - D10 @150	

床版リスト

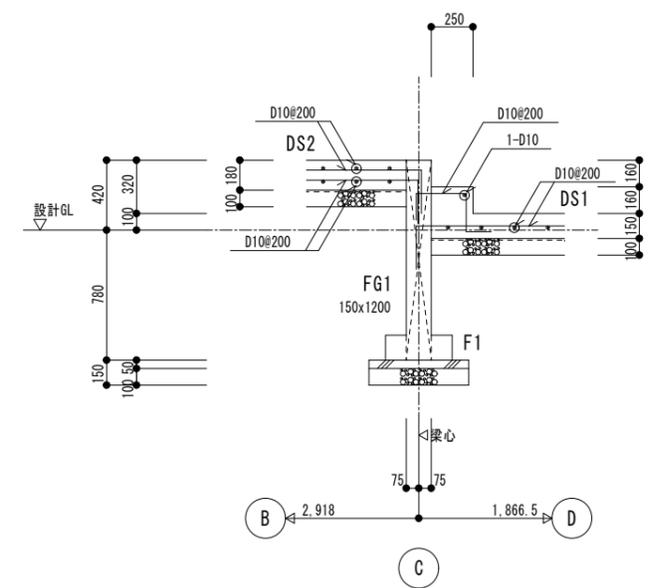
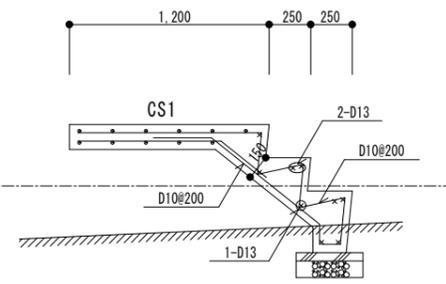
符号	版厚	位置	短辺 (主筋) 方向	長辺 (配筋) 方向	備考
CS1	150	上層	D10 @200	D10 @200	モチアミ
		下層	D10 @200	D10 @200	
DS1	150	上層	D10 @200	D10 @200	シングル 土間コンクリート
		下層	—	—	
DS2	180	上層	D10 @200	D10 @200	モチアミ 土間コンクリート
		下層	D10 @200	D10 @200	
		上層			
		下層			



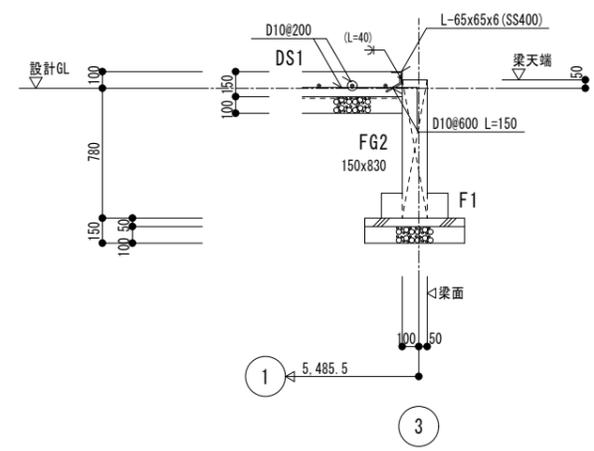
土間コンクリート 配筋図 1/30



屋外階段 配筋図 1/30

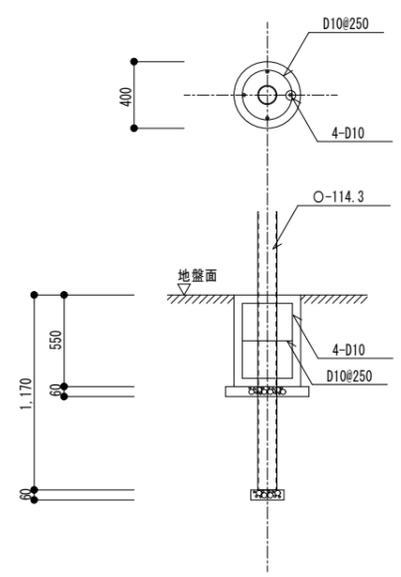
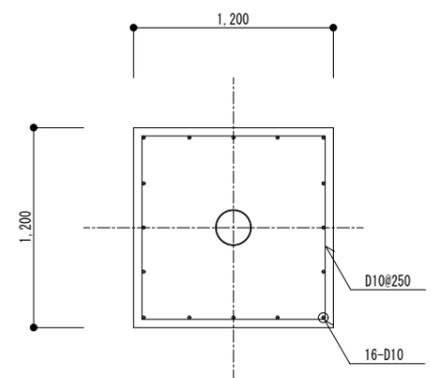


屋内階段 配筋図 1/30

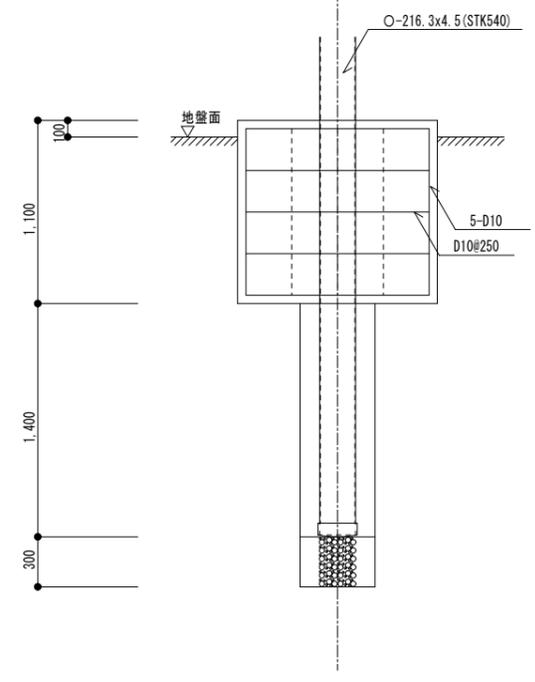


3通 シャッター廻り 配筋図 1/30

※A2版をA3版に縮小 (70.7%縮小)



スッキリボール基礎 配筋図 1/30



ホース干場基礎 配筋図 1/30

御注文先	御承認	記事	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所 登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797 号 藤賀 光由 高木 洋志	校閲   設計  	設計年月日 2022. 9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 雑配筋図	図面番号 S-014 縮尺 1/30
------	-----	----	---	--	-----------------------------------	--	------------------	------------------------------------	-----------------------------

※A2版をA3版に縮小 (70.7%縮小)

Ⅰ. 工事概要

1. 工事名称 木原分団屯所建設工事

2. 工事場所 広島県三原市木原四丁目

3. 建物概要

建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積 (㎡)	消防法施行令別表第一の区分	備考
屯所	鉄骨造	平屋建	62.10	15項	新築

4. 工事種目 (○印の付いたものが対象工事種目)

建物別及び屋外	工 事 種 別			
工事種目	屯所			屋外
○ 電灯設備	新設一式			
・ 動力設備				
・ 電熱設備				
・ 雷保護設備				
・ 受変電設備				
・ 電力貯蔵設備				
・ 発電設備				
・ 構内情報通信網設備				
○ 構内交換設備	新設一式			
・ 情報表示設備				
・ 映像・音響設備				
・ 拡声設備				
・ 誘導支援設備				
○ テレビ共同受信設備	新設一式			
・ 監視カメラ設備				
・ 駐車場管制設備				
・ 防犯・入室管理設備				
・ 火災報知設備				
・ 中央監視制御設備				
・ 医療関係設備				
○ 構内配電線路				新設一式
○ 構内通信線路				新設一式

5. 指定部分 ※ 無し ・ あり (工期 令和 年 月 日)

対象部分: _____

Ⅱ. 工事仕様 (改修工事の場合の部分使用 ※ 無し ・ あり)

1. 共通仕様

(1) 特記仕様及び図面に記載されていない事項は、国土交通大臣官庁官庁官庁官庁の「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事情編)(平成31年版)」(ただし改修工事の場合は「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事情編)(平成31年版)」) (以下「標準仕様書」という)及び「公共建築設備工事標準図(電気設備工事情編)(平成31年版)」(以下「標準図」という)による。

(2) 機械設備工事及び建築工事を含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれ工事仕様書を適用する。

(3) 本工事は工事中及び完成後に必要に応じ次の調査を行うため、発注者より連絡があれば対応する。
ア 公共事業労働費調査…工事中に実施(調査費の記入決定、発注者実施への協力)
イ 契約不適合調査…建設工事請負契約約款第46条の5に定める期間内

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項のうち選択する事項は○印の付いたものを適用する。ただし、○印のない場合は※印を適用する。
(3) 標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・品質性能・工法検査方法を明示している場合において、それが関係法令等(条例含む)に抵触する場合には、関係法令等(1.1.13)を優先する。

一般共通事項

⑥ 完成時の提出書類等

(1) 工事完成図書引渡書A4版 2部
(2) 完成図書 1部
(3) 完成図面・施工図面二折り製本A3版製本 1部
(4) 縮小完成図面・施工図面二折り製本A4版製本 2部
(5) 工事写真 (工事中写真A4版カラーサービス版) 1部
(完成写真A4版カラーサービス版) 2部
(6) 電子成果品(電子納品)CDR 2部
(7) 工事監理図書A4版 1部
(8) 工事概要調書A4版 2部
(9) 請書行届出書類一覽表A4版 1部
(10) 運転操作説明書A4版製本・取扱説明書 1部
(11) 展開管理台帳A3版製本 1部
(12) 保安台帳 1部
(13) 型式台帳 部
※型式台帳は、監督職員が指定する様式で作成する。建物で使用する部材、機器を記入し提出すること。
※建築工事に伴う工事の提出部数は、建築工事に合わせる。
※工事写真は「蓄積工事写真作成要領」によるほか監督職員の指示による。
※既存完成図(3Dデータ含む)の修正を行う(間仕切・室名も現状に合わせて修正する)。

⑦ 施工図等

別契約の関係工事との取合いを十分に打合せ、各現代理人捺印の上提出する。なお、当該建物の取得する施工図の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

8. 足場
本工事で設置する。 ・外部足場(種) ・内部足場(種)

⑨ 工事用電力、水、その他
本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。

10. 監督職員事務所
本工事で設置する

11. 受注者事務所その他
構内につくることができ

⑫ 建設発生土の処理
※ 現場説明書の施工条件明示による
・ 構内指示場所に敷き均し
・ 構内指示場所に堆積

13. 非破壊検査
はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に非破壊検査を行い監督職員に報告する。検査方法は電磁誘導式を原則とする。放射線透過検査等による建物の調査実施する場合、範囲は監督職員の指示による。なお、検査費は別途とする。

14. 既存躯体への穿孔
穿孔機械を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置を用いて施工すること。

15. あと施工アンカー
施工後確認試験
試験方法 引張試験機による引張り試験
試験箇所数 1施工単位に対し1本以上
対象機器 (・配電盤・非常用発電機・直流電源装置・変圧器・確認強度 対象機器ごとのアンカーボルト1本に作用する引抜き力以上)

16. 電気工事士
⑰ 耐震措置

(1) 工事完成図書引渡書A4版 2部
(2) 完成図書 1部
(3) 完成図面・施工図面二折り製本A3版製本 1部
(4) 縮小完成図面・施工図面二折り製本A4版製本 2部
(5) 工事写真 (工事中写真A4版カラーサービス版) 1部
(完成写真A4版カラーサービス版) 2部
(6) 電子成果品(電子納品)CDR 2部
(7) 工事監理図書A4版 1部
(8) 工事概要調書A4版 2部
(9) 請書行届出書類一覽表A4版 1部
(10) 運転操作説明書A4版製本・取扱説明書 1部
(11) 展開管理台帳A3版製本 1部
(12) 保安台帳 1部
(13) 型式台帳 部
※型式台帳は、監督職員が指定する様式で作成する。建物で使用する部材、機器を記入し提出すること。
※建築工事に伴う工事の提出部数は、建築工事に合わせる。
※工事写真は「蓄積工事写真作成要領」によるほか監督職員の指示による。
※既存完成図(3Dデータ含む)の修正を行う(間仕切・室名も現状に合わせて修正する)。

別契約の関係工事との取合いを十分に打合せ、各現代理人捺印の上提出する。なお、当該建物の取得する施工図の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。

本工事で設置する

構内につくることができ

※ 現場説明書の施工条件明示による
・ 構内指示場所に敷き均し
・ 構内指示場所に堆積

はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に非破壊検査を行い監督職員に報告する。検査方法は電磁誘導式を原則とする。放射線透過検査等による建物の調査実施する場合、範囲は監督職員の指示による。なお、検査費は別途とする。

穿孔機械を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置を用いて施工すること。

施工後確認試験
試験方法 引張試験機による引張り試験
試験箇所数 1施工単位に対し1本以上
対象機器 (・配電盤・非常用発電機・直流電源装置・変圧器・確認強度 対象機器ごとのアンカーボルト1本に作用する引抜き力以上)

最大電力500kW以上の場合においても、第1種電気工事士により施工を行う。
設備機器の固定は次に示す設計用地震力に耐える方法とする。
ただし、重量1kN以下の軽量な機器については、設備機器の製造業者の指定する方法で確実に行えばよいものとする。
(1) 機器の据付け及び取付け
設計用水平地震力は、機器重量 [kN] に、地域係数(・1.0 ※0.9 ・0.8) と次に示す設計用標準水平地震度を乗じたものとする。
設計用標準水平地震度

設置場所	機器種別	特定の施設		一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
屋上及び塔屋	水 槽 類	2.0	1.5	1.5	1.0
	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6
地下及び1階	機 器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6

上層とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。
中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの。
水槽類には燃料小出し槽を含む。
重要機器は次のものを示す。
(・配電盤・非常用発電機・直流電源装置・交流無停電電源装置・交換機・火災報知受信機・中央監視制御装置・通信総合室)
(2) 設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。
(3) 横引き配管等の耐震支持は、施設の種類に応じたものとする。

(1) EM電線類で規格等の記載のないものは、ハログン及び鉛を含まないものとする。
(2) 通信ケーブルでJCS規格にない対数のケーブルはJCS規格に準じたものとする。
(3) 盤内配線はEM電線を使用する。ただし、製造者標準品は除く。

EM-高圧架橋「R15117-A」は、JIS A4935「6600V架橋「R15117-A」(3層押出型)」によるものとし、次による。

呼称(図号)	種 類
RKV EM-CE (EE)	6600V 架橋「R15117-A」絶縁耐燃性「R15117-A」(6600V CE/F(EE))
RKV EM-CE (EE)	6600V 117-A型架橋「R15117-A」絶縁耐燃性「R15117-A」(6600V CE/F(EE))

分電盤、制御盤、端子盤などの2次側以降の配電線路、電線太さ、電線本数、管径などは監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。
建築する部分 ・居室() ・廊下 ・屋上、屋側 ○屋外 ・機械室

⑳ 電線本数・管路等

㉑ 露出配管の塗装 (付属品を含む)

㉒ 屋外露出配管の仕上げ

㉓ フッポリの材質

㉔ ガブレットの用途別表示

㉕ アルミ製の塗装

㉖ 屋上・屋側の支持・屋物の支柱・屋物等

㉗ 接地機

接地機の材料は次による。

記号	接地の種類	記号	接地抵抗値	接 地 極
・	共同接地	E ₁	10Ω以下	FB×3連—2線
・	A 共同接地	E ₁	10Ω以下	FB×3連—2線
・	A 共同接地	E ₁	10Ω以下	FB×3連—2線
・	B 共同接地	E ₁	10Ω以下	FB×3連—2線
・	C 共同接地	E ₁	10Ω以下	FB×2連—2線
・	C 共同接地	E ₁	10Ω以下	FB×3連—2線
○	D 共同接地	E ₁	100Ω以下	FB×1—2線
・	高圧避雷器	E ₁	10Ω以下	FB×3連—2線
・	交換機用	E ₁	10Ω以下	FB×3連—2線
・	通信用	E ₁	10Ω以下	FB×3連—2線
・	通信用	E ₁ 及びE ₂	100Ω以下	FB×1—2線
・	電話引込口の保安用	E ₁	100Ω以下	FB×1—2線
・	測定用	E ₁	—	FB×1—2線

(連結及び単独の場合、EBIはD=14 L=1,500又はW=40 L=1,200とする)
(E₁, E₂, E₃, E₄, E₅の場合、EBIはD=10 L=1,000又はW=30 L=900とする)

一般共通事項

28. 他工事との取合い

29. 天井仕上げ区分

30. 配線図記号その他

31. 適用区分

㉒ 呼び線

㉓ 露出配管の固定保護

㉔ 屋上・屋側等への設置機材の周回処理

㉕ 官公署への手続き

㉖ 工事現場の表示

37. 交通誘導員

㉘ 工事中情報共有システム

㉙ 電子納品

図面に記載されていない工事区分は、別紙工事区分表による。
() 書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
(1) EEF1.6-2C×2は、EEF1.6-4Cを使用してもよい。
(2) EMケーブルの表記は警報用及び同軸ケーブルを除き「EM」を省略する。
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
(1) 風圧力
風速 (Vo=・30・32・34 m/s) 地表面粗度区分 (・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)
(2) 積雪荷重
建設省告示第1455号における区域 別表 ()
長さ1m以上の入線しない電線管には1.2mm以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。
2.5mm以下のサドル及びダクターには保護を行う。
建築物(構造体)に直接設置するプルボックス、各種盤及びダクターには周囲にシール処理を行う。
工事の着手、施工、完成にあたり、関係官公署その他関係機関への必要な届出手続き等を遅滞なく行う。
現場の見やすい位置に、監督職員が指示する次の表示板を設置する。
※工事名等の表示板(900mm×600mm) ・工事概要等の説明看板(900mm×600mm)
作業期間、交通誘導員を (人/日) 配置すること。
(1) 本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づき実施すること。
(2) 本工事で使用する情報共有システムは次とする。
広島県工事中情報共有システム
https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html
(3) 監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者(以下「サービス提供者」という)との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする。
(4) 受注者は、監督職員又はサービス提供者から技術上の問題点の把握、利用にあたっての詳細を行うためのアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。
電子成果品を「蓄積工事電子納品表」に基づき作成する。
https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/nouhin/index02.html
※ 工事管理ファイル ・ 施工計画書 ・ 工程表 ・ 打合せ簿
※ 機材関係資料 ・ 施工関係資料 ・ 検査関係資料 ・ 発生材関係資料
※ 完成図面 ・ 保全に関する資料 ※ 施工図 ※ 完成写真 ・ その他

○ 接地極付きコンセント(2P15A)はプラグ無しとする。
○ 防水形コンセントはプラグ無しとする。
○ ハーネスジョイントボックス用0Aタップのケーブルは、ハログン及び鉛を含まない材料とする。
(1) LEDの光色は別図面に指定がある場合を除き下記による。
LEDの光色色 (・電球色 ※昼白色)
(2) LED照明器具の定格入力電圧はユニバーサル電圧(100V～242V)に対応するものとする。
明るさセンサーによる照明制御を行う部屋は、照度測定を行い、測定表を監督職員に提出する。なお、測定箇所は監督職員の指示による。
照度測定(100%点灯時(※夜間・)) (調光制御点灯時(※夜間 ※昼間))

設定器機能 ・アドレス設定 ・グループ設定 ・パターン設定
タイムスケジュール設定
納入数 ※1個 ・ 個
納入数 ※1個 ・ 個

3. 照明制御の照度測定等

4. 照明制御装置設定器

5. 多重伝送レゾナンス送信器

6. 非常照明・誘導灯自己点検送信器

1. イナバータ装置の規約効率

三相可変速運転用インバータ装置の規約効率は次の数値以上とする。

電動機出力(kW)	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11
規約効率(%)	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5

電動機出力(kW)	15	18.5	22	30	37	45	55	75
規約効率(%)	95.0	95.6	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5

備考
(1) 規約効率はJIM-TR245「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。
(2) 0.4kWの効率はJIS C 4212「高効率低圧三相可変形誘導電動機」の定格電圧200V、IP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。
(3) 0.75kWの効率はJIS C 4213「低圧三相可変形誘導電動機トランジスタモーター」の定格電圧200V、IP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。

構内交換設備

1. 型式

2. 保安器用接地

3. 壁掛電話機

送受話器の落下防止を施す。

構内配電線路

① 施工方法

埋設深さ 特記なきは地表面(舗装がある場合は舗装下面)から300mm以上とする。建物側配管引き込み部の地盤変位対応種別(沈下量○0.2m以下・0.6m以下・1.0m以下)

② 地中箱

蓋の記号表示 鋳造流込み(・電力 ※電気・)
ハンドホール内のケーブル支持等は、マンホールに準じて行う。
アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋は、アスファルト舗装用とする。

4. 高圧負荷開閉器

※閉鎖形(中耐塩形) ・閉鎖形(重耐塩形)
・避雷器内蔵 ・地絡継電器付(※方向性・無方向性)
※別置制御装置までの制御ケーブルを付属すること。
高圧ケーブルの両端部にシースの縮み対策(熱収縮テープによるシースずれ止め対策等)を行う。
・一般形 ・耐塩形

5. 高圧ケーブルの屋外端末処理

6. 照明用ポール

埋設深さ 特記なきは地表面(舗装がある場合は舗装下面)から300mm以上とする。建物側配管引き込み部の地盤変位対応種別(沈下量○0.2m以下・0.6m以下・1.0m以下)

蓋の記号表示 鋳造流込み(※通信・)
ハンドホール内のケーブル支持等は、マンホールに準じて行う。
アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋は、アスファルト舗装用とする。

構内通信線路

① 施工方法

埋設深さ 特記なきは地表面(舗装がある場合は舗装下面)から300mm以上とする。建物側配管引き込み部の地盤変位対応種別(沈下量○0.2m以下・0.6m以下・1.0m以下)

1. 大地抵抗の測定

2. 接地システム

1. 受変電設備容量

2. 変圧器

3. 予備品等

(燃料系発電装置)

1. 電気方式

2. 発電機容量

3. 燃料小出槽

4. 燃料種別

(太陽光発電装置)

1. 太陽電池アレイ

2. パワーコンディショナ

3. 表示装置

4. 連系する電力系統

増幅器

その他

① 機器取付高

機器取付高は下記を標準とする。ただし、天井高3m以上の場合及び機器の使用に支障がある場合は監督職員と協議する。

名 称	測 点	取付高 (mm)	名 称	測 点	取付高 (mm)
電力取用計器	地上～窓中心	1,800～2,000	拡張壁掛スピーカ	床 上～中心	天井高×0.9
引込開閉器	床 上～中心	1,800～2,200	壁付アッチネータ	"	1,300
分電盤(実験盤)	床 上～中心	1,500(上層1,900以下)	情報・出退表示盤	"	天井高×0.9
	ホルム分電盤	天井下～上 端	200	壁付発信器	"
スイッチ	床 上～中心	1,300	受付押ボタン(一般)	床 上～中心	1,300
電線箱	床 上～下 端	300	電源箱	床 上～下 端	300
「車椅子用」(周辺)	"	900	外部受信用(付)(子機)	標準による	
「自動・手動切替」	"	1,800	車椅子用(付)(遠隔子機)	床 上～中心	1,100
コンセント(一般)	"	300	壁付付(付)(上記以外)	"	1,300
「(トイレ)」	"	150	壁付押(付)(多機能付)	"	900
「(台上)」	台 上～中心	150	床転倒用	"	400
「(土間)」	床 上～中心	800～1,300	身障者用(付)(子機)	標準による	
「車椅子用」	"	400	機器収容箱	天井下～上 端	200
「車椅子用」	"	900	テレビ端子	床 上～中心	300
「(和室)」	"	300～400	「(和室)」	"	150
ブラケット(一般)	"	2,100～2,300			
「(舗装)」	"	2,000～2,500			
「(舗上)」	舗上端～中心	150			
壁掛形制御盤	床 上～中心	1,500(上層1,900以下)	受変機・副受機	床 上～操作部	800～1,500
半円開閉器	"	1,500	機器収容箱	"	800～1,500
力 操作スイッチ	"	1,300	受変機	床 上～中心	800～1,500
端子盤	床 上～下 端	300	表示灯	天井下～上 端	200
保安箱	天井下～上 端	200	パネル	"	200
壁付アウトレット	床 上～中心	300	ガス漏れ中継器	天井下～中心	300
「(和室)」	"	150	検知器(都市ガス)	天井下～中心	300
壁付電話機	"	1,300	"	床 上～上 端	300
壁掛形時計	"	1,500(上層1,900以下)			
電子時計	床 上～中心	天井高×0.9			

② コリンズ登録について

受注者は受注時又は変更時において請負金額が500万円以上の工事について、工事実績情報サービス(CORINS)に基づき、受注、変更、竣工、訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し、監督職員の確認を受けた後に登録機関に登録申請し、登録機関発行の「登録内容確認書」を監督職員に提出しなければならない。なお、途中変更時の登録が必要な場合は、工期の変更、技術者の変更があった場合とする。

3. 防護ゴム等の製造検査

本工事に当たり、東洋ゴム化学工業(株)又はニッタ化学工業(株)で製造された製品や材料を用いる場合には、使用するまでに第三者機関による品質を証明する書類を提出すること。
別表1「外部環境等による評価済み機材表」

品 目	機 材 名
○ LED照明器具(一般屋内に限る)	
・ 照明制御装置	
・ 可変速運転用インバータ装置	
・ 壁盤	分電盤(実験盤を含む) キュービクル式配電機 制御盤 高圧スイッチギア(調形) 高圧スイッチギア(PW形)
・ 高圧機器	高圧交流遮断器 高圧避雷器 高圧連相コンデンサ 高圧潮流ヒューズ 高圧負荷開閉器 高圧変圧器(特種機器)
・ 地絡監視装置	低圧閉路器
・ 蓄電池	ベント形蓄電池蓄電池 据置ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池 制御弁式蓄電池蓄電池 シールニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池
・ 交流無停電電源装置(UPS)	
・ 太陽光発電装置	パワーコンディショナ及び系統連系保護装置
・ 監視カメラ装置	
・ 中央監視制御装置	監視制御装置

4. 快速トイレモデル工事

本工事は快速トイレモデル工事(※発注者指定型・受注者希望型)であり、「快速トイレモデル工事試行要領(令和4年6月1日一部改正)」に基づき実施するものとする。
快速トイレモデル工事の仕様は、「広島県の調達情報」の「様式集>建設工事関係」その他の契約関係の様式に掲載している。
また、完成検査までに提出するアンケートは、「広島県の調達情報」の「入札・契約制度>入札・契約制度関係表」に掲載している。

項 目 特 記 事 項

① 施工条件

② 工事安全計画書

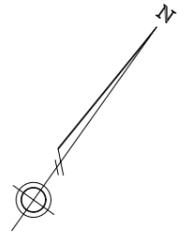
③ 施工調査

④ 発生材の処理

⑤ 機材の品質等

現場説明書による。
建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全技術指針を参考に、工事現場の安全対策に関する具体的な工事安全計画書を監督職員に提出する。
施工に先立ち、改修工事関連(施工部位により既存性能を損なうおそれのある)部分の事前調査を行い監督職員に報告書を出す。(・)
調査を行う前に監督職員に調査計画書を提出する。
調査する機器類等について、製造年、品番等を確認し特別管理産業廃棄物の有無を調査し、監督職員に報告する。 ・微量PCB含有有機溶剤(変圧器) ・アスベスト含有設備資材(配線用遮断器) ・引渡しを要するもの ※無 ・有(・金属類 ・盤類 ・電線、ケーブル ・特別管理産業廃棄物 ※無 ・有 ・本工事中において調査を行う。(・PCB使用機器 ・アスベスト含有設備資材(・配線用遮断器))
特別管理産業廃棄物は関係法令に使い適切に処理する。
工事中、特別管理産業廃棄物が発生すると判明した場合、その処理方法は監督職員と協議する。
放射線物質を含むイオン化式感知器 ※無 ・有
製造業者又は販売業者に回収を委託する。(・別途 ※本工事)
再生資源化を図るもの ※無 ・有(・蛍光灯 ・HIDランプ ・小型二次電池)
(1) 本工事で発生した建設廃棄物は、広島県(環境県民局)及び保健所設置政令市(広島市、呉市、福山市)が、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設(許可対象とならない中間処理施設にあっては、廃棄物処理法に定められた基準に従った適正な施設)で処理すること。ただし、建設廃棄物が、破砕等(選別を含む)により、有用物となった場合、その用途に応じて適切に処理するものとする。
(2) 本工事に伴う再生資源化に要する費用(運搬費を含む処分費)は、(1)に掲げる施設のうち受入れ条件が合うものの中から、運搬費と受入費(平日の受入費用)の合計が最も経済的になるものを見込んで、従って、正当な理由がある場合を除き再生資源化に要する費用(単価)は変更しない。
(3) 本工事で発生する建設廃棄物のうち、広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については、広島県産業廃棄物処理法が課税されるので、適正に処理すること。なお、本工事中では、広島県産業廃棄物処理税相当額を見込んで、

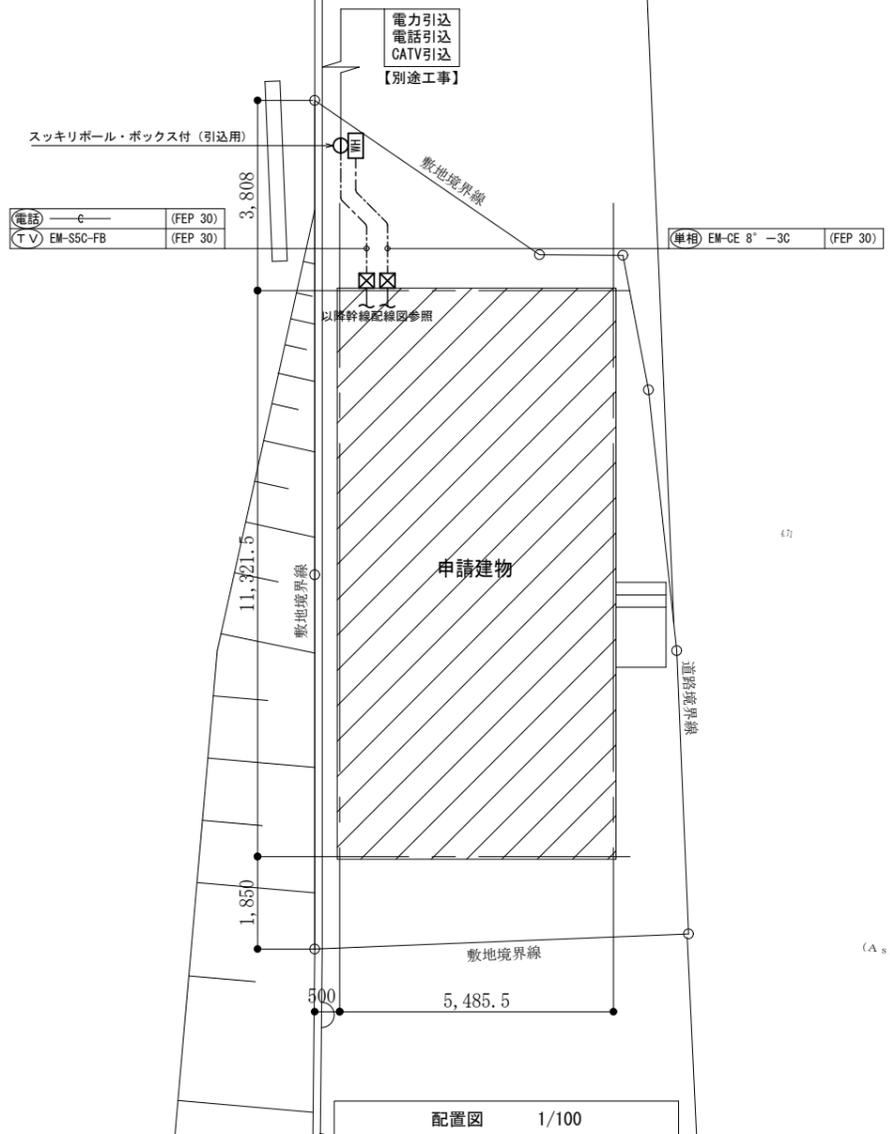
(1) 本工事に使用する機材等は、設計図面に定める品質及び性能他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。ただし、製造業者が記載されている場合に同等品を使用する場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。
また、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)に基づき策定された「広島県グリーン購入方針」に掲載されている品



スッキリポール・ボックス付 (電灯線 14mm² 用)

用途	電灯・情報 (CATV)・電話 (FEP)	
全長	7.0m	
表面処理	ポール本体	フローコート溶融塗膜めっき後ポリエチレン樹脂被覆
	ボックス	溶融塗膜めっき鋼板にポリエステル粉体塗装
色調	アイボリー又はコーヒーブラウン	
実用最大引き込み径間 (丙種風圧荷重)	1.5m以下	電灯 (DV 14mm ² x 3 ^φ)
		CATV (同軸ケーブル7C-2V)
		電話 (鋼芯入屋外線 0.65mm)

参考型番: パナソニック (株) XDTC0170W (A) 相当品



配置図 1/100

御注文先	御承認	記事	月日	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所 登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797 号 藤賀 光由 高木 洋志	校閲 藤本 矢野 設計 藤賀 高木	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 配置図	図面番号 E-002 縮尺 1/100
------	-----	----	----	---	--	-----------------------------------	----------------------------	-----------------	-----------------------------------	------------------------------

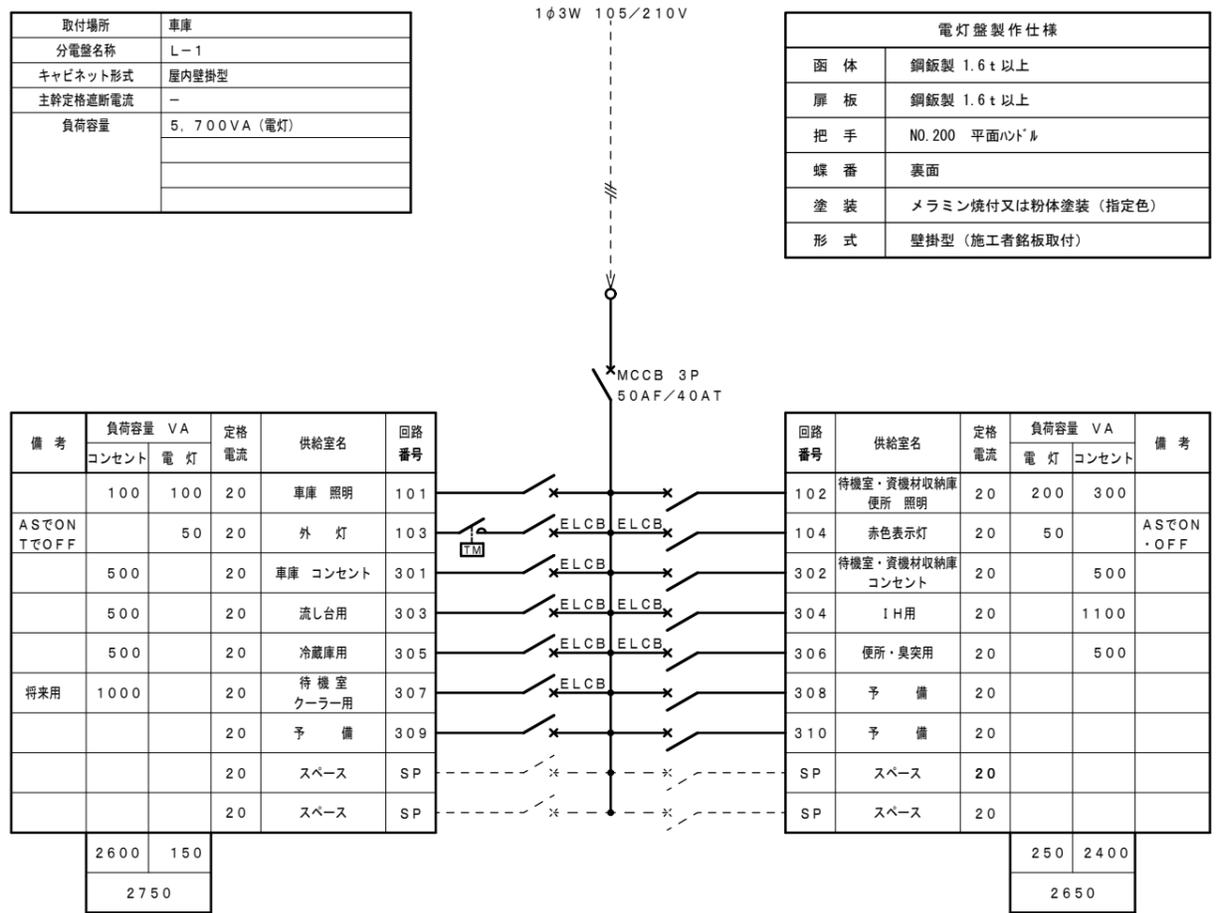
※A2版をA3版に縮小 (70.7%縮小)

照明器具姿図

1. 照明器具の消費電力はJIS C 8105-3の試験方法による。
2. ※のついた照明器具の消費電力は、一般社団法人日本照明器具工業会の試験方法による。

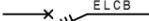
<p>A LED直付型40形 (車庫・資機材収納庫)</p> <p>一般タイプ、2500lmタイプ 消費電力16.3W、定格出力型、電圧100~242V 本体：鋼板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵</p>  <p>公共型番：LSS1-4-23</p>	<p>D LEDウォールライト 20形 防湿防雨型 (外壁)</p> <p>防湿型・防雨型 器具光束1020lm、消費電力10.2W、電圧100~242V 5000K、Ra83、光源寿命40000時間（光束維持率85%） 本体：ステンレス、カバー：ポリカーボネート（乳白） 天井直付型・壁直付型</p>  <p>公共型番：LBF3MP/RP-2-13</p>
<p>B LED直付型40形 (待機室)</p> <p>一般タイプ、5200lmタイプ 消費電力31.9W、定格出力型、電圧100~242V 本体：鋼板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵</p>  <p>公共型番：LSS1-4-48</p>	<p>E LED赤色表示灯 (外壁)</p> <p>電圧100V 光源寿命40000時間 防雨型</p>  <p>参考型番：パナソニック NNF20298Z</p>
<p>C LED直付型20形 (便所)</p> <p>一般タイプ、1600lmタイプ 消費電力11.6W、定格出力型、電圧100~242V 本体：鋼板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵</p>  <p>公共型番：LSS1-2-15</p>	

取付場所	車庫
分電盤名称	L-1
キャビネット形式	屋内壁掛型
主幹定格遮断電流	-
負荷容量	5,700VA (電灯)

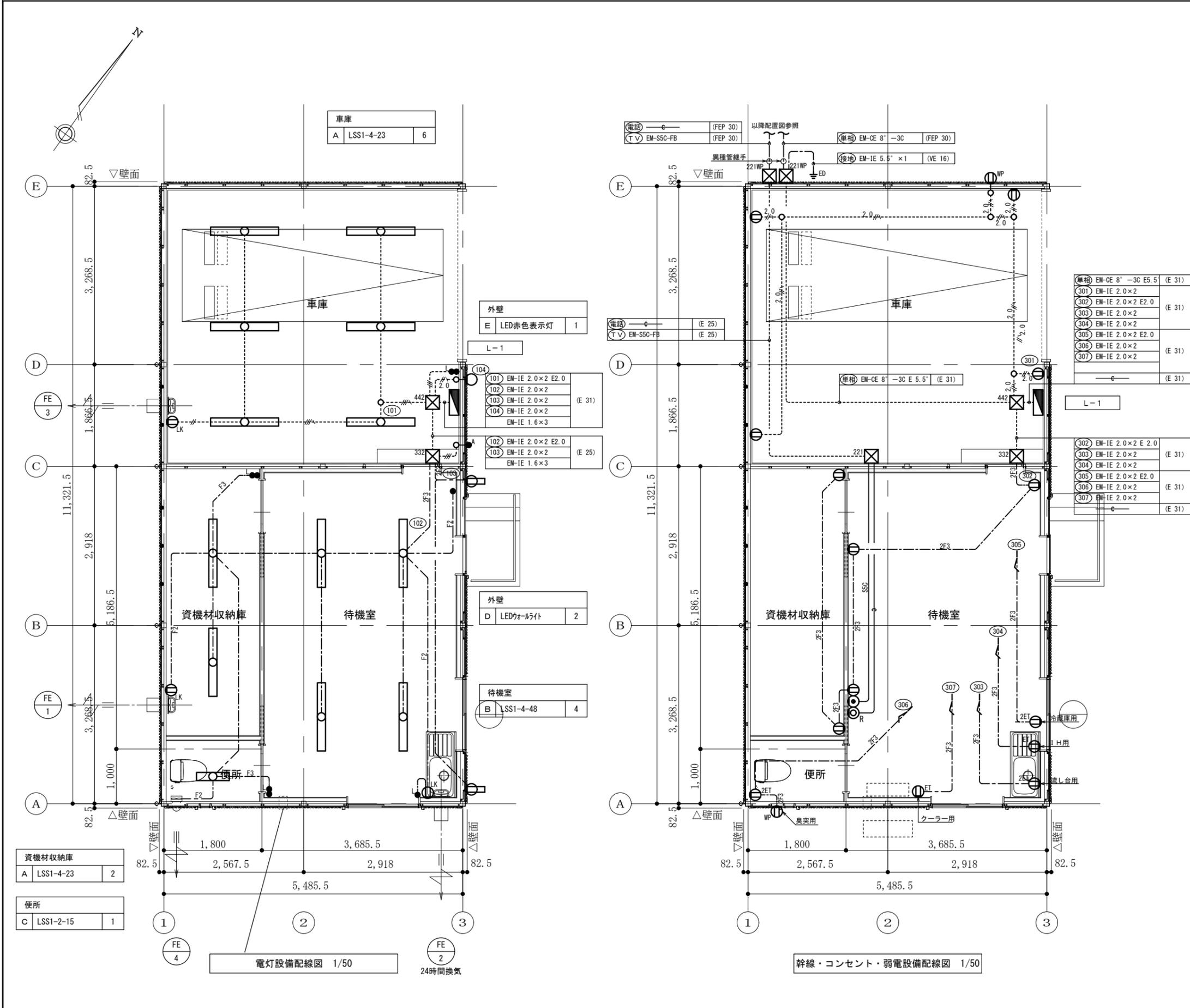


注 記（共通）

- 分岐用配線用遮断器、漏電遮断器は、2P（協約型1Pサイズ）とする。
- 分岐回路数分の接地端子又は銅帯を設ける。
- 分岐回路予備スペースには、ブレーカー取付可能最大分の切り込みを行いカバープレートを取り付けること。
- 盤内配線は、EM電線を使用する。
- タイマーは電子式24時間停電補償付とする。
- 図中特記なきものは下記による。

 MCCB (100Vは2P1E、200Vは2P2Eとする)
 ELCB (100Vは2P1E、200Vは2P2Eとする)
 MCCB 3P
 ELCB 3P

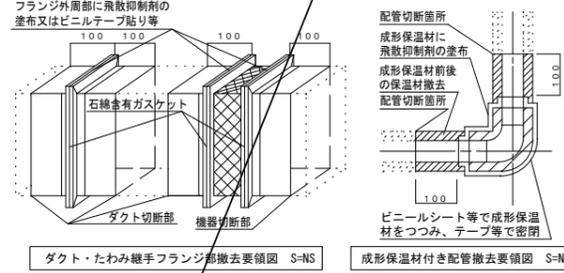
※A2版をA3版に縮小（70.7%縮小）



凡例		
記号	名称	備考
WH	電力量計箱 (スッキリボール付属品)	電力量計は別途工事
分電盤	分電盤	単線接続図参照
ED	接地極 (D種) 14φ×1,500L	接地埋設標示板 (黄銅製) 共
LED灯 (天井付)	LED灯 (天井付)	
LED灯 (壁付)	LED灯 (壁付)	
LED赤色表示灯 (壁付)	LED赤色表示灯 (壁付)	
埋込スイッチ 1P 15A×n	埋込スイッチ 1P 15A×n	
埋込スイッチ 1PL 15A×n (確認表示灯付)	埋込スイッチ 1PL 15A×n (確認表示灯付)	
自動点滅器 AC 100V	自動点滅器 AC 100V	AC100V 3A
埋込コンセント 2P 15A (E付) ×2	埋込コンセント 2P 15A (E付) ×2	
埋込コンセント 2P 15A (ET付) ×1	埋込コンセント 2P 15A (ET付) ×1	
埋込コンセント 2P 15A (E付) ×2	埋込コンセント 2P 15A (E付) ×2	
防水コンセント 2P 15A (ELK付) ×2	防水コンセント 2P 15A (ELK付) ×2	
抜止めコンセント 2P 15A×1LK	抜止めコンセント 2P 15A×1LK	
壁付電話用プレート	壁付電話用プレート	ノズルプレート
壁付テレビ用プレート (末端)	壁付テレビ用プレート (末端)	CS-7F-R
露出丸ボックス	露出丸ボックス	
ブルボックス (SS200°×100)	ブルボックス (SS200°×100)	
ブルボックス (SS300°×200)	ブルボックス (SS300°×200)	
ブルボックス (SS400°×200)	ブルボックス (SS400°×200)	
ブルボックス (SS200°×100WP-SUS)	ブルボックス (SS200°×100WP-SUS)	
配線特記事項		
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。		
EM-IE 1.6×2	(E 19)	
EM-IE 1.6×3	(E 19)	
EM-IE 1.6×2E1.6	(E 19)	
EM-IE 2.0×2E2.0	(E 25)	
EM-EEF 1.6-2C	(PF 22)	
EM-EEF 1.6-3C	(PF 22)	
EM-EEF 1.6-3C (内1Cアース)	(PF 22)	
EM-EEF 2.0-3C (内1Cアース)	(PF 22)	
EM-S5C-FB	(PF 16)	
空配管	(PF 16)	
2. 凡例		
(1) 二重天井内はケーブルがし配線とし、壁部等の必要箇所には適合電線管にて配線保護すること。		

御注文先	御承認	記事	月日	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-0	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所 登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797 号 藤本 光由 高木 洋志	校閲 藤本 矢野 設計 藤本 高木	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 幹線・電灯コンセント・弱電設備配線図	図面番号 E-004 縮尺 1/50
------	-----	----	----	---	--	-----------------------------------	----------------------	--------------	--	-----------------------

※A2版をA3版に縮小 (70.7%縮小)

<p>空 1. 設計用温湿度条件</p> <table border="1" data-bbox="460 157 875 241"> <tr> <th colspan="2">外 気 条 件</th> <th colspan="4">室 内 (調整目標値)</th> </tr> <tr> <th>温度(DB)</th> <th>湿度</th> <th>温度(DB)</th> <th>湿度</th> <th>温度(DB)</th> <th>湿度</th> </tr> <tr> <td>夏季 35.2℃</td> <td>64.6%</td> <td>28.0℃</td> <td>50%</td> <td>24.0℃</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>冬季 -0.2℃</td> <td>69.9%</td> <td>19.0℃</td> <td>40%</td> <td>24.0℃</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>2. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による</p> <p>3. 弁類</p> <p>4. 空調機用トランプ</p> <p>5. 鋼板製煙道</p> <p>6. ばい煙濃度計</p> <p>7. 冷却塔</p> <p>8. ユニット形 空気調和機</p> <p>9. ファンコイルユニット</p> <p>10. パッケージ形 空気調和機</p> <p>11. マルチパッケージ形 空気調和機</p> <p>12. 集中管理リモコン 個別リモコン</p> <p>13. 空気清浄装置</p> <p>14. オイルポンプ</p> <p>15. 開放形膨張タンク</p> <p>16. 地下オイルタンク</p> <p>17. オイルサービスタンク</p> <p>18. ダクト</p> <p>19. チャンパー等</p> <p>20. 吹出口・吸込口のボックス</p> <p>21. グリス除去装置</p> <p>22. 風量測定口</p> <p>23. 温度計</p> <p>24. 圧力計</p> <p>25. ダンパー</p> <p>26. 定風量・変風量 ユニット</p> <p>27. 冷温水管等のエア抜き</p>	外 気 条 件		室 内 (調整目標値)				温度(DB)	湿度	温度(DB)	湿度	温度(DB)	湿度	夏季 35.2℃	64.6%	28.0℃	50%	24.0℃	%	冬季 -0.2℃	69.9%	19.0℃	40%	24.0℃	%	<p>28. 消音内貼り</p> <p>29. 機器用基礎</p> <p>30. 空調用流体の水質基準</p> <p>31. フィルター等の予備品</p> <p>排 1. ダクト</p> <p>煙 2. 排煙口</p> <p>設 3. 排煙口開放及び 復旧方式</p> <p>備 4. 排煙風量測定</p> <p>自 1. システム構成・機能</p> <p>動 2. 自動制御機器</p> <p>制 3. 自動制御室</p> <p>御 4. 中央監視制御装置</p> <p>5. 計装工事の記録</p> <p>衛 ① 一般事項</p> <p>生 2. 小機器用節水装置</p> <p>器 3. 自動水栓</p> <p>具 ④ 大機器用洗浄弁</p> <p>設 ⑤ 温水洗浄便座</p> <p>備 ⑥ 器具と排水管接続</p> <p>7. 水栓</p> <p>給 ① 配管材料</p> <p>水 ※重複して適用の場合の 使用区分は図示による</p> <p>設 ② 弁類</p> <p>③ 量水器</p> <p>④ 量水器</p> <p>5. 定水位調整弁</p> <p>6. 緊急遮断弁装置</p> <p>7. 水栓柱</p> <p>8. 不凍水栓柱</p> <p>9. 水栓</p> <p>10. タンク</p> <p>11. 引込納付金等</p> <p>⑫ ⑬ のコウリト巻き</p> <p>排 ① 配管材料</p> <p>水 ※重複して適用の場合の 使用区分は図示による</p>	<p>1) 空調用の吹出口接続チャンパー及び図示したダクト並びにチャンパー類とする。</p> <p>2) 内貼りチャンパー類の寸法は、外法寸法とする。</p> <p>3) 吹出口接続チャンパー以外の内貼りしたチャンパーには点検口を取付ける。点検口の大きさは、原則として400×600とする。</p> <p>防振基礎の防振材及び振動絶縁効率は、標準仕様書および標準図によるほか、図示による。</p> <p>日本冷凍空調工業会(冷凍空調機器用水質ガイドライン)による。</p> <p>空気調和機器等又はフィルター等の装着枚数の100%を予備品(特付)として納める(ただし、給排水等の仕上り部分を除く。)(50%・100%)に当たるものを予備品(特付)として納める。</p> <p>自動巻き取り形及びグリスフィルターは装着単位の100%を予備品として納める。</p> <p>※ 垂鉛鉄板製 ・ 鋼板製(厚1.6mm)</p> <p>・ パネル形 (・ 天井取付 ・ 壁取付)</p> <p>・ スリット形 (・ 天井取付 ・ 壁取付)</p> <p>・ ダンパー形 (・ 天井取付)</p> <p>電気式(遠隔操作) ・ 不要 ・ 要)</p> <p>排煙口から手動開放装置への配線は、標準仕様書第4編1.5.1表4.1.1.1による耐熱・耐火ケーブルとする。</p> <p>建築設備定期検査業務基準書2016年版(一財)日本建築設備・昇降機センター)の排煙風量の検査方法に準ずる。</p> <p>図示による。</p> <p>調節器等の取付け高さは ※ 1300mm</p> <p>屋内用キャビネットは ※ 鋼板製 ・ ステンレス鋼板製</p> <p>・ 有り(構成機能は図示による) ・ 無し</p> <p>1) 屋外、屋内露出の配線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。</p> <p>天井隠への配線は、図面に特記のない限りケーブル配線とする。</p> <p>2) 原則として、次の用途に使用する電線類はEMケーブルとし、規格は一般共通事項19.電線類の規格による。</p> <p>(機器、配線はこれよりなるともよい)</p> <p>用途 ①電線、接地線</p> <p>②電気式の調節器(サーモ・ヒューミ等)用電線</p> <p>③各種検出器(温度・湿度等)、操作器(バルブ・ダンパー等)における弱電信号、通信線を除く制御線</p> <p>型番変更等により参考型番が変更又は廃止されている場合、参考型番の同等品とする。</p> <p>大便器、小便器には、標記板(アクリル板に印刷可)を取付ける。</p> <p>形式は(※ 小便器一体型 ・ 小便器分離型)とする。</p> <p>洗浄水量4リットル/回以下とする。</p> <p>※ 個別感知方式(※ AC電源 ・ 乾電池) ・ 手動式</p> <p>電源種別は ※ AC電源 ・ 自己発電 ・ 乾電池</p> <p>液体不自由用洗浄装置に設置の自動水栓に手動スイッチを、</p> <p>※ 設ける ・ 設けない</p> <p>操作方式 ・ 電気開閉式(・ センサー式 ・ タッチスイッチ式)</p> <p>※ 手動式</p> <p>洗浄水加熱方式は(・ 瞬間方式 ○ 貯湯方式)とし、付加機能は図示による。</p> <p>※ 標準図(施工63) ・ 標準図(施工64)</p> <p>・ 水栓は節水コマ付きを採用する。 ・ 水栓ハンドルは極力レバー式を採用する。</p> <p>1) 一般配管用 ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VB・FVB)</p> <p>○ 水道用硬質塩化ビニル管(HIVP) ・ 架橋ポリエチレン管</p> <p>2) 土間配管用 ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VD・FVD)</p> <p>○ 水道用硬質塩化ビニル管(HIVP) ・ 架橋ポリエチレン管</p> <p>3) 屋外土中用 ○ 水道用硬質塩化ビニル管(HIVP)</p> <p>○ 水道配水用ポリエチレン管 ・ 水道用ポリエチレン二層管</p> <p>4) ステンレス鋼管を使用する場合は下記の水質の確認を行う。</p> <p>電気伝導率、Mアルカリ度、カルシウムイオン、マグネシウムイオン、全硬度、重炭酸イオン、遊離酸、塩素イオン、硫酸イオン、シリカ、蒸発残留物</p> <p>1) 公営水道に直接する配管に使用するもの耐圧は、10Kとする。</p> <p>2) 受水タンク以降の配管に使用するもの耐圧は、5Kとする。</p> <p>3) 給水引込部の(・ 止水栓 ・ 弁類)は水道事業者指定品とする。</p> <p>1) 観米ーター ※ 借用 ・ 買取り(・ 直読 ・ 遠隔表示)</p> <p>2) ゼーター ※ 買取り ・ 借用(・ 直読 ・ 遠隔表示)</p> <p>現地表示式(直読式)の表示機構は ※ 湿式70°式 ・ 乾式70°式</p> <p>遠隔表示式は(※ バルブ式 ・ 電文式)発信器を備える。</p> <p>1) 観米ーター用 ※ 水道事業者の指定品 ・ 標準図(機材57)</p> <p>2) ゼーター用 ※ 標準図(機材57) ・ 水道事業者の指定品</p> <p>※ 標準仕様書による ・ 水道事業者指定品</p> <p>・ 定流量弁を定水位調整弁の手に設置する。</p> <p>遮断弁の駆動方式は(※ 電気式 ・ 機械式)とする。</p> <p>※ 合成樹脂製 ・ ステンレス製</p> <p>寸法 ※ 約70mm角長約1300mm ・ 図示による</p> <p>寸法 ※ 全長約1300mm ・ 図示による</p> <p>1) 屋外の水栓は ・ キー式ハンドル</p> <p>2) 台所流し用の水栓は泡沫式とする。</p> <p>給水栓用配管の接続口を(※ 設ける ・ 設けない)ものとする。</p> <p>2構式の場合は、連通管を設けるものとする。</p> <p>※ 別途工事 ・ 本工事</p> <p>弁類、散水栓等にはコウリト巻き仕上げとする。(但し舗装等の仕上げ部分は除く。)(施工の際は鉄筋又は、金網で補強を入れること。)</p> <p>1) 屋内汚水管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</p> <p>○ 建築用耐火性硬質ポリ塩化ビニル管(FS-VP)</p> <p>・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p> <p>2) 屋内雑排水管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</p> <p>○ 建築用耐火性硬質ポリ塩化ビニル管(FS-VP)</p> <p>・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p> <p>4) 通気管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</p> <p>○ 建築用耐火性硬質ポリ塩化ビニル管(FS-VP)</p>	<p>5) 屋外排水管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VU)</p> <p>○ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) (車道部)</p> <p>2. 排水金物</p> <p>3. 汚水、雑排水及び汚物用水モーターポンプ</p> <p>4. 接続納付金等</p> <p>5. 樹のコウリト巻き</p> <p>1. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による</p> <p>2. 弁類</p> <p>3. 保温</p> <p>1. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による</p> <p>2. 消火栓弁の耐圧</p> <p>3. 保温</p> <p>1) 屋内消火栓 一般配管用 ・ 配管用炭素鋼鋼管(白管) 地中埋設用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管ビット内 (SGP-VS)</p> <p>2) 連結送水管 一般配管用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40) 地中埋設用 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(STPG370-VS)</p> <p>3) 一般配管用 ・</p> <p>※ 10K ・ 16K</p> <p>1) 呼水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する</p> <p>2) 充水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する</p> <p>3) 消火栓の保温は、次のとおりとする。</p> <p>(屋外露出、寒冷地は保温種別 e2.(ハ)・VII による)</p> <p>・ 屋内消火栓 ※ 施工しない ・ 施工する</p> <p>・ スプリンクラー ※ 施工しない ・ 施工する</p> <p>・ 連結送水管 ※ 施工しない ・ 施工する</p> <p>・ 連結散水 ※ 施工しない ・ 施工する</p> <p>※ 広範囲型2号消火栓 ・ 2号消火栓</p> <p>※ 易操作1号消火栓 ・ 1号消火栓</p> <p>開閉弁の材質は ※ 鋳鉄製(要部鋼製) ・ ステンレス鋳物製</p> <p>箱の材質は ※ 鋼板製 ・ ステンレス鋼板製</p> <p>1. 都市ガス設備</p> <p>2. 配管材料 ※重複して適用の場合の使用区分は図示による</p> <p>3. ガス漏れ警報器</p> <p>4. 充てん容器</p> <p>5. バルク貯槽</p> <p>6. ガスメーター</p> <p>7. 容器廻りの配管</p> <p>8. 容器転倒防止</p> <p>1. 処理種別及び方式</p> <p>2. その他</p> <p>1. システム構成その他</p> <p>2. 配管材料</p> <p>3. 弁類</p> <p>4. 量水器</p> <p>5. 雨水電動遮断弁</p> <p>6. 網かご形スクリーン</p> <p>7. 薬液注入装置</p> <p>冷媒の回収方法について</p> <p>冷媒の回収方法は次による。回収費・処分費は(※ 本工事 ・ 別途工事)とする。</p> <p>(1) フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)に従って行い、監督職員に次の書類を提出する。</p> <p>・ 第1種フロン類回収業者の登録通知書(都道府県知事登録)の写し</p> <p>・ 事前確認書の写し ・ 回収依頼書の写し ・ 引取証明書・破壊証明書の写し</p> <p>(2) ルームエアコン等で、「特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)」の対象となっているものは、同法に従ってリサイクル(冷媒の回収は原則としてポンプダウンによる。)を行い、監督職員に次の書類を提出する。</p> <p>・ 特定家庭用機器廃棄物管理票(家電リサイクル券)の写し</p>	<p>石綿含有設備資材の処理について</p> <p>I. 石綿を含有する設備資材の撤去方法</p> <p>1. 工事受注者は、施工に先立ち以下の報告を行うこと。</p> <p>撤去に先立ち、「大気汚染防止法」の他「労働安全衛生法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建築基準法、建設リサイクル法、地方自治体による条例」等に基づき関係機関と協議を行い、監督職員に報告を行う。</p> <p>2. 各部位の撤去方法は、以下の内容及び撤去要領図を参考とし、監督職員に計画書を提出し承諾を得ること。</p> <p>(1) ダクトフランジ部</p> <p>ダクトフランジ部の撤去は、原則として切断による方法とする。</p> <p>1) ダクトの切断に先立ち、飛散防止措置としてダクトフランジ外周部分に、飛散抑制剤の塗布又はビニルテープ貼り等を施す。</p> <p>2) ダクトの切断は、フランジ部分の高約100mmの箇所において慎重に行う。</p> <p>3) ダクト片側の切断終了後、フランジ内周部分に外周同様に飛散防止措置を施し、もう片側の切断を行う。</p> <p>(2) たわみ継手フランジ部</p> <p>たわみ継手フランジ部の撤去は、原則として切断による方法とする。</p> <p>1) ダクト及び機器の切断に先立ち、飛散防止措置としてダクトフランジ外周部分に、飛散抑制剤の塗布又はビニルテープ貼り等を施す。</p> <p>2) ダクト及び機器の切断は、フランジ部分の高約100mmの箇所において慎重に行う。</p> <p>3) ダクト及び機器の切断終了後、フランジ内周部分に外周同様に飛散防止措置を施す。</p> <p>(3) 配管フランジ部</p> <p>配管フランジ部におけるガasket撤去は、原則として切断による方法とする。</p> <p>1) 配管の切断は、フランジ部分に於ける箇所において行う。</p> <p>(4) 成形保温材付き配管の曲線部</p> <p>成形保温材付き配管の曲線部の撤去は、原則として切断による方法とする。</p> <p>1) 配管の切断に先立ち、飛散防止措置として成形保温材に飛散抑制剤の塗布を施すと同時に、成形保温材前後の保温材を撤去する。</p> <p>2) ビニルシート等で成形保温材を包み配管表面でテープ止めとし閉鎖する。</p> <p>3) 配管の切断は、密閉部分の高約100mmの箇所において慎重に行う。</p> <p>II. 石綿を含有する設備資材の処理方法(※撤出費・運搬費・処分費は別途)</p> <p>(1) 処理に先立ち、関係機関と協議を行い監督職員に計画書を提出し承諾を得る。</p> <p>(2) 石綿含有廃棄物であることを表示すると共に、石綿飛散防止対策として「大気汚染防止法」の他、「労働安全衛生法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建築基準法、建設リサイクル法、地方自治体による条例」等に基づき撤去適切処理とする。</p> <p>(3) 積外搬出適切処理後、監督職員へ報告書を提出する。</p> <p>(4) 石綿含有設備機器については、施設管理者及び監督職員と協議の上、適切に処理を行う。</p> <p>フランジ外周部に飛散抑制剤の塗布又はビニルテープ貼り等</p>  <p>ダクト・たわみ継手フランジ部撤去要領図 S-NS</p> <p>成形保温材付き配管撤去要領図 S-NS</p> <p>建築物解体工事(機械設備の部)</p> <p>I. 工 事 概 要 (解体工事の部)</p> <p>1. 工 事 内 容 (解体工事の部)</p> <p>1) 特記仕様書(機械設備の部) I. 2. 建物概要に記載された取り壊し建物等の撤去を行う。</p> <p>2) 上記撤去範囲部分、地中埋設部分を含めて全て撤去する。</p> <p>3) 本工事による撤去機器、配管及び樹類は、場内の指定場所に集積する。(図面は参考とする)</p> <p>(1) 建物については、</p> <p>① 重機作業に影響のある以下の機器を、建築工事の重機作業に先行して撤去する。</p> <p>図示された機器のうち、太線またはハッチング等により明示されたもの。(コンクリート基礎の撤去は建築に含む。)</p> <p>② 人体及び地球環境に影響を及ぼす冷媒等の回収・破壊処理を行う。</p> <p>フロンガスは「冷媒の回収方法について」による。</p> <p>③ 熱油の残油はタンク及び配管内を含み回収し、適切に処理するものとし、</p> <p>※ 本工事 ・ 別途工事)とする。</p> <p>(2) その他の機器及び配管・ダクト類については、処理に関する記載のない事項は、全て重機による取り壊しとする。</p> <p>(3) 屋外埋設機器及び配管・樹類については全て撤去する。</p> <p>図示された樹類のうち、量水器樹、弁類、散水栓BOX、ため樹、インバート樹は、建築工事の重機作業後に機械設備にて撤去する。</p> <p>配管およびプラスチック樹は建築工事の重機作業に含む。</p> <p>(4) 給水、排水、ガス設備については指定工事店により、閉栓工事をを行う。</p> <p>(5) 撤去する配管、ダクト(付属品含む)の保温材の分離は原則として中間処理にて行う。</p> <p>6) 浄化槽内の汚泥採取、清掃、消毒を施工した後、撤去する。</p> <p>(浄化槽内の汚泥採取、清掃、消毒は施設管理者側で実施し本工事では実施しない)</p> <p>II. 工 事 仕 様 (解体工事の部)</p> <p>1. 特記仕様及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「建築物解体工事共通仕様書(平成31年版)」(以下、「解体共通仕様書」という。)により、解体共通仕様書に記載されていない事項は、特記仕様書(機械設備工事の部)による。</p>
外 気 条 件		室 内 (調整目標値)																										
温度(DB)	湿度	温度(DB)	湿度	温度(DB)	湿度																							
夏季 35.2℃	64.6%	28.0℃	50%	24.0℃	%																							
冬季 -0.2℃	69.9%	19.0℃	40%	24.0℃	%																							



御注文先	御承認	記事	月日	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所登録 18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797 号 藤本 光由 高木 洋志	校閲 藤本 矢野 設計 藤本 高木	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 衛生設備 配置図	図面番号 M-003 縮尺 1/200
------	-----	----	----	---	--	-----------------------------------	----------------------------	-----------------	--	------------------------------

※A2版をA3版に縮小(70.7%縮小)

新設器具リスト

器具名	型式	計	備考
簡易水洗洋風便器	ロータンク式(手洗付)、暖房洗浄便座(貯湯式)、止水栓、その他付属品一式共	1	
紙巻器	棚付二連紙巻器	1	
自在水栓	13A(自在・泡まつ水栓)	1	
流し台ユニット	建築工事(排水トラップ共)	1	
簡易水洗便槽	横型：容量580リットル(参考寸法 1500×745×1140) 付属品：嵩上げパイプ、マンホール(ロック式)、排気扇(臭突管セット(H=3.5m))、 配管セット(接続ソケット共)、固定バンド(2組)、自在継手他付属品一式 コンクリート基礎は別途建築工事	1	

特記事項

耐震措置は「建築設備耐震設計・施工指針」による。

給水及び排水は水道局及び下水道担当課の仕様準じて施工を行うこと。指導による変更工事は本工事にて行うこと。

給水の建物導入部の変位吸収措置を全箇所施工すること。

施工時において凍結の恐れがある配管には十分な凍結防止処置を行うこと(ガス給湯器廻り及び屋外水槽廻り等)。

埋設配管(給水管)には埋設表示杭及び埋設表示テープを設置すること。

各バルブには系統表示を設置すること。

雨水立管以降の埋設配管は本工事にて行うこと。

雨水側溝へ放流に伴う穴明補修は本工事とする。

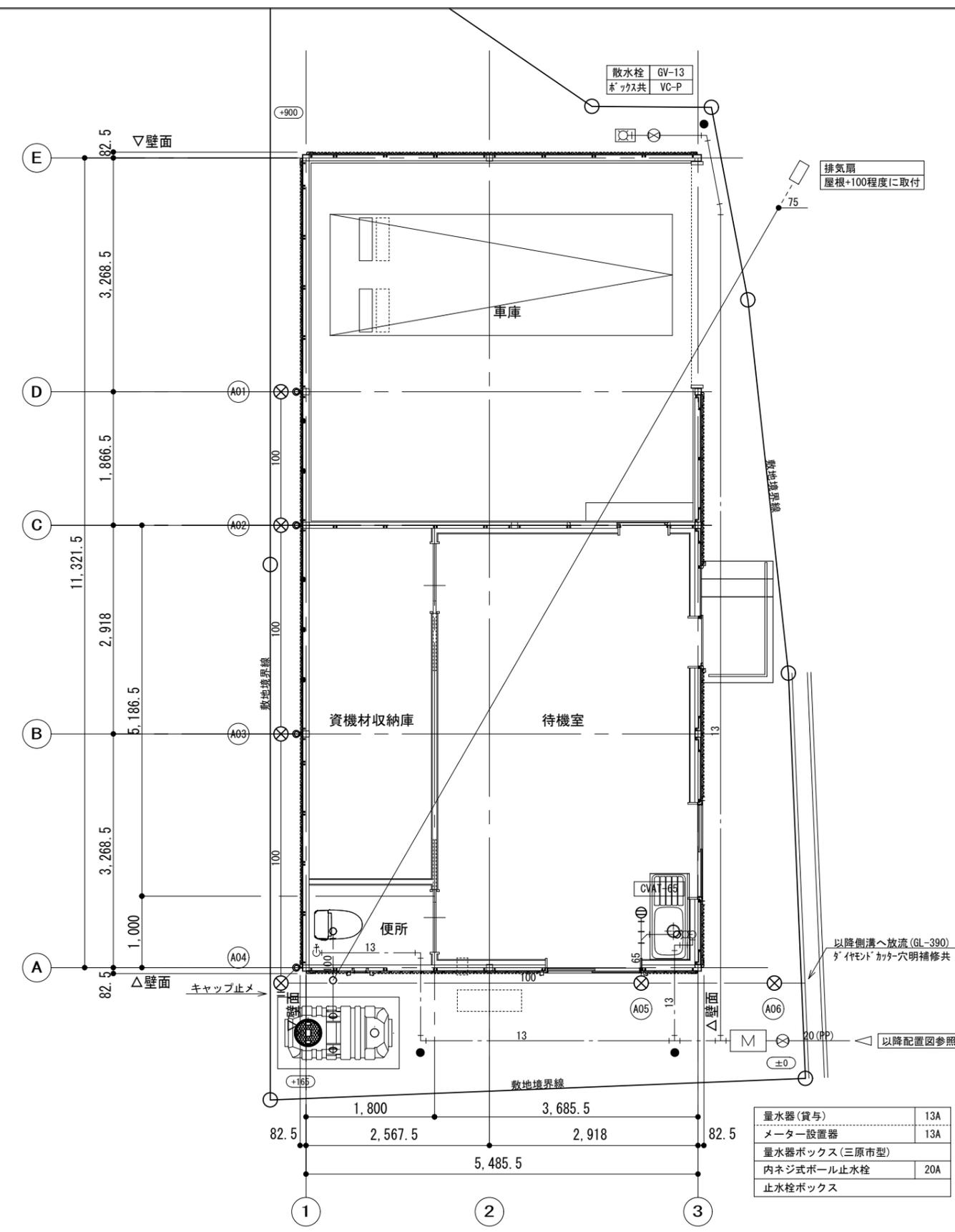
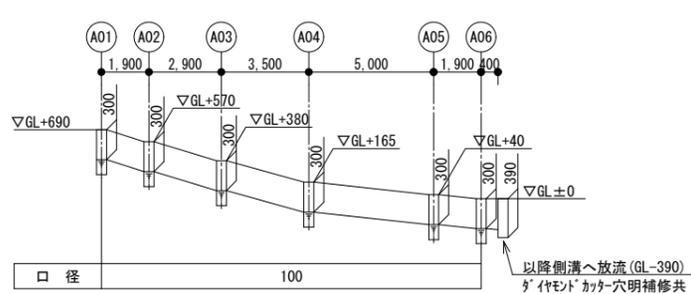
凡例

記号	名称	管種
— — — — —	給水管	水道用硬質ポリ塩化ビニル管 H I V P J I S K 6 7 4 2
— — — — —	給水管(引込管)	水道用ポリエチレン管 P P J I S K 6 7 6 2
— — — — —	汚水管	硬質ポリ塩化ビニル管 V P J I S K 6 7 4 1
— — — — —	雑排水管	硬質ポリ塩化ビニル管 V P J I S K 6 7 4 1
— — — — —	通気管	硬質ポリ塩化ビニル管 V P J I S K 6 7 4 1
●	埋設表示	埋設表示を示す

樹リスト

記号	名称	大きさ	深さ	備考
A01	小口径雨水樹	200φ	300	100-200 90L 格子蓋
A02	小口径雨水樹	200φ	300	100-200 90Y 格子蓋
A03	小口径雨水樹	200φ	300	100-200 90Y 格子蓋
A04	小口径雨水樹	200φ	300	100-200 90YW 格子蓋
A05	小口径雨水樹	200φ	300	100-200 90Y 格子蓋
A06	小口径雨水樹	200φ	300	100-200 ST 格子蓋

雨水勾配図



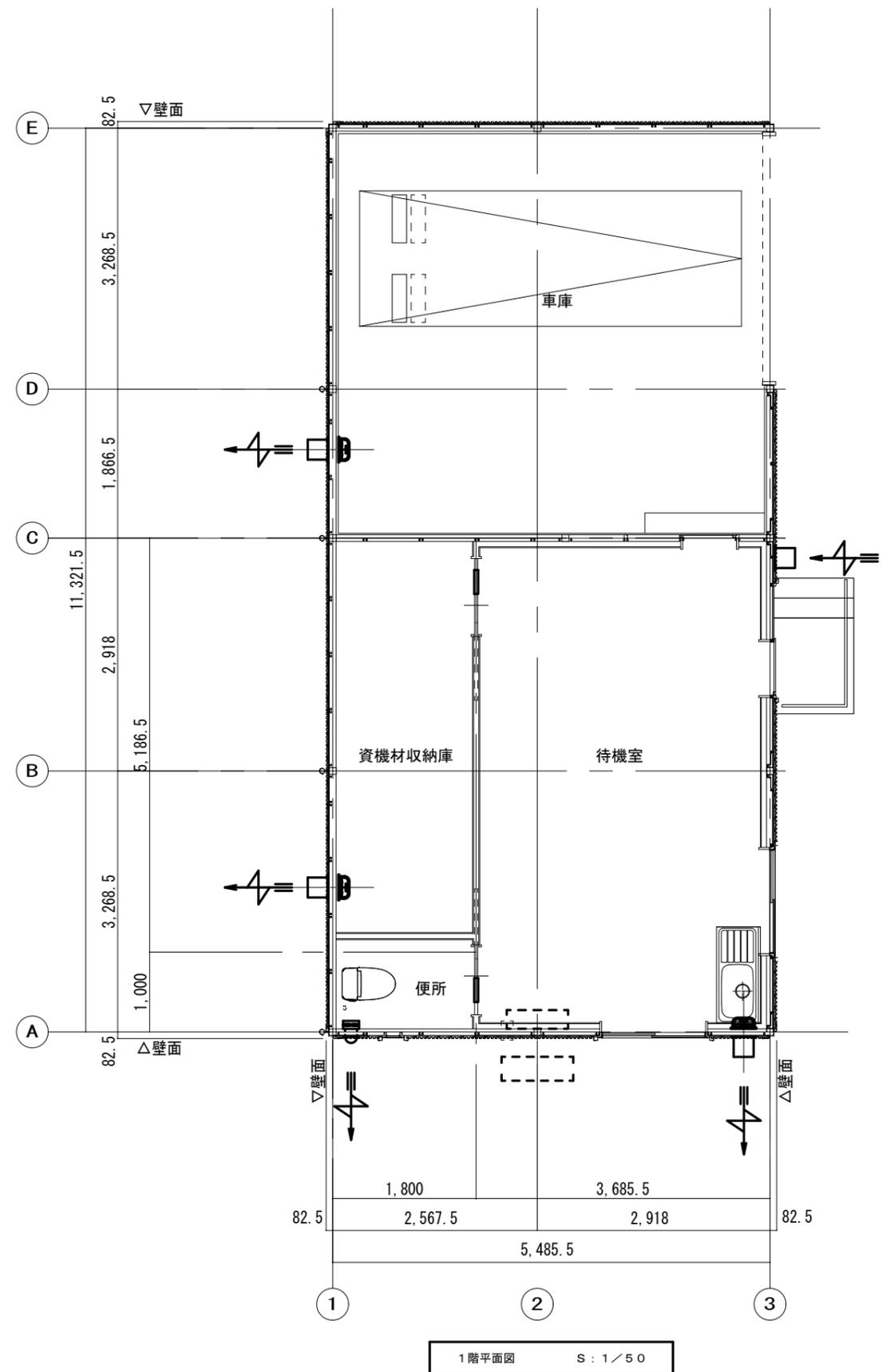
御注文先	御承認	記事	月日	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所 登録18(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 315797 号 藤本 光由 高木 洋志	校閲 藤本 光由 設計 藤本 光由	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 衛生設備 機器表・凡例・樹リスト・勾配図・1階平面図	図面番号 M-004 縮尺 1/50
------	-----	----	----	---	--	--------------------------------------	----------------------------	-----------------	--	-----------------------------

※A2版をA3版に縮小 (70.7%縮小)

機器表						
記号	名称	仕様	電源	台数	設置場所	備考
FE 1	有圧換気扇	格子タイプ	1φ100V	1	資機材収納庫	
		処理風量 20cm × 100m ³ /h × 20Pa				
		付属品 排気用: 200 ^φ 用ステンレス製ケージカバー(焼付塗装、防虫網)、取付枠共				
FE 2	有圧換気扇 (24時間換気)	格子タイプ	1φ100V	1	待機室	
		処理風量 20cm × 300m ³ /h × 20Pa				
		付属品 排気用: 200 ^φ 用ステンレス製ケージカバー(焼付塗装、防虫網)、取付枠共 給気用: 200 ^φ 用ステンレス製ケージカバー(焼付塗装、防虫網)、取付枠共				
FE 3	有圧換気扇	格子タイプ	1φ100V	1	車庫	
		処理風量 20cm × 400m ³ /h × 20Pa				
		付属品 排気用: 200 ^φ 用ステンレス製ケージカバー(焼付塗装、防虫網)、取付枠共				
FE 4	換気扇	パイプ用ファン	1φ100V	1	便所	
		処理風量 40m ³ /h × 10Pa				
		付属品 排気用: 100φ用SUS製深型フード(防虫網・焼付塗装共)				

特記事項
換気用機器の1次側電源工事は、電気工事とする。
換気用のスイッチ(取付・ボックス共)・配管・配線は電気工事とする。
換気用スイッチが電気工事の場合、設置機器に使用可能なことを確認しておくこと。
ウェザーカバーと外壁面との隙間から雨水が侵入しないよう防水対策を十分に行うこと。

シックハウス換気計算							
階	室名	床面積 (m ²)	天井高 (m)	換気 回数	必要風量 (m ³ /h)	換気扇風量 (m ³ /h)	判定
1	待機室	22.8	2.125	0.3	14.535	300(FE-2)	○



御注文先	御承認	記事	中電技術コンサルタント株式会社 <small>広島市南区東山町 9番9号 TEL (082) 293-8811</small>	建設コンサルタント登録 建26第378号 1級建築士事務所登録 18(1)第1252号 1級建築士登録 第293685号 藤本 誠二	1級建築士登録 第315797号 藤原 光由 高木 洋志	校閲 藤本 誠二 設計 藤原 光由	設計年月日 2022.9	工事名称 木原分団屯所建設工事 図面名称 換気設備 機器表・1階平面図	図面番号 M-005 縮尺 1/50
------	-----	----	---	--	---------------------------------	----------------------	--------------	--	-----------------------

参考数量書

工事名称 木原分団屯所建設工事

工事場所 三原市木原四丁目

[工事概要]

用途, 構造, 面積	屯所, 鉄骨ユニット構造, 延床面積62.1㎡	
工事範囲	建築工事一式	
別途工事	無し	
工期	契約締結日の翌日 ~ 令和5年3月27日	
一般事項		
《 工事予算内訳 》		
〈内 訳〉		
区分		概要
設計金額		
消費税額		
合計金額		

工事費内訳

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
機械設備工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		
調査基準価格	1	式		

建築工事 中科目別内訳

屯所					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					
土工		1	式		
計					
地業	地業	1	式		
計					
鉄筋	躯体	1	式		
計					
コンクリート	躯体	1	式		
計					
型枠	躯体	1	式		
計					
建具	鋼製軽量建具	1	式		
建具	ガラス	1	式		
計					

建築工事 中科目別内訳

屯所					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
塗装	内部	1	式		
計					
金属	外部	1	式		
金属	内部	1	式		
計					
左官	内部	1	式		
計					
内外装	内部	1	式		
計					
ユニット及びその他	外部	1	式		
計					
構内舗装		1	式		
計					
撤去		1	式		

電気設備工事 中科目別内訳

屯所					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
電灯設備	電灯幹線	1	式		
電灯設備	電灯分岐	1	式		
電灯設備	コンセント分岐	1	式		
計					
構内交換設備		1	式		
計					
テレビ共同受信設備		1	式		
計					
構内配電線路	電力引込み	1	式		
計					
構内通信線路	通信引込み	1	式		
計					

建築工事 別紙明細

屯所		ユニット及びその他			外部	
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ガレージユニット		1	式			別紙 00-0001
ガレージユニット 本体費	基本棟 3355H 目隠し	1	か所			
ガレージユニット 本体費	追加棟 3055H 目隠し	1	か所			
ガレージユニット 本体費	追加棟 1955H 目隠し	1	か所			
ガレージユニット 本体費	追加棟 3355H シャッター 文字書き共	1	か所			
間仕切り壁	55H	1	か所			
シャッター延長	200mm	1	か所			
引き戸		2	か所			
窓サッシ	透明ガラス3mm共	2	か所			
FIX窓付パネル		1	か所			
トイセット		1	式			
運搬費		1	式			
本体組立費	4 連棟	1	式			
間仕切り壁 取付 費		1	式			
引き戸 取付費		1	式			

建築工事 別紙明細

屯所		ユニット及びその他		外部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ガレージユニット		1	式			別紙 00-0001
窓サッシ 取付費		1	式			
トイレセット 取付費		1	式			
オーバーコート	外装 片側面 奥行55 銀黒	2	面			
オーバーコート	外装 後・前面 奥行33 銀黒	3	面			
オーバーコート	外装 後・前面 奥行30 銀黒	2	面			
オーバーコート	外装 後・前面 奥行19 銀黒	2	面			
シーリングコート	天井3055 ベーシックカラー 断熱材共	1	面			
シーリングコート	天井3355 ベーシックカラー 断熱材共	1	面			
シーリングコート	開口部用役物 外装 片面	4	か所			
運搬費	オーバーコート・シーリングコート	1	式			
オーバーコート取付費		1	式			
シーリングコート取付費		1	式			
開口部加工費		4	か所			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		電灯設備		電灯幹線		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
電線		1	式			別紙 00-0010
600V耐燃性ポリエチレン絶縁電線 (EM-IE)	5.5mm ²	10	m			
計						
ケーブル		1	式			別紙 00-0011
EM-CEケーブル	8mm ² - 3C 管内	10	m			
計						
電線管		1	式			別紙 00-0012
ねじなし電線管 (E)	露出配管 (塗装有) 31mm	10	m			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		電灯設備		電灯分岐		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
分電盤		1	式			別紙 00-0013
分電盤	L-1	1	面			
計						
LED灯		1	式			別紙 00-0014
LED照明器具	LSS1 -4 -23 LN	8	個			
LED照明器具	LSS1 -4 -48 LN	4	個			
LED照明器具	LSS1 -2 -15 LN	1	個			
LED照明器具	LBF3MP/RP -2 -13 LN	2	個			
LED照明器具	LED赤色表示灯	1	個			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		電灯設備			電灯分岐	
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
配線器具		1	式			別紙 00-0015
タンブラスイッチ (金属プレート付)	1P 15A ×1 ネーム無 - -	1	個			
タンブラスイッチ (金属プレート付)	1P L 15A ×1 ネーム付 - -	1	個			
タンブラスイッチ (金属プレート付)	1P 15A ×1 ネーム無 PL ×1 -	3	個			
自動点滅器	3A プラグイン	1	個			
コンセント (金属プレート付)	連用形2P15A×1 (抜止め) 125V	3	個			
計						
電線		1	式			別紙 00-0016
600V耐燃性ポリエチレン絶縁電線 (EM-IE)	1.6mm	59	m			
600V耐燃性ポリエチレン絶縁電線 (EM-IE)	2.0mm	22	m			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		電灯設備		電灯分岐		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
電線管		1	式			別紙 00-0018
合成樹脂製可とう電線管 (PF単層)	隠ぺい・埋込配管 16mm	5	m			
合成樹脂製可とう電線管 (PF単層)	隠ぺい・埋込配管 22mm	1	m			
ねじなし電線管 (E)	露出配管(塗装有) 19mm	16	m			
ねじなし電線管 (E)	露出配管(塗装有) 25mm	3	m			
ねじなし電線管 (E)	露出配管(塗装有) 31mm	1	m			
計						
ボックス類		1	式			別紙 00-0019
合成樹脂製 アウトレットボックス(カバー付)	中四角 浅型 D44	12	個			
金属製 露出丸形ボックス (塗装共)	25(22) 1方出	2	個			
金属製 露出丸形ボックス (塗装共)	25(22) 3方出	1	個			
金属製 露出スイッチボックス (塗装共)	25(22) 1個用1方出	2	個			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		電灯設備		コンセント分岐		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
配線器具		1	式			別紙 00-0020
コンセント (金属プレート付)	連用形2P15A×2 (接地極×2付 一体形) 125V	10	個			
コンセント (金属プレート付)	連用形2P15A×1 (接地端子付 一体形) 125V	2	個			
コンセント (金属プレート付)	連用形2P15A×2 (接地端子付 一体形) 125V	3	個			
防水コンセント	2P15A×2 (×3)・接地端子付	2	個			
計						
電線		1	式			別紙 00-0021
600V耐燃性ポリエチレン 絶縁電線(EM-IE)	2.0mm	130	m			
計						
ケーブル		1	式			別紙 00-0022
600Vポリエチレン絶縁 耐燃性ポリエチレンシース ケーブル平形 EM-EEF	2.0mm- 3C ビット・天井	44	m			
600Vポリエチレン絶縁 耐燃性ポリエチレンシース ケーブル平形 EM-EEF	2.0mm- 3C FEP内(PF・CD)	27	m			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		電灯設備		コンセント分岐		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
電線管		1	式			別紙 00-0023
合成樹脂製可とう電線管 (PF単層)	隠ぺい・埋込配管 22mm	27	m			
ねじなし電線管 (E)	露出配管(塗装有) 25mm	29	m			
ねじなし電線管 (E)	露出配管(塗装有) 31mm	8	m			
計						
ボックス類		1	式			別紙 00-0024
合成樹脂製アウトレットボックス(カバー付)	中四角 浅型 D44	11	個			
金属製露出丸形ボックス(塗装共)	25(22) 3方出	5	個			
金属製露出スイッチボックス(塗装共)	25(22) 1個用1方出	4	個			
プルボックス	SS 300° ×200	1	個			
プルボックス	SS 400° ×200	1	個			
平板塗装		1.2	m ²			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		構内交換設備				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
電話用アウトレット		1	式			別紙 00-0025
フラッシュプレート (金属製)	角型 ハメ	1	個			
計						
電線		1	式			別紙 00-0026
導入線		7	m			
導入線 (PF管内)		6	m			
計						
電線管		1	式			別紙 00-0027
合成樹脂製可とう 電線管 (PF単層)	隠ぺい・埋込配管 16mm	6	m			
ねじなし電線管 (E)	露出配管 (塗装有) 25mm	7	m			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		テレビ共同受信設備				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
直列ユニット		1	式			別紙 00-0029
直列ユニット (金属プレート)	CS- 7F- RWE	1	個			
計						
ケーブル		1	式			別紙 00-0030
EM同軸ケーブル	EM-S-5C-FB 管内	7	m			
EM同軸ケーブル	EM-S-5C-FB FEP内(PF・CD)	7	m			
計						
電線管		1	式			別紙 00-0031
合成樹脂製可とう 電線管 (PF単層)	隠ぺい・埋込配管 16mm	7	m			
ねじなし電線管 (E)	露出配管(塗装有) 25mm	7	m			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		構内配電線路		電力引込み		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
電線		1	式			別紙 00-0033
600V耐燃性ポリエチレン絶縁電線 (EM-IE)	5.5mm ²	4	m			
計						
ケーブル		1	式			別紙 00-0034
EM-CEケーブル	8mm ² - 3C 管内	7	m			
EM-CEケーブル	8mm ² - 3C FEP内 (PF・CD)	5	m			
計						
電線管		1	式			別紙 00-0035
硬質ビニル電線管 (VE)	隠ぺい・埋込配管 16mm	4	m			
厚鋼電線管 (G)	露出配管 (塗装有) 28mm	3	m			
波付硬質合成樹脂管 (FEP)	(30)	5	m			
異種管継手	FEP 30用	1	組			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		構内配電線路		電力引込み		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ボックス類		1	式			別紙 00-0036
プルボックス	SS 200° ×100 WP-SUS	1	個			
平板塗装		0.2	m ²			
計						
接地工事		1	式			別紙 00-0037
接地極 (銅覆鋼棒打込式)	14φ ×1.5m	1	か所			
接地極埋設標	金属製	1	枚			
計						
鋼管柱		1	式			別紙 00-0038
スキリホール	ボックス付	1	基			
計						

電気設備工事 別紙明細

屯所		構内通信線路		通信引込み		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ケーブル		1	式			別紙 00-0040
EM同軸ケーブル	EM-S-5C-FB 管内	7	m			
EM同軸ケーブル	EM-S-5C-FB FEP内(PF・CD)	5	m			
計						
電線管		1	式			別紙 00-0041
厚鋼電線管(G)	露出配管(塗装有) 28mm	5	m			
波付硬質合成樹脂管(FEP)	(30)	5	m			
異種管継手	FEP 30用	1	組			
計						
ボックス類		1	式			別紙 00-0042
プルボックス	SS 200° ×100 WP-SUS	1	個			
平板塗装		0.2	m ²			
計						

